仙台市文化財調査報告書第127集

上野遺跡

—電力鉄塔関係発掘調査報告書—

1989年3月

仙台市教育委員会

上野遺跡
U WA NO

平成元年３月

仙台市教育委員会

序　　文

上野遺跡は以前より縄文時代中期の集落遺跡として知られています。今回ここに報告するのは上野遺跡の一側面であり、全容でありません。この調査のきっかけとなったのは、東北電力の送電用鉄塔の改築で、面積は小さいものの多量の遺物が出土し、多くの遺構が発見されました。調査は昨年度実施したものですが、予想をはるかに上回る遺構、遺物が発見されたため、整理、報告書刊行については今年度事業とすることになり、ようやくここに公開することができました。この間、東北電力株式会社宮城支店の担当者の方々はもとより、地元の皆様及び調査や整理作業にたずさわっていただいた多くの方々のご協力を得ましたことに対しまして、心より御礼申し上げる次第であります。

上野遺跡は名取川が丘陵地より平野地に流れ込むところに位置しており、仙台市内ではこの川沿いに西から人来田遺跡、山田上ノ台遺跡、上野遺跡と縄文中期の大遺跡が並んでいるという特徴ある位置付けのされるところにあります。今後とも、この遺跡の調査、研究が進み、周辺縄文遺跡との関連もとらえられていくことと思います。

この周辺は縄文時代のみならず各時代の遺跡も多数存在しています。このような遺跡は無意識にも今まで文化遺産として、土地に刻まれた形で継承されて来ました。この変化の激しい時代ですから、これからは意識して「まちづくり」の中に、どのように文化遺産を取り込んでいくか市民が知恵を出し合っていく必要が感じられます。

今後とも市民各位の絶大なるご協力を念願しまして序といたします。

平成元年３月

仙台市教育委員会

教育長　藤井　　黎

例　　言

1．本書は電力鉄塔改築工事に伴う上野遺跡の発掘調査報告書である。

2．本報告書作成にあたり、次のとおり分担して行った。

本文執筆　　結城慎一

遺物の分類・観察表作成・実測・トレース指導　主浜光朗

遺構トレース　結城慎一

遺物実測　　土器：奥山直美、小佐野章子、高村朋子、三浦芳江

石器：遠藤深雪、佐久間広恵、根本展江

断面：相沢義徳、庄子錦一郎、外川みつ子、谷津和広、吉田りつ子

遺物トレース　奥山直美、佐久間広恵、高村朋子、根本展江、増田瑞枝、三浦芳江、谷津和広

遺構写真撮影　結城慎一

遺物写真撮影　結城慎一

遺物採拓　　外川みつ子、吉田りつ子

遺物補修復元　庄子錦一郎

編集　　主浜光朗、結城慎一

3．本書中の方位は磁北で統一して記載してある。なお磁北は真北より西偏約7°20′である。

4．本書図中の水糸高は標高（m）を表わしている。

5．本書第1図の地形図は国土地理院発行2万5千分の1「仙台西南部」の一部を縮小して使用した。

6．遺構略号は以下のとおりである。

SK：土　　坑　　SD：溝跡・溝状遺構　　P：ピット

7．本書中の土色は「新版標準土色帖」(小山・竹原1973)を使用した。

8．調査から報告書作成に要した費用は、東北電力株式会社宮城支店で負担した。

9．本調査に関わる出土遺物、実測図、写真等は仙台市教育委員会が一括して保管している。

調　査　要　項

遺跡名称　上野遺跡（仙台市文化財登録番号Ｃ－108）

所 在 地　仙台市富田字上野中129－３

調査主体　仙台市教育委員会

調査担当　仙台市教育局社会教育部文化財課調査係

担当職員　主任　結城滇一（調査・整理）　　主事　主浜光朗（整理）

調査期間　昭和62年５月６日～６月18日（延32日）

整理期間　昭和62年８月17日～８月31日（延11日）

昭和63年８月15日～平成元年２月７日（延147日）

調査対象面積　100㎡

調査実施面積　100㎡

工事主体　東北電力株式会社宮城支店

調査協力　板橋徳治

種子同定　東北大学農学部教授・星川清親、技官・庄子駒男

骨片同定　東北大学文学部院生・佐々木務（考古学）

石質同定　仙台市科学館主幹・佐々木隆

調査参加者　阿部あき子　板橋孝子　加藤けい子　高橋とみ子　豊村幸宏　小川良子　渡辺節子

整理参加者　相沢義徳　遠藤深雪　奥山直美　小佐野章子　佐久間広恵　庄子錦一郎
鈴木久子　鈴木美和　外川みつ子　高村朋子　根本展江　林琢也　増田瑞枝
三浦芳江　谷津和広　吉田りつ子　渡部晃子　（以上昭和63年度）
赤井沢進　赤井沢千代子　石堂恵弥　大内健一　大槻明美　小沼ちえ子　斎藤堅勝
下山田俊之　鈴木進　田中千江　（以上昭和62年度）

本 文 目 次

序文

例言

調査要項

Ⅰ．調査に至る経過……1

Ⅱ．遺跡の位置と周辺の環境……1

1．地理的環境……1

2．歴史的環境……1

Ⅲ．調査の方法と経過……2

Ⅳ．調査区の基本層位……4

Ⅴ．発見遺構と遺物……13

1．土坑……13

2．ピット……49

3．溝跡・溝状遺構……49

4．土壌サンプルについて……49

Ⅵ．まとめと若干の考察……50

石器実測図……55

土製品実測図……80

遺構写真……81

遺物写真（土器）……92

〃　（石器）……109

〃　（土製品）……114

Ⅰ　調査に至る経過

昭和57年11月、東北電力株式会社宮城支店から、既設送電線鉄塔を改築する釜房支線の増強工事事業計画が提示され、昭和59年10月から工事着工とのことであった。釜房支線の鉄塔位置を見ると、No.1～No.13とNo.32が遺跡範囲内もしくは遺跡隣接地にかかっていたため、東北電力株式会社側と協議を行い、昭和59年度（1次調査）と昭和60年度（2次調査）に事前調査を実施した。その結果、鍛冶屋敷A遺跡の西側隣接地に当たるNo.4鉄塔の場所で平安時代の住居跡等が発見され、上野遺跡内になるNo.7鉄塔の箇所で縄文時代中期の遺構が発見された。このうちNo.7鉄塔箇所は確認調査のみで、本調査は後日ということになった。

No.7鉄塔箇所は昭和62年度に本調査を実施することになり、62年3月、4月と協議、準備等を進め、連休の明けた5月6日より発掘調査に入った。

Ⅱ　遺跡の位置と周辺の環境

1．地理的環境

上野遺跡は、ＪＲ仙台駅より南西に約6.5km、長町駅より西に約3.5km離れた仙台市高田字上野地内に所在している。本遺跡の周辺地形は、北側が青葉山丘陵が西から東へ向って伸び、南側には名取川を挟んで高館丘陵が位置している。

本遺跡は、この青葉山丘陵と高館丘陵の間に広がる標高40～25mの「名取台地（山田面）」と称される河岸段丘の東端部に位置している。遺跡部分は、周囲より更に4～8mほど小高くなっており、段丘礫層を基盤とし、その上に堆積した黄褐色火山灰層とによって形成されている。遺跡の面積は約30万㎡にも及んでいる。

現在、遺跡範囲内には上野地区の集落や畑が営なまれ、一段低い周辺部は水田地帯となっている。

2．歴史的環境

仙台市南西部の名取川北岸地域は、本遺跡をはじめ各時代の遺跡が数多く分布している所である。本遺跡は既に大正の頃から存在が知られていたが、昭和51年度の発掘調査で、縄文時代中期の住居跡などが確認されている。以下各時代ごとに周辺の遺跡を概観していきたい。

旧石器時代の遺跡は、青葉山丘陵から南に張り出した西方の小支丘端部に山田上ノ台遺跡、北前遺跡がある。縄文時代になると、西方から、大米田遺跡、山田上ノ台遺跡、北前遺跡、上野遺跡と続いて来て、北東方向の青葉山丘陵小支丘（俗称：三神峯丘陵）には三神峯遺跡がある。また東方の宮沢地区の自然堤防上には山口遺跡、下ノ内遺跡、六反田遺跡、下ノ内浦遺跡、

第1図　上野遺跡と周辺の縄文遺跡

伊古田遺跡が存在する。弥生時代のものとしては東方の富沢遺跡で水田跡が発見されているほか、南東側に南ノ東遺跡、南西側に船渡前遺跡がある。

古墳時代の遺跡のうちでも古墳は丘陵裾部に三神峯古墳、裏町古墳などが北東部に展開し、笊川を挟む富沢、大野田地区の自然堤防上には、教塚古墳、春日社古墳、王ノ壇古墳などが知られている。奈良、平安時代のものは、前述の富沢、大野田地区の自然堤防上に立地する山口遺跡や六反田遺跡などで集落跡が確認されているほか、富沢遺跡でも水田跡が発見されている。また周辺部には鍛冶屋敷A、B遺跡、八幡西遺跡などがある。中世では、東方に戦国時代の富沢館跡がある。

Ⅲ　調査の方法と経過

○表土排除（5月6日）

トラックバックホーで表土排除。平均の深さ60cm。調査区南東部半分は天地がえし深く、その他は遺物が多い。

○天地がえし等の撹乱の掘り上げ（5月6日～8日）

○**遺構確認の荒削り**（５月８日～15日）

ＳＫ１～10、ＳＤ１を確認し、検出状況の写真撮影。半裁掘り下げ開始。

○**北西部包含層部分の掘り下げ**（５月16日～６月１日）

ＳＫ11～24、ＳＤ２の全遺構確認する。順次、半裁掘り下げ実施。切り合い不明のものも、この段階であり。

○**土坑断面実測開始**（５月19日）

既存鉄塔北東コンクリート脚台コーナーをK.B.Mとし、土坑断面実測を開始。20分の１。

○**平板実測**（５月20日）

全体を40分の１で平板実測し、土坑の配置及び溝の配置を図化した。

○**平面実測開始**（５月27日）

全体をＡ、Ｂ、Ｃ、Ｄ区に４分割し、平面実測を開始する。20分の１。

○**住民現場説明会**（６月11日～13日）

３日間、地元の人を対象に説明会を午後２時から開催する。

○**完掘全体写真撮影**（６月12日）

○**遺構検出面以下の掘り下げ**（６月12日～15日）

Ｃ－３区に３×３ｍのグリットを設定し、掘り下げる。基本層位及び旧石器の存否を確認するため。

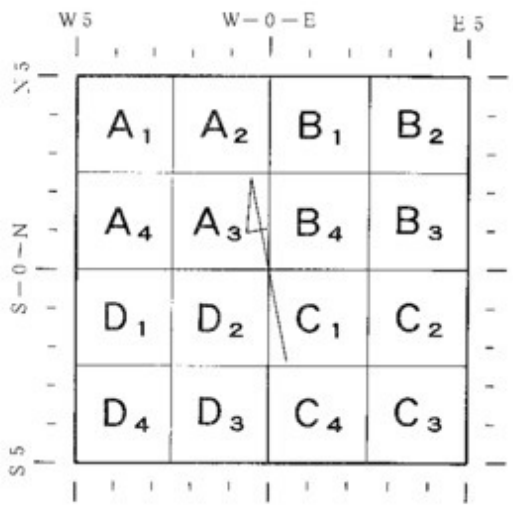
○**調査区北、西壁（断面）実測**（６月13日～15日）

○**Ｃ－３区掘り下げ箇所の写真撮影、実測**（６月16日）

○**埋め戻し**（６月17日）

○**遺物、器材の搬出**（６月18日）

以上のような方法と経過で発掘調査を終了したが、当初の予測を大幅に上まわる出土遺物があったことや、年内に対応する必要がある遺跡が他に何件かあったため、62年度内での遺物・図面整理、報告書刊行が困難と判断された。そのため昭和62年８月24日付で教育委員会から東北電力（株）宮城支店に予算と報告書刊行計画の変更についての協議書を提出し、同年９月24日付で承諾を得、昭和63年度に報告書刊行の運びとなったものである。



第２図　調査区の分割と方位

Ⅳ　調査区の基本層位（第3図）

Ⅰ層　耕作土である。層厚が約45cmで、全体的に均一である。

Ⅱ層　遺物包含層である。Ⅲ－1層に近い部分は漸移層で、褐色を呈するシルトである。B、C区は天地がえしで、ほとんど残っていない。

Ⅲ－1層　上面は遺構検出面である。

Ⅲ－2層　純い黄褐色砂と褐色砂の薄い互層である。水成堆積層。

Ⅳ層　ローム層。層厚約20cm。石器は発見されなかった。

Ⅴ層　礫層。土坑の多くは礫層上面で底面となる。SK18だけ礫層も掘り下げている。段丘崖近くの礫層なので、水はけ良好。

〈基本層位〉

層位	土色	土性	備考
Ⅰ	10YR3/4 鈍い黄褐色	シルト	耕作土
Ⅱ	10YR3/4 暗褐色	シルト	土器多量に混入、包含層
Ⅲ－1	10YR3/4 黄褐色	シルト	
Ⅲ－2	10YR5/4 鈍い黄褐色	砂	しまり有り
	10YR5/4 褐色	砂	細い
Ⅳ	10YR5/6 黄褐色	ローム	しまり有り
Ⅴ			礫層

〈SK－4〉

層位	土色	土性	備考
1a	10YR3/4 黒褐色	シルト	炭若干混入
1b	10YR3/4 黒褐色	シルト	炭・土器片混入
1c	10YR3/4 暗褐色	シルト	炭・土器片含む

〈SK－16〉

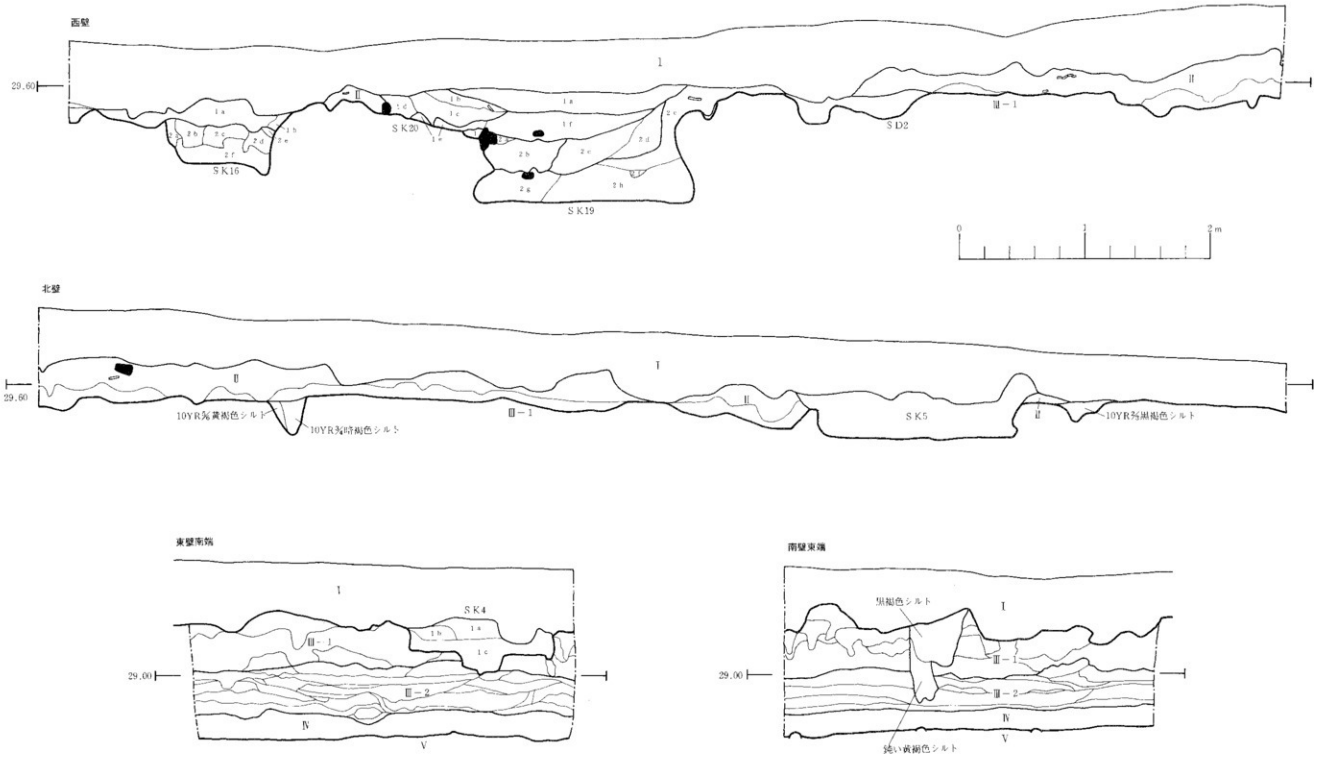
層位	土色	土性	備考
1a	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	土器片若干混入
1b	10YR3/4 暗褐色	シルト	焼土若干混入
2a	10YR5/4 褐色	シルト	
2b	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	
2c	10YR3/4 暗褐色	シルト	
2d	10YR3/4 黒褐色	シルト	炭若干混入
2e	10YR5/6 黄褐色	シルト	
2f	10YR5/4 褐色	シルト	

〈SK－19〉

層位	土色	土性	備考
1a	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	土器混入
1b	10YR3/4 黒褐色	シルト	炭・焼土若干混入
1c	10YR3/4 黒褐色	シルト	炭混入
1d	10YR3/4 黒褐色	シルト	黄褐色シルト若干混入
1e	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	焼土若干混入
1f	10YR3/4 暗褐色	シルト	炭・土器若干混入
2a	10YR3/4 暗褐色	シルト	黄褐色シルト・炭若干混入
2b	10YR3/4 褐色	シルト	
2c	10YR3/4 暗褐色	シルト	炭若干混入
2d	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	炭若干混入
2e	10YR3/4 暗褐色	シルト	土器混入
2f	10YR3/4 黒褐色	シルト	黄褐色シルト若干混入
2g	10YR3/4 黒褐色	シルト	炭・焼土若干混入、土器混入
2h	10YR3/4 暗褐色	シルト	炭若干混入

〈SK－20〉

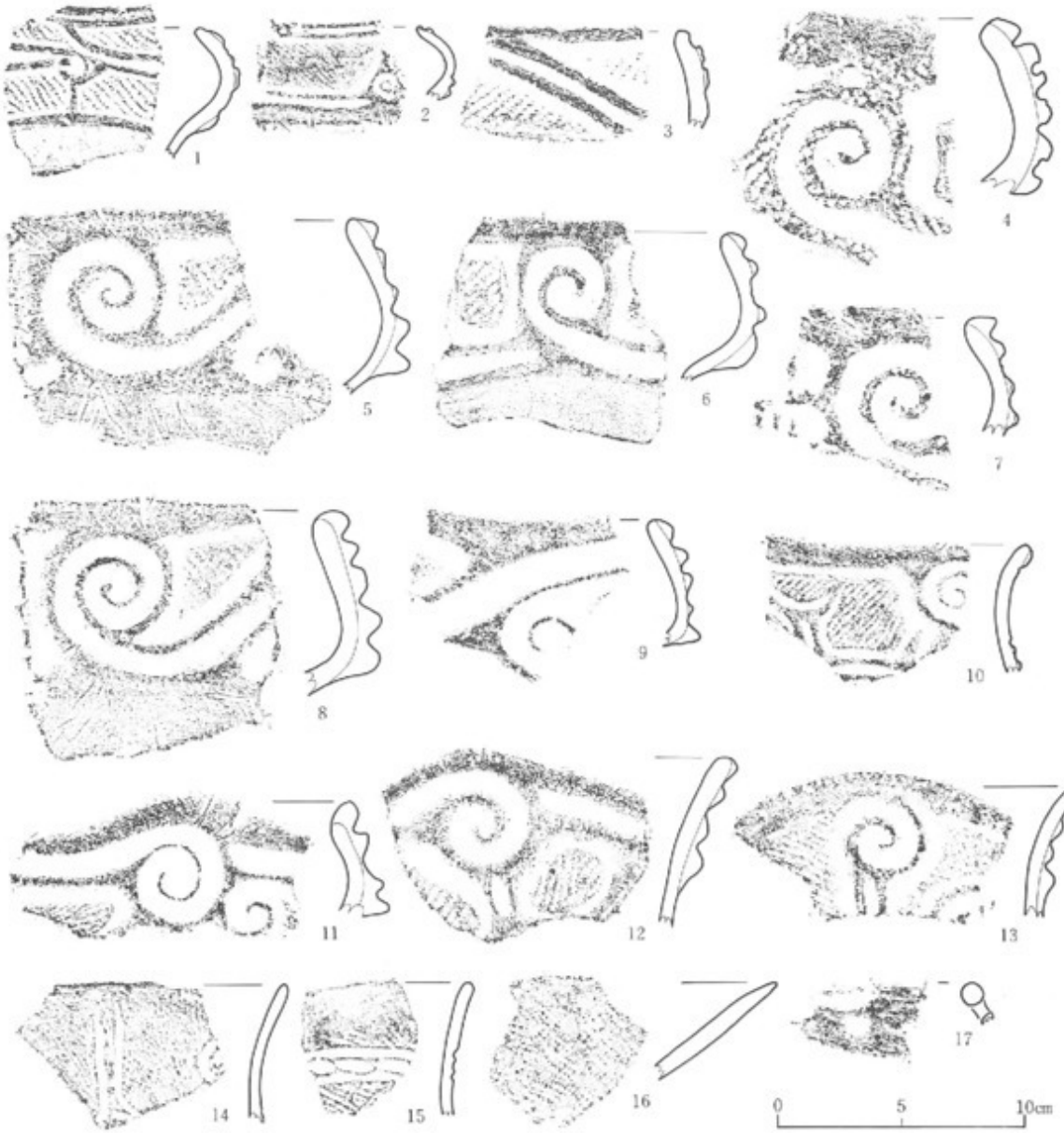
層位	土色	土性	備考
1	10YR3/4 暗褐色	シルト	黄褐色シルト・炭若干混入


西壁
29.60
SK16
SK20
SK19
SD2
0
1
2m
北壁
29.60
10YR3/4黄褐色シルト
10YR3/4暗褐色シルト
SK5
10YR3/4黒褐色シルト
東壁南端
29.00
SK4
北壁東端
29.00
黒褐色シルト
淡い黄褐色シルト

第3図　調査区断面図

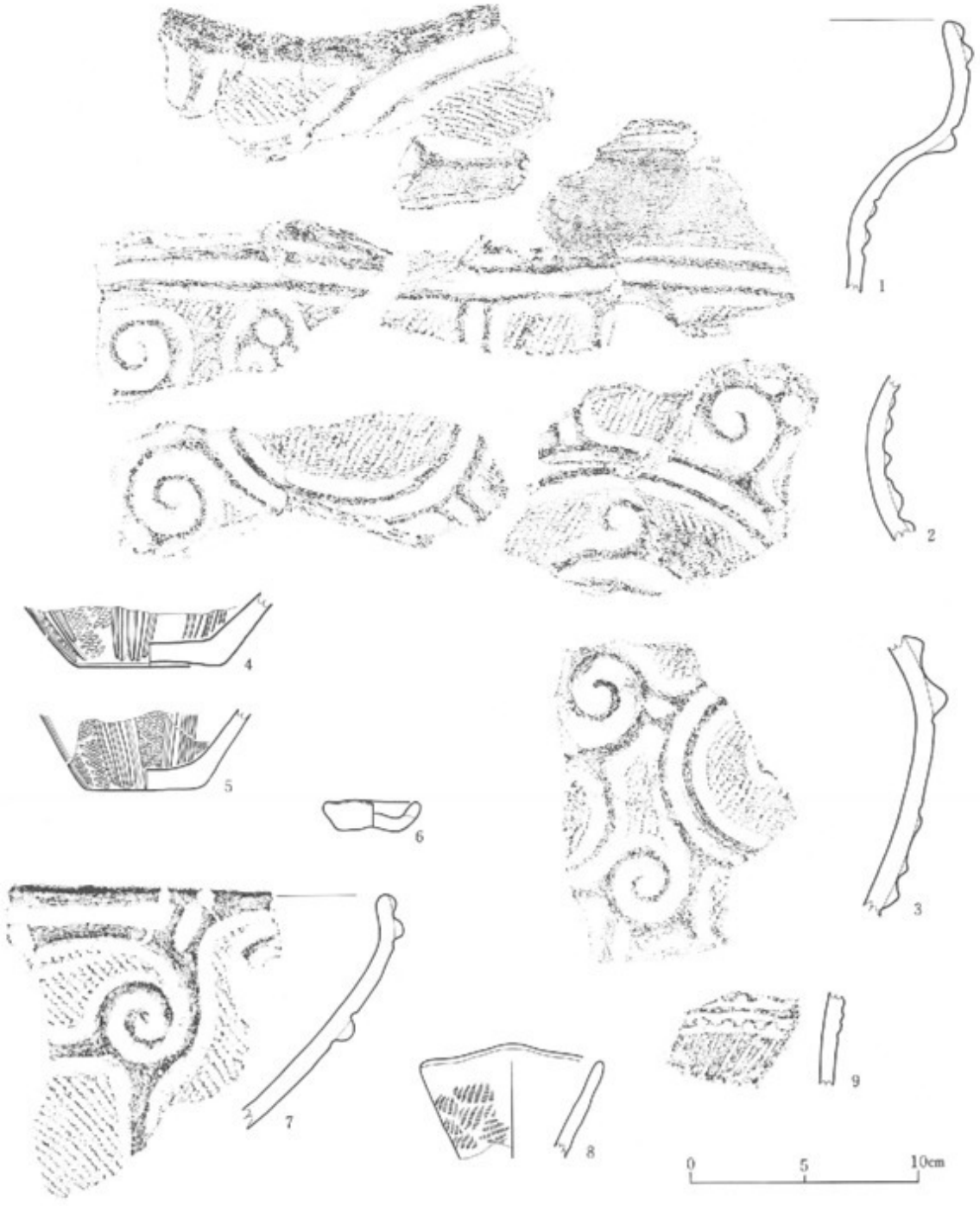
番号	遺構・層位	文様の特徴	写真図版
1	Ⅰ層	口縁部：隆沈文（横位・「S」字状文）　胴部：ＬＲ縄文→隆沈文（横位）	12—1
2	Ⅰ層	ＬＲ縄文→隆線文（無調整、横位・渦巻文）	12—6
3	Ⅰ層	口唇部：隆線文＋ＬＲ縄文押圧　口縁部：ＬＲ縄文→隆線文（無調整、横位）	12—7
4	Ⅰ層	ＲＬ縄文→隆沈文（横位・渦巻文）	
5	Ⅰ層	刻目文の付された隆線文→連続刺突文・Ｌ縄文押圧	
6	Ⅰ層	突起部：隆線文　突起部内面：隆線文　口縁部：Ｌ縄文押圧→隆線文（横位）	12—4
7	Ⅰ層	隆沈文（有節渦巻文）・ミガキ	12—9
8	Ⅰ層	不明縄文＋隆線文（無調整、曲線文）	
9	Ⅰ層	口縁部：ＬＲ縄文→隆沈文（横位・有軸渦巻文）　頸部：無文　体上部：沈線文（横位）	12—10
10	Ⅰ層	隆沈文（横位・有節渦巻文）・矢羽状沈線文充塡	
11	Ⅰ層	ＲＬ縄文→隆沈文（横位）・隆線文（無調整、波状）	12—8
12	Ⅰ層	ＬＲＬ縄文→隆沈文（有節渦巻文）	12—12
13	Ⅰ層	ＲＬ縄文＋隆沈文（渦巻文）	12—11
14	Ⅰ層	口縁部：ＲＬＲ縄文→隆沈文（横位渦巻文）　頸部：無文	

第４図　Ⅰ層出土土器



番号	遺構・層位	文様の特徴	写真図版
1	Ⅰ層	口縁部：ＲＬ縄文→隆沈文（横位有段渦巻文）　頸部：無文	12—18
2	Ⅰ層	口縁部：ＲＬ縄文→隆沈文（横位・有段渦巻文）　頸部：無文	13—6
3	Ⅰ層	ＬＲ縄文→隆沈文（曲線文）	
4	Ⅰ層	隆沈文（横位渦巻文）・刺突文→ＲＬ縄文	13—1
5	Ⅰ層	口縁部：ＲＬ縄文→隆沈文（横位渦巻文）　頸部：無文	
6	Ⅰ層	口縁部：ＬＲ縄文→隆沈文（横位渦巻文）　頸部：無文	
7	Ⅰ層	隆沈文（横位渦巻文）・縦位短沈線文	
8	Ⅰ層	口縁部：ＲＬ縄文→隆沈文（横位渦巻文）　頸部：無文	
9	Ⅰ層	隆沈文（横位渦巻文）	
10	Ⅰ層	口縁部～体部：ＬＲ縄文→隆沈文（有軸渦巻文）	13—7
11	Ⅰ層	ＬＲ縄文→隆沈文（横位渦巻文）	
12	Ⅰ層	ＬＲ縄文→隆沈文（横位渦巻文）	
13	Ⅰ層	ＲＬ縄文→隆沈文（渦巻文・下垂）	
14	Ⅰ層	Ｒ無節→沈線文（下垂・渦巻文）	13—8
15	Ⅰ層	口縁部：無文　頸部～体部：ＬＲ縄文→横位沈線文にはさまれた連続刺突文	13—5
16	Ⅰ層	ＬＲ縄文	13—9
17	Ⅰ層	穿孔・ミガキ	

第５図　Ⅰ層出土土器



番号	遺構・層位	文様の特徴	写真図版
1・2・3	Ⅰ層	口縁部：ＲＬ縄文→隆沈文（横位渦巻文）　頸部：無文　体部：ＰＬ縄文→隆沈文（横位・有軸渦巻文）	13-13,14,15,16,21
4	Ⅰ層	ＲＬ縄文→隆沈文（下垂）　底面：ミガキ	
5	Ⅰ層	ＬＲ縄文→隆沈文（下垂）　底面：ミガキ	
6	Ⅰ層	手捏ね	13—14
7	Ⅰ層	ＲＬＲ縄文→隆沈文（横位渦巻文）	12—17
8	Ⅰ層	Ｒ縄文	13—11
9	Ⅰ層	不明縄文→沈線文・交互刺突文→短沈線文（斜位）	

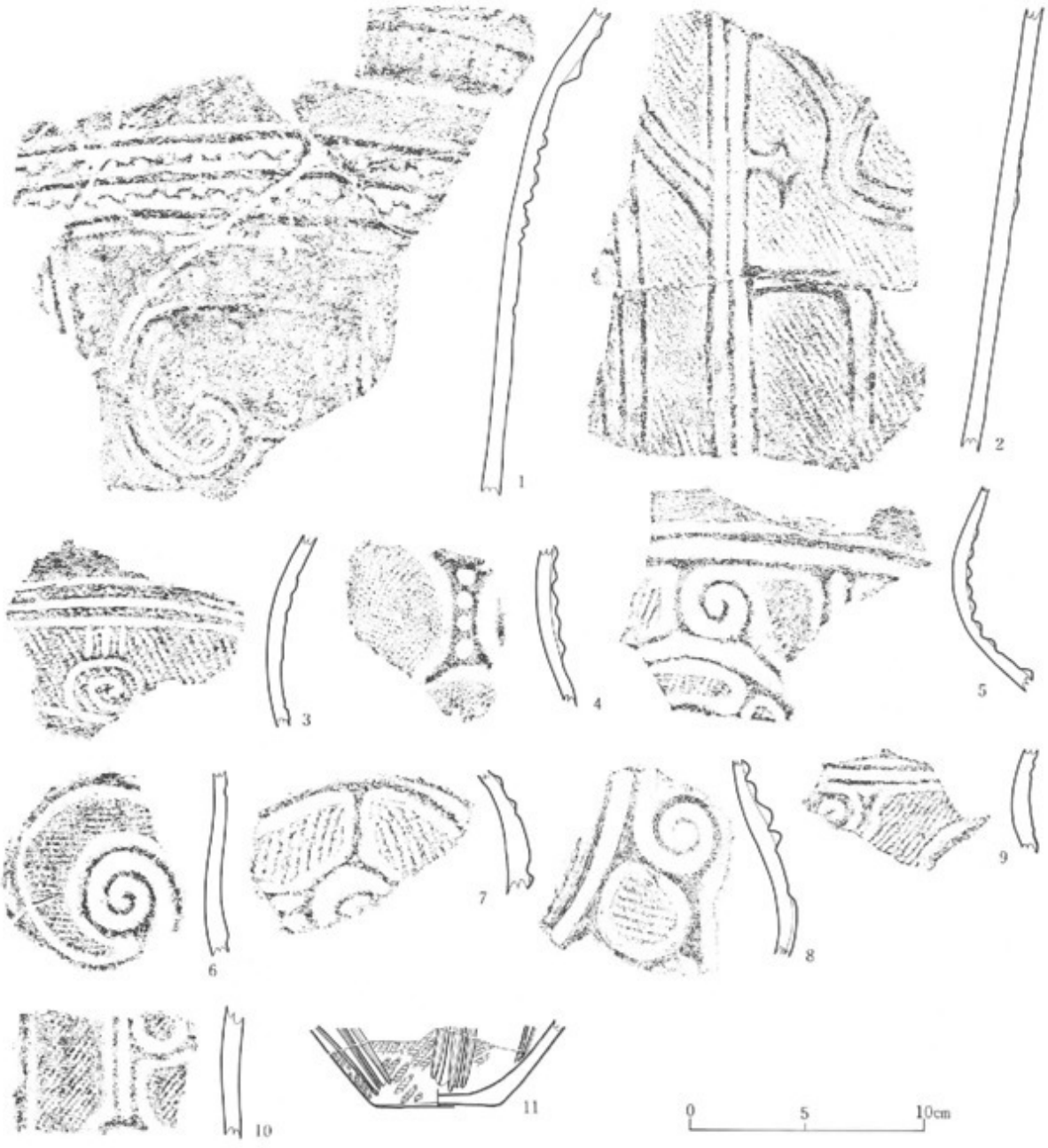
第６図　Ⅰ層出土土器

番号	遺構・層位		文様の特徴	写真図版
1		Ⅰ層	RLR縄文→隆沈文（渦巻文）	12—19,20
2		Ⅰ層	隆線文・刺突文	13—12
3		Ⅰ層	LRL縄文→隆沈文（渦巻文）	
4		Ⅰ層	LRL縄文→隆沈文（渦巻文）	
5		Ⅰ層	RL縄文→沈線文（渦巻文＋下垂文）	13—13
6		Ⅰ層	RL縄文→隆沈文（横位＋下垂文）	13—10
7	D区	Ⅱ層	隆線文・孔・ミガキ	13—17
8	A区	Ⅱ層	口縁部：不明縄文押圧　頸部：無文	
9	A区	Ⅱ層	口唇部：刻目文　口縁部：横立沈線文　頸部：RL縄文	13—18
10	A区	Ⅱ層	横位隆線文・半截竹管状工具による連続刺突文　内面：隆線文	
11	A区	Ⅱ層	隆線文　内面：隆線文	13—21
12	D区	Ⅱ層	RL縄文→隆線文	
13	A区	Ⅱ層	横位隆線文→波状沈線文・刻目文・LR縄文押圧　内面：隆線文	
14	A区	Ⅱ層	隆線文・ミガキ	

第7図　Ⅰ、Ⅱ層出土土器

番号	遺構・層位	文様の特徴	写真図版
1	A区 Ⅱ層	LR縄文→隆沈文	
2	A区 Ⅱ層	隆線文・LR縄文→沈線文	
3	D区 Ⅱ層	LR縄文→隆線文（渦巻文）	
4	D区 Ⅱ層	隆沈文（横位十渦巻）→刺突文	13—24
5	D区 Ⅱ層	口縁部：隆沈文（横位渦巻文）　頸部：無文　体部：RL縄文→隆沈文（渦巻文）	14—6
6	D区 Ⅱ層	隆線文（渦巻文）　内面：隆線文（渦巻文）	
7	D区 Ⅱ層	LR縄文→隆沈文（渦巻文）	
8	A区 Ⅱ層	口縁部：RL縄文→隆沈文（横位渦巻文）　頸部：無文	14—2
9	A区 Ⅱ層	RL縄文→隆線文（渦巻文）	
10	A区 Ⅱ層	口縁部：隆沈文（横位渦巻文）　口縁部：無文　頸部：隆沈文（横位）	13—26
11	A区 Ⅱ層	隆沈文（渦巻文）	14—4

第8図　Ⅱ層出土土器



挿図	遺構・層位	文様の特徴	写真図版
1	A区 Ⅱ層	頸部：LR縄文→隆線文→不明縄文押圧　体部：LR縄文→隆沈文（横位・斑位・渦巻）・交互刺突文	14—7
2	A区 Ⅱ層	LR縄文→隆線文（縦位・方形・曲線）	13—27
3	D区 Ⅱ層	LR縄文→沈線文（横位・渦巻文）　頸部：無文	13—16
4	D区 Ⅱ層	LR縄文→隆線文→刺突文	14—5
5	D区 Ⅱ層	LR縄文→隆沈文（横位渦巻文）　頸部：無文	13—15
6	A区 Ⅱ層	LR縄文→隆沈文（渦巻文）	
7	D区 Ⅱ層	RL縄文→隆沈文（渦巻文）	14—1
8	A区 Ⅱ層	LR縄文→隆沈文（渦巻文）	
9	D区 Ⅱ層	RL縄文→隆沈文（横位・渦巻文）	
10	A区 Ⅱ層	RL縄文→隆沈文（渦巻文・下垂）	
11	A区 Ⅱ層	RL縄文→隆沈文（下垂）　底面：ミガキ	

第9図　Ⅱ層出土土器

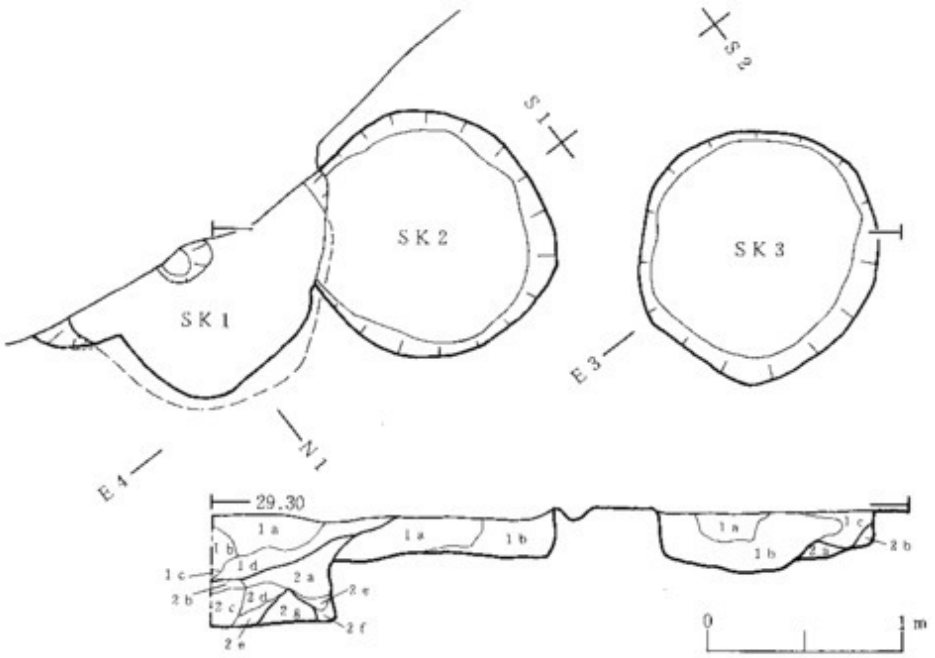
V　発見遺構と遺物

今回の調査は面積にして100㎡であったが、遺構としては土坑が23基、ピット多数、溝・溝状遺構が２条発見され、遺物としては、大木８ａ、ｂを主とした縄文土器片が２万点を越え、石器も千３百点を越える出土があった。

１．土　坑

ＳＫ１土坑　調査区東壁外に半分かかるものであり、ＳＫ２土坑を切っている。検出面径より底面径の方が大きい袋状を呈するもので、中央にピットをもつ。

堆積土は大きく２層に分かれる。土器片は１、２層とも大木８ａ、ｂが多く、７ａ、ｂは若干である。石器も両層より若干出土している。



第10図　ＳＫ1･2･3実測図

〈ＳＫ－１〉

層位	土色	土性	備考
1a	7.5YR3/3 にぶい褐色	シルト	炭と橙色シルト粒若干含む
1b	10YR3/4 暗褐色	シルト	炭若干含む
1c	10YR3/4 にぶい黄橙色	シルト	
1d	10YR3/4 黒褐色	シルト	炭粒若干含む
2a	10YR3/4 にぶい黄褐色	シルト	
2b	10YR3/4 黒褐色	シルト	
2c	10YR3/4 にぶい黄褐色	シルト	
2d	10YR3/4 にぶい黄褐色	シルト	
2e	10YR3/4 にぶい黄褐色	シルト	
2f	10YR3/4 黒褐色	シルト	
2g	10YR3/4 暗黄褐色	シルト	やや粘性有り

〈ＳＫ－２〉

層位	土色	土性	備考
1a	10YR3/4 にぶい黄褐色	シルト	黄橙色、黒褐色シルト混入
1b	10YR3/4 褐色	シルト	黄橙色、黒褐色シルト混入

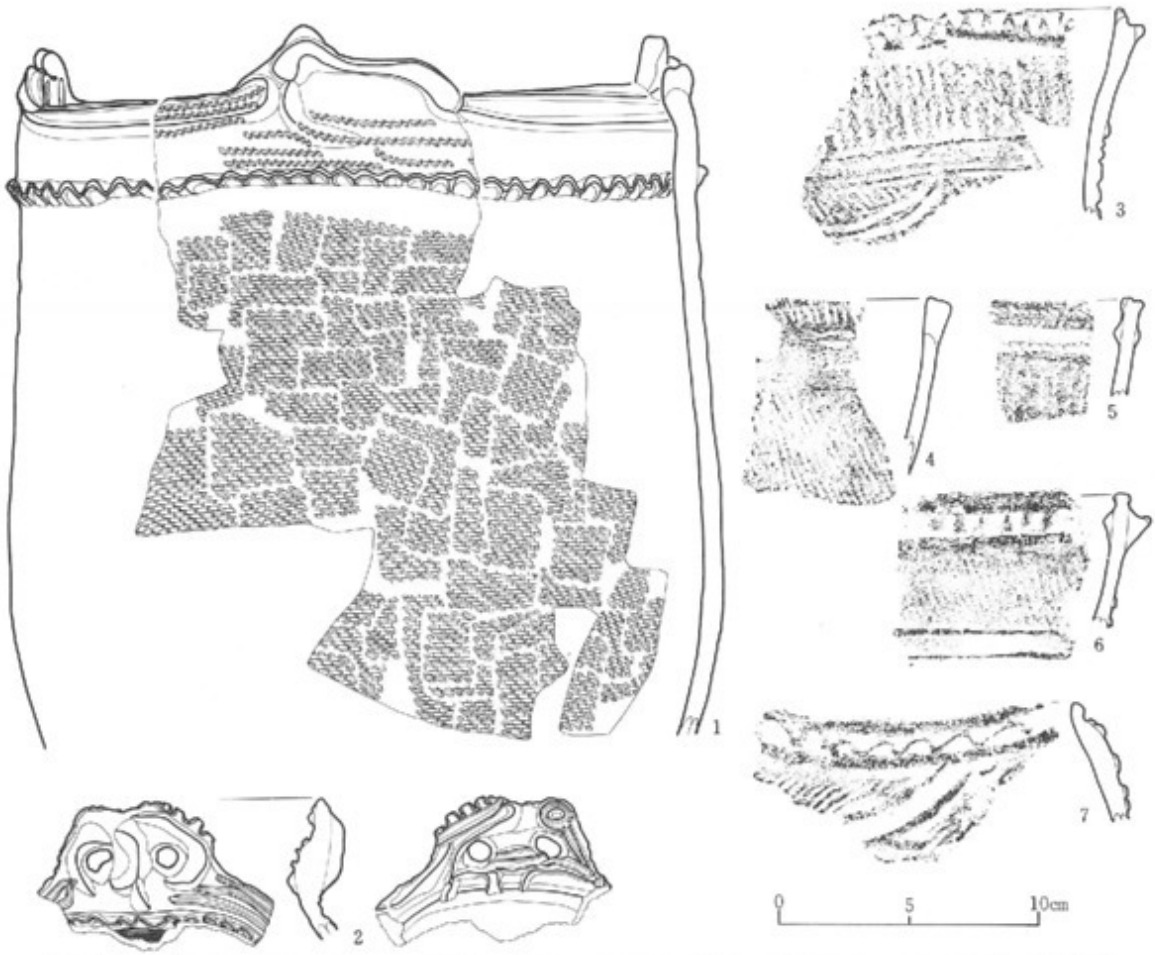
〈SK－3〉

層位	土色	土性	備考
1a	10YR3/4 暗褐色	シルト	
1b	10YR3/3 暗褐色	シルト	明黄褐色シルト斑状に混入
1c	7.5YR3/4 黒褐色	シルト	
2a	10YR3/4 にぶい黄褐色	シルト	
2b	10YR3/4 にぶい黄褐色	シルト	

ＳＫ２土坑　ＳＫ１土坑に切られている。検出面から底面まで約20cmと浅く、袋状を呈するものかどうか不明である。中央にピットは見られない。

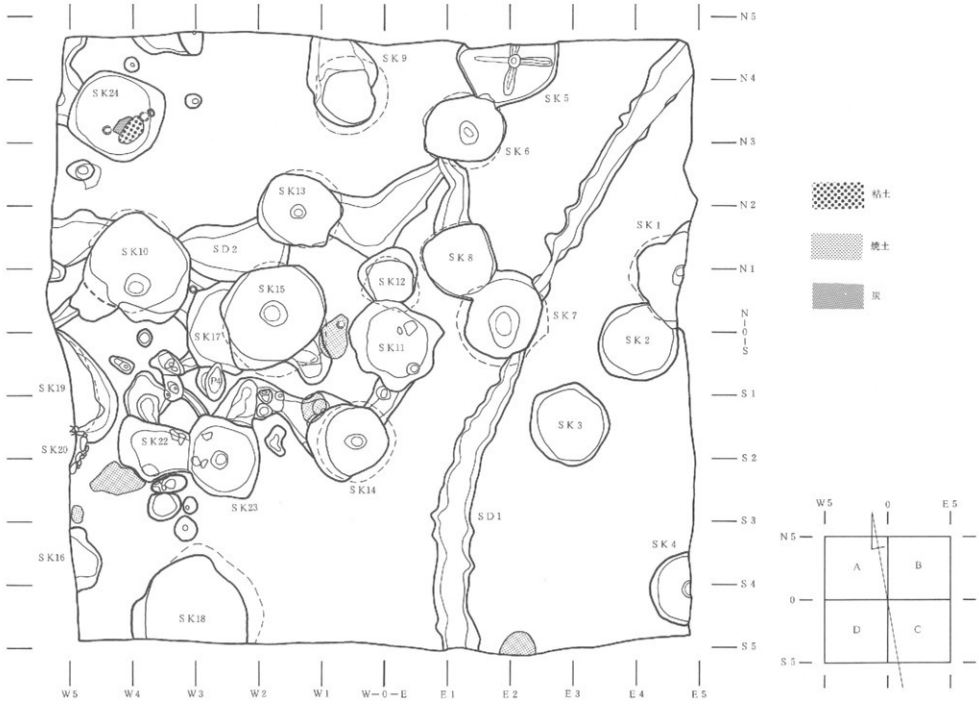
堆積土は１層で大木８ａ、ｂを主とする土器片で、７ａ、ｂが若干である。大木10とみられる土器片も２点出土している。石器はフレークを中心に若干出土している。

ＳＫ３土坑　これも20～30cmと浅い土坑で全体の形態は把握できない。中央部にピットをもっていない。堆積土は２層に大別できたが、２層は若干である。土器片も１層のみ出土で、大木７ａ、ｂが若干で、８ａ、ｂが主である。石器は１、２層より７点のフレークが出土した。



番号	遺構・層位	文様の特徴	写真図版
1	ＳＫ－１ ２層	口縁部：隆線文→ＬＲ縄文押圧　頸部：押圧の加えられた隆線文　体部：ＬＲ縄文	14－12
2	ＳＫ－１ １層	口縁波状部：刻目文　隆線文（弧状・波状）・沈線文（横位）　内面：隆線文（円形・弧状）	15－1
3	ＳＫ－１ １層	口唇部：隆線文→刻目文　口縁部：Ｌ縄文押圧→隆帯文　頸部：ＲＬ縄文→沈線文	14－8
4	ＳＫ－１ １層	口唇部：刻目文　口縁部：ＬＲ縄文	
5	ＳＫ－１ １層	口唇部：Ｌ縄文押圧　口縁部：隆線文・Ｌ縄文押圧（横位・縦位）　内面：隆線文	
6	ＳＫ－１ １層	口唇部：隆線文→刻目文　頸部：Ｌ縄文→隆線文　内面：隆線文	15－6
7	ＳＫ－１ １層	口唇部：隆線文（横位・波状）　口縁部：Ｒ縄文→隆帯文	14－9

第11図　ＳＫ１土坑出土土器


SK24
SK9
SK5
SK6
SK13
SK10
SD2
SK15
SK12
SK8
SK1
SK17
SK11
SK7
SK2
SK19
SK3
SK22
SK20
SK14
SK23
SD1
SK4
SK16
SK18
N5
N4
N3
N2
N1
N0.5
S1
S2
S3
S4
S5
W5
W4
W3
W2
W1
W−0−E
E1
E2
E3
E4
E5
粘土
焼土
炭
W5
0
E5
N5
0
S5
A
B
D
C

第12図　遺構配置図

番号	遺構・層位	文様の特徴	写真図版
1・2	SK—1 1層	口縁部：LR縄文→隆線文（貼位・横位渦巻文）　頸部～体部：LR縄文→沈線文（横位・羅位・波状）	15-2,3,4,5
3	SK—1 1層	口縁部：RL縄文→隆沈文（有節渦巻文）　頸部～体部：RL縄文→沈線文（横位・波状・渦巻文）	14—13
4	SK—1 1層	粘土紐貼付による小波状文、渦巻文	14—11
5	SK—1 1層	沈線文（横位・貼位）　内面：波状口縁波頂部に隆線文による渦巻文	14—15
6	SK—1 1層	口縁部：隆沈文（横位）　口縁部～体部：RL縄文→沈線文（横位・波状）	14—10
7	SK—1 1層	LR縄文→隆線文（横位渦巻文）	15—7
8	SK—1 1層	LR縄文	15—8
9	SK—1 1層	RL縄文→沈線文（方形・弧状）・隆線文	
10	SK—2 1層	RL縄文	15—11
11	SK—2 1層	隆線文（円形貼付）	15—9
12	SK—2 1層	口唇部：刻目文をもつ隆沈文（横位）　頸部：沈線文（横位）	
13	SK—2 1層	LR縄文→隆沈文（渦巻文）	
14	SK—3 1層	口縁部：不明縄文押圧　頸部：無文	
15	SK—3 1層	不明縄文→隆線文	
16	SK—3 1層	RL縄文→沈線文（横位・曲流文）	
17	SK—3 1層	RL縄文→隆沈文（貼位・楕円文）	

第13図　SK1・2・3土坑出土土器

ＳＫ４土坑　調査区東壁外に半分出るものである。底面まで約20cmと相当削平されているもので、全様不明である。中央にピットがある。

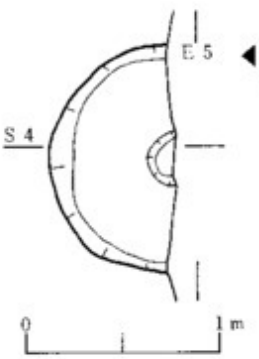
堆積土は１層で、土器片には大木７ｂのものが若干で、８ａ、ｂのものが主体をなして見られ、石器はスクレーパー１点、フレーク22点を出土した。

ＳＫ５土坑　調査区北壁外に３分の１ほど出るもので、ＳＫ６土坑を切っている。底面までの深さは約30cmと浅く、形態不明である。底面中央部にはピットがあり、そこより四方に浅い溝が切られている。Ⅱ層より掘り込まれている。

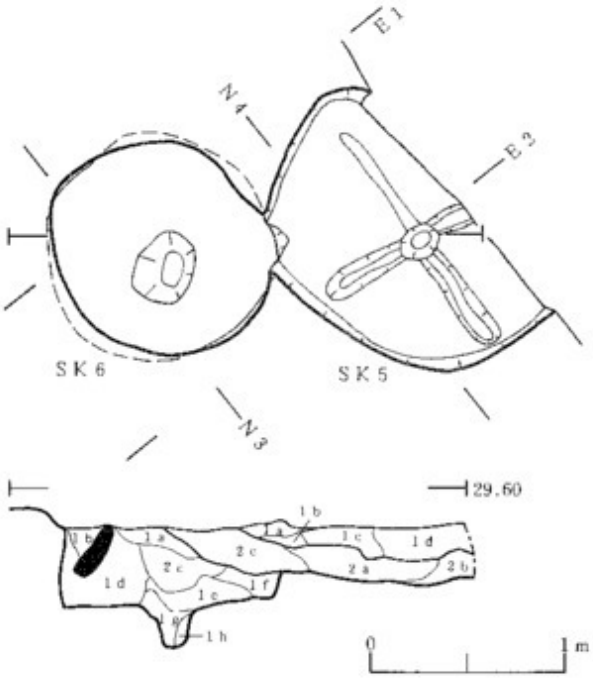
堆積土は大きく２層に分けることができたが、縄文土器片、石器とも１層からのみ出土したものである。土器は大木７ａ、ｂが少しで、８ａ、ｂが主である。石器もさほど多くはないが、フレークを主とするものである。

ＳＫ６土坑　ＳＫ５土坑に切られている。検出面から底面までの深さが約40cmで、袋状の形態であったことがわかる。底面中央部にはピットが見られる。

堆積土は１層である。土器片はその上方に多く、大木７ａ～８ｂまであるが、７ｂ、８ａが中心をなす。石器は石鏃、スクレーパー、フレークが若干である。



◀第14図
ＳＫ４実測図



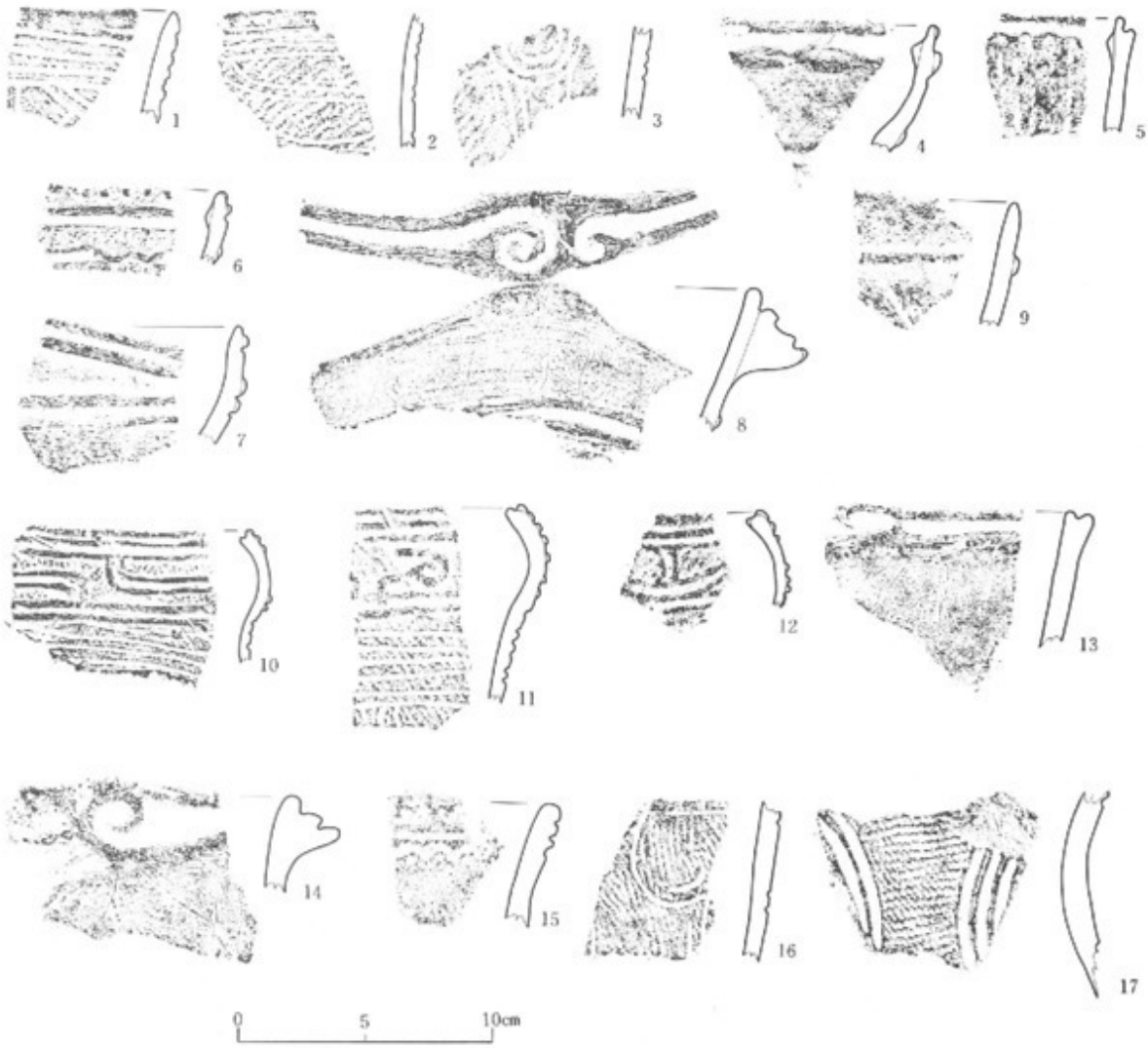
第15図▶
ＳＫ5･6実測図

〈ＳＫ－５〉

層位	土色	土性	備考
1a	10YR3/4 にぶい黄褐色	シルト	
1b	10YR3/4 にぶい黄褐色	シルト	黄褐色シルト混入
1c	10YR3/4 暗褐色	シルト	炭粒若干含む
1d	10YR3/4 褐色	シルト	黄褐色シルトを斑状に含む
2a	10YR3/4 黒褐色	シルト	炭と黄褐色シルトを斑状に含む
2b	10YR3/4 黒褐色	シルト	
2c	10YR3/4 黒褐色	シルト	炭粒若干含む

〈ＳＫ－６〉

層位	土色	土性	備考
1a	10YR3/4 にぶい黄褐色	シルト	
1b	10YR3/4 黒褐色	シルト	炭粒若干含む
1c	10YR3/4 暗褐色	シルト	黄褐色シルトを斑状に含む
1d	10YR3/4 暗褐色	シルト	黄褐色シルトをブロック状に含む
1e	10YR3/4 明黄褐色	シルト	暗褐色シルトを若干含む
1f	10YR3/4 暗褐色	シルト	
1g	10YR3/4 暗褐色	シルト	
1h	10YR3/4 黄褐色	シルト質砂	



番号	遺構・層位	文様の特徴	写真図版
1	SK－4 1層	LR縄文→沈線文（横位・曲流文）	
2	SK－4 1層	RL縄文→沈線文（横位・曲流文）	
3	SK－4 1層	RL縄文→沈線文（渦巻文・下垂）	
4	SK－5 1層	不明縄文→隆線文（横位・波状）　頸部：隆線文　内面：降線文（横位）	
5	SK－5 1層	口唇部：隆沈文　口縁部：L縄文押圧　内面：隆線文（横位）	15－12
6	SK－5 1層	口唇部：刻目文　口縁部：不明縄文→隆沈文・沈線文→隆線文（沈線文の中）	15－13
7	SK－5 1層	隆沈文・ミガキ	
8	SK－5 1層	口唇部：隆沈文（横位渦巻文）　口縁部：無文　頸部：隆沈文（横位）	15－14
9	SK－5 1層	隆線文・R縄文押圧	
10	SK－6 1層	LR縄文→沈線文（無調整）・沈線文（横位）	15－15
11	SK－6 1層	口縁部：RL縄文→降線文（無調整、横位・渦巻文）　頸部：RL縄文・沈線文（横位）	15－16
12	SK－6 1層	LR縄文→隆線文（無調整、横位曲流文）	
13	SK－6 1層	口唇部：隆沈文（横位）　口縁部：無文	
14	SK－6 1層	口唇部：隆沈文（横位渦巻文）　口縁部：無文	15－18
15	SK－6 1層	沈線文（横位、弧状）・連続刺突文	
16	SK－6 1層	LR縄文→沈線文（横位・渦巻・下垂）	15－17
17	SK－6 1層	RL縄文→沈線文（弧状）	

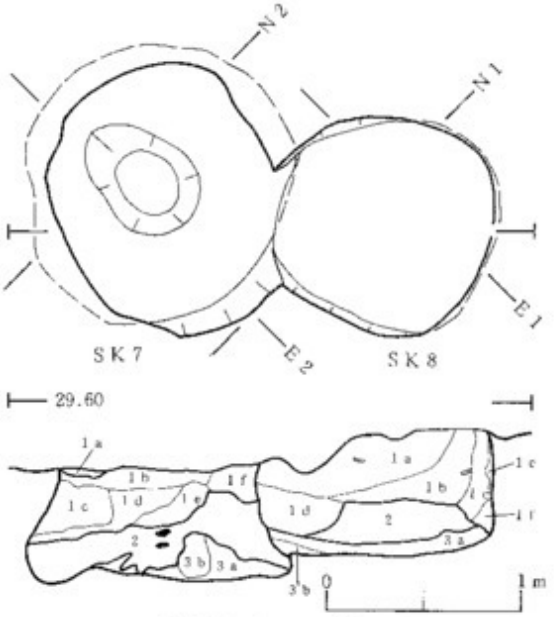
第16図　SK4・5・6土坑出土土器

ＳＫ７土坑　ＳＫ８土坑、ＳＤ１溝跡に切られている。深さ約60cmの袋状をなすもので、底面にピットを有するものである。

堆積土は三つに大別できたが、３層からは遺物の出土がない。１層からは大木７ａ、ｂの土器片少量、８ａ、ｂ土器片が多量に出土した。２層の土器構成も同様である。石器片の大部分はフレークだが、２層の方が１層の３倍強の出土数である。

ＳＫ８土坑　ＳＫ７土坑を切っている。深さは60～70cmで袋状をなすようであるが明確でない。中央部にピットは見られない。

堆積土は３層に大別できた。１層からは大木７ｂ、８ｂを主体とする土器片の他、石器のフレークが多く出土した。２層は大木８ａ、ｂの土器片が多く、石器片は１層の３分の１である。３層からは時期不明の土器１片と、礫石器のみの出土である。



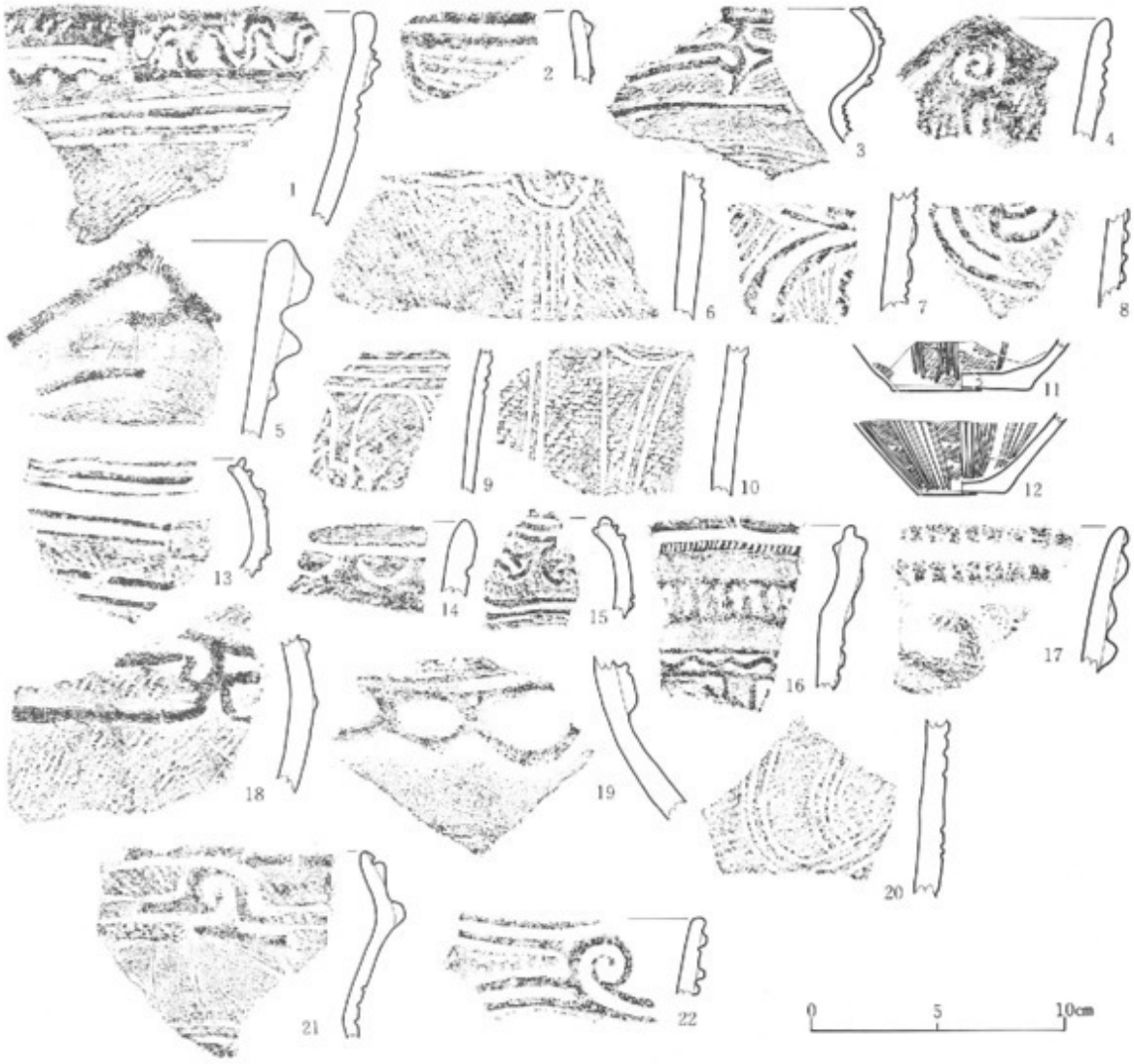
第17図　ＳＫ7･8実測図

〈ＳＫ－７〉

層位	土色	土性	備考
1a	10YR3/3 暗褐色	シルト	ＳＤ１堆積土
1b	10YR3/4 暗褐色	シルト	
1c	10YR3/4 暗褐色	シルト	炭化粒若干含む
1d	10YR3/4 にぶい黄褐色	シルト	
1e	10YR3/4 にぶい黄褐色	シルト	
1f	10YR3/4 にぶい黄褐色	シルト	
2	10YR3/4 暗褐色	シルト	3よりやや暗い、土器片混入
3a	10YR3/4 にぶい黄褐色	シルト	
3b	10YR3/4 にぶい黄褐色	シルト	

〈ＳＫ－８〉

層位	土色	土性	備考
1a	10YR3/4 にぶい黄褐色	シルト	
1b	10YR3/4 にぶい黄褐色	シルト	やや暗い
1c	10YR3/3 黒褐色	シルト	
1d	10YR3/4 にぶい黄褐色	シルト	黄橙色シルト、炭粒若干含む
1e	10YR3/4 にぶい黄褐色	シルト	
1f	10YR3/3 黒褐色	シルト	3よりやや明るい
2	10YR3/4 灰黄褐色	シルト	明黄褐色シルト粒多く含む
3a	10YR3/4 灰黄褐色	砂質シルト	
3b	10YR3/4 にぶい黄褐色	シルト質砂	

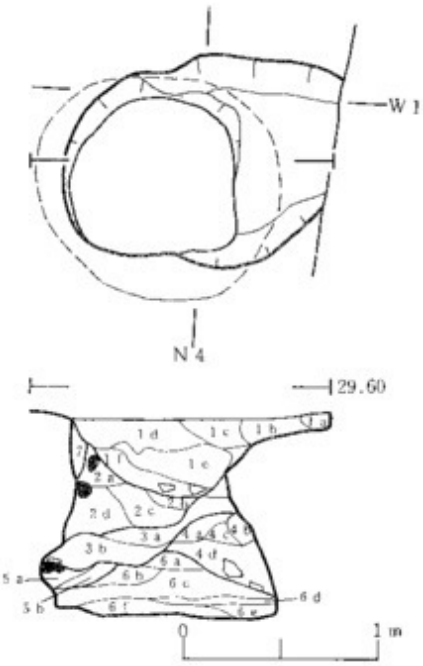


番号	遺場・層位	文様の特徴	写真図版
1	SK—7 2層	口唇部RL縄文押圧 口縁部L縄文を押圧した隆線文・指頭状圧痕ある隆線文・沈線文 頸部～体部：RL縄文→沈線文	15—19
2	SK—7 2層	沈線文・LR縄文押圧	
3	SK—7 2層	口縁部：R縄文→隆線文（有軸横位羽巻文） 頭上部：無文 体部：沈線文	
4	SK—7 1層	RL縄文→沈線文（羽巻文）・隆沈文（下垂）	
5	SK—7 1層	隆線文（横位・渦巻文）	
6	SK—7 2層	LR縄文→沈線文（横位・渦巻文・下垂・波状）	
7	SK—7 2層	隆線文→短沈線文	
8	SK—7 2層	LR縄文→隆線文（羽巻文）	
9	SK—7 2層	RL縄文→沈線文（横位・下垂）	16—4
10	SK—7 2層	RL縄文→沈線文（渦巻文・下垂）	
11	SK—7 1層	RL縄文→沈線文（下垂） 底面：ミガキ	
12	SK—7 1層	RL縄文→隆沈文（下垂） 底面：ミガキ	
13	SK—8 1層	口頸部：隆沈文（横位） L縄部：LR縄文→隆線文（横位）	
14	SK—8 1層	沈線文（横位）・L縄文押圧（弧状）	
15	SK—8 1層	口頸部：隆沈文（横位） 口縁部：LR縄文→隆線文（横位・羽巻文）	
16	SK—8 1層	口頸部：刻目文をもつ隆線文 口縁部：隆線文→LR縄文押圧 頸部～体部：隆線文（横位・波状・縦位）	16—8
17	SK—8 1層	口頸部：刻目状LR縄文押圧の隆線文 口縁部：隆線文（渦巻文）	16—7
18	SK—8 1層	RL縄文→隆線文（斜調整、横位渦巻文）	16—15
19	SK—8 1層	隆線文（横位・弧状を連結）・刺突文	16—14
20	SK—8 2層	不明縄文→沈線文（曲流文）	
21	SK—8 1層	口縁部：RL縄文→隆沈文（横位羽巻文） 頸部：無文 体部：沈線文（横位）	16—11
22	SK—8 1層	隆沈文（横位羽巻文）・刺突文充填	16—13

第18図　SK7・8土坑出土土器

ＳＫ９土坑　検出面からの深さが約１ｍの袋状土坑である。底面が段丘礫層面まで達しているもので、ピットは見られない。

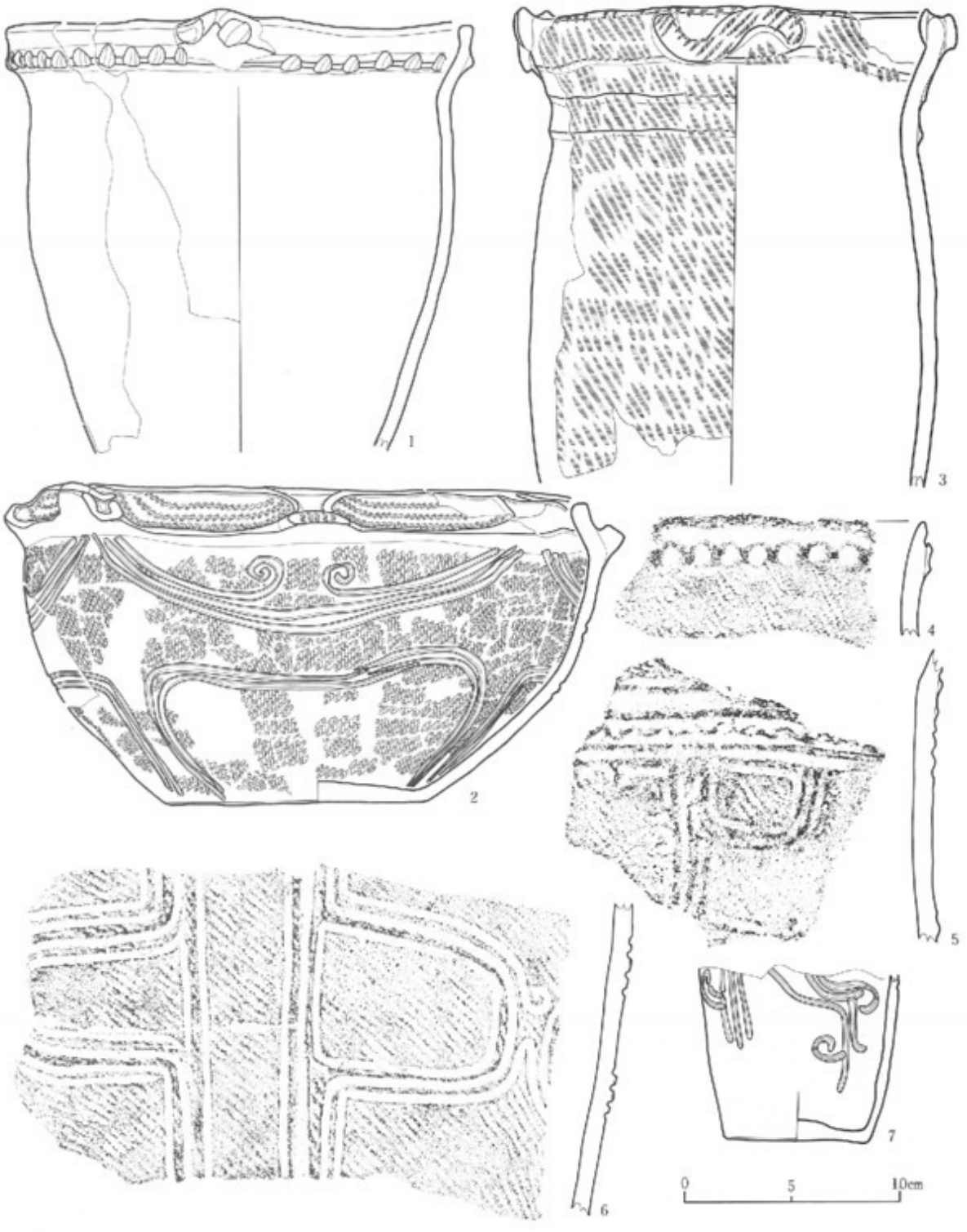
堆積層は７層に大別できたが、７層としたものは土壙の壁面の崩落土で不変的になく、遺物の出土もない層である。各層とも特に遺物が多いという状況ではない。１、２、４層からは大木７ａ～８ｂの土器片が出土しており、３、６層からは８ａ、５層からは７ｂ、８ａの破片が出土している。石器も特に多く出土しているわけでないが、それでも礫石器が多い遺構であると指摘できる。



第19図　ＳＫ９実測図

〈ＳＫ－９〉

層位	土色	土性	備考
1a	10YR3/4 褐色	シルト	
1b	10YR3/3 にぶい暗褐色	シルト	
1c	10YR3/3 暗褐色	シルト	
1d	10YR3/2 黒褐色	シルト	
1e	10YR3/2 黒褐色	シルト	黄・暗褐色シルトを若干含む
1f	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭粒多量に含む、土器片含む
2a	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭粒多量に含む
2b	10YR3/4 灰黄褐色	シルト	
2c	10YR3/3 にぶい黄褐色	シルト	
2d	10YR3/3 にぶい黄褐色	シルト	黄褐色シルトを斑状に含む
3a	10YR3/4 暗褐色	シルト	炭粒含む
3b	10YR3/3 黒褐色	シルト	炭粒含む
4a	10YR3/4 黄褐色	シルト	
4b	10YR3/4 褐色	砂質シルト	
4c	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭粒若干含む
4d	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭粒若干含む
5a	10YR3/4 褐色	砂	
5b	10YR3/4 黄褐色	シルト	
6a	10YR3/4 明黄褐色	砂質シルト	
6b	10YR3/3 暗褐色	シルト	
6c	10YR3/4 黄褐色	シルト質砂	
6d	10YR3/4 褐色	シルト	
6e	10YR3/4 黄褐色	シルト質砂	
6f	10YR3/3 にぶい黄褐色	シルト	
7	10YR3/4 黄褐色	シルト	



番号	遺構・層位	文　様　の　特　徴	写真図版
1	ＳＫ－９　２層	口唇部：指頭状圧痕をもつ突起　口縁部：指頭状圧痕をもつ隆線文　体部：横位のミガキ	16－16
2	ＳＫ－９　４層	口縁部：隆線文（「x」字状文）・突起・ＲＬ縄文押圧　頸部：刻目状ＲＬ縄文押圧の突帯・隆線文　体部：ＬＲ縄文→沈線文（渦巻文・弧状）	17－1
3	ＳＫ－９　５層	口縁部～頸部：隆線文（横位・「Ｓ」字状文）→Ｌ縄文　体部：Ｌ縄文	17－2
4	ＳＫ－９　４層	口縁部：指頭状押圧をもつ隆線文　頸部～体部：ＬＲ縄文	16－17
5	ＳＫ－９　４層	頸部：ＬＲ縄文→隆線文（横位）　体部：ＬＲ縄文→沈線文（横位・弧状・方形）・交互刺突文	16－18
6	ＳＫ－９　５層	隆線文（縦位・弧状）→ＬＲ縄文→沈線文（隆線に沿ったもの・渦巻文）	17－4
7	ＳＫ－９　５層	沈線文（曲線文・渦巻文・下垂）　底面：ナデ	18－3

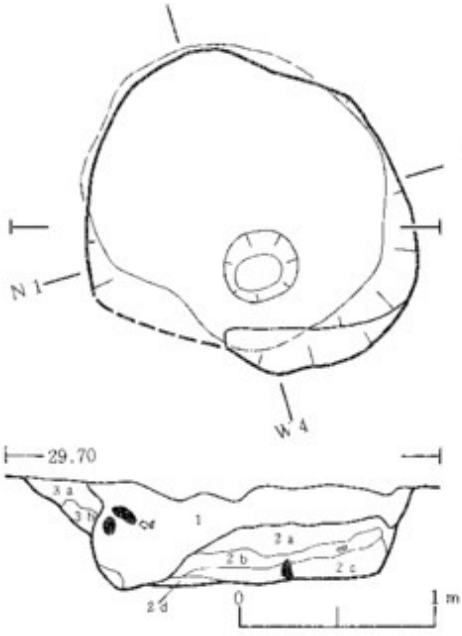
第20図　ＳＫ９土坑出土土器

番号	遺構・層位	文様の特徴	写真図版
1	SK－9 5層	口縁部：隆線文（横位・波状・「S」字状文）　頸部：隆線文→LR縄文押圧　体部：LR縄文	17－3
2	SK－9 1層	隆線文にはさまれた連続刺突文　RL縄文→沈線文（波状・方形）	16－18
3	SK－9 4層	LR縄文　底面：1ガキ	18－4
4	SK－9 2層	口縁部：隆線文による突起、刻目文　口縁部：刻目文→隆線文（指位・連弧文）　胴部：LR縄文押圧　体部：LR縄文→沈線文（指位・波状・指定文）	18－2
5	SK－9 4層	口唇部：隆線文・「く」字状沈線文　口縁部：L縄文押圧	
6	SK－9 5層	口唇部：隆線文（横位・「S」字状文）・刻目文　口縁部：無文　内面：隆線文（横位・波状）	17－7
7	SK－9 1層	綾杉状沈線文	16－19

第21図　ＳＫ９土坑出土土器

ＳＫ10土坑　ＳＤ２溝状遺構を切っている。底面までの深さは約50cmで、中央付近にピットがある。形態は袋状になるか不明である。

堆積土は大別３層である。土器片は１、２層とも大木７ａ～８ｂまであるが８ａ、ｂ主体である。石器はフレークを中心に多く、特に１層は２層の３倍以上の数である。



◀第22図　ＳＫ10実測図

〈ＳＫ－10〉

層位	土色	土性	備考
1	10YR5/4 褐色	シルト	石、遺物混入
2a	10YR5/6 明黄褐色	シルト	褐色シルト混入
2b	10YR5/4 暗褐色	シルト	炭と黄褐色シルト若干含む
2c	10YR5/3 暗褐色	シルト	炭粒若干含む
2d	10YR5/6 明黄褐色	シルト	
3a	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	
3b	10YR5/6 褐色	シルト	

ＳＫ11土坑　ＳＫ12土坑に切られている。底面までは約30cmの深さで、ピットも検出されなく、全様は不明である。堆積土は１層である。

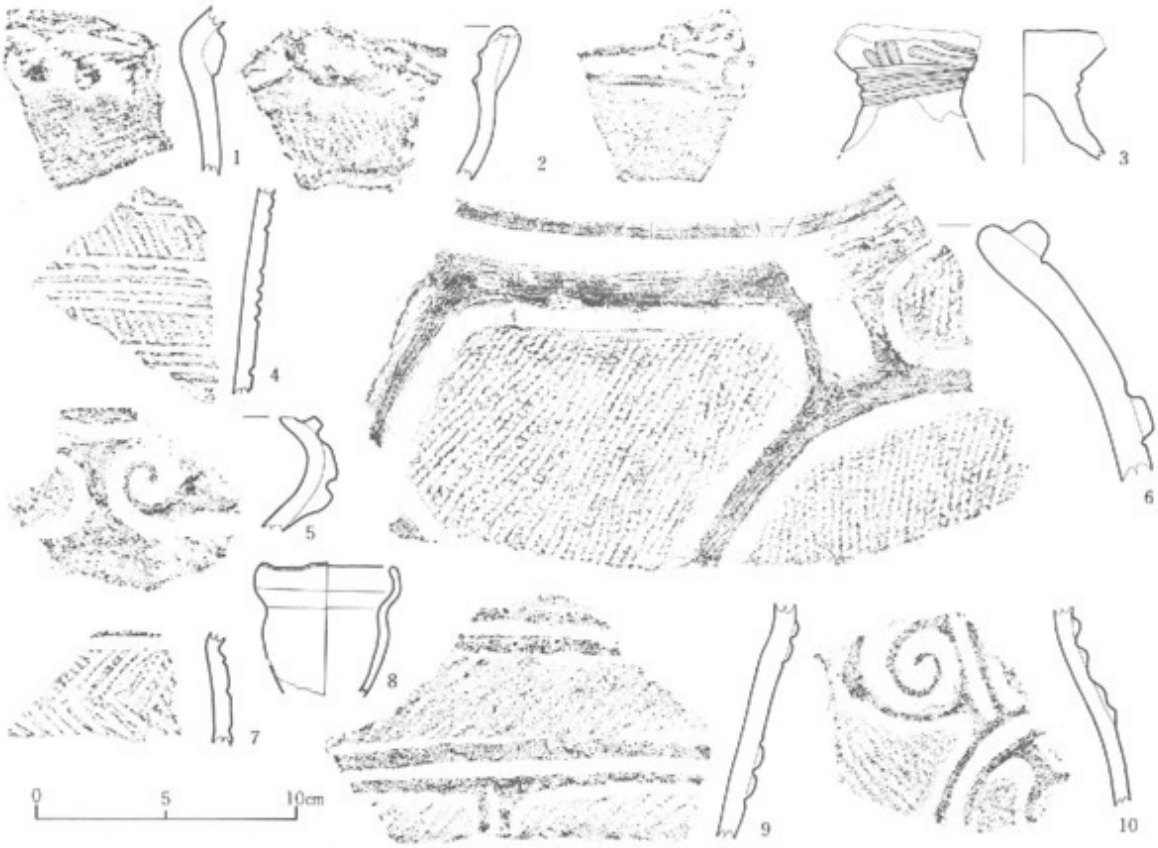
出土土器片は大木８ａ、ｂが圧倒的に多く、石器20数点のうちの大部分はフレークが占めている。

ＳＫ12土坑　ＳＫ11土坑を切っているほか、ＳＫ８土坑をも底面付近で切っている。底面までは約80cmの深さがある袋状の土坑である。底面にピットは見られず、発見された土坑中では小規模なものである。

堆積土は大きく２層に分けられる。土器出土状況は１層下面に層状に発見された。時期的には１、２層とも大木７式の土器片が含まれるが、８ａ、ｂ式が中心と言える。石器は多くはないが、１層で10点なのに対して２層では１点のみである。

ＳＫ13土坑　ＳＤ２溝状遺構を切っている。底面まで約40cmの深さがあり、中央部にピットをもつ袋状土坑である。堆積土は１層にまとめられる。

出土土器片は大木８ａ、ｂのほか７式が若干見られる。石器は石鏃、スクレーパー、フレークで計19点の出土である。

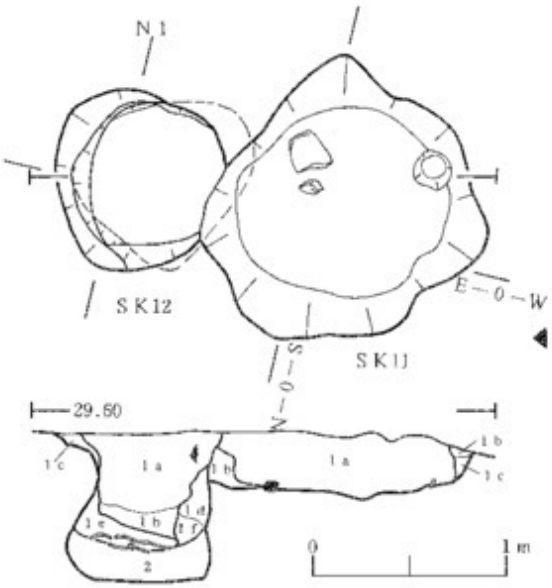


番号	遺構・層位	文　様　の　特　徴	写真図版
1	ＳＫ－10　２層	隆線文（横位・貼瘤状）→ＲＬ縄文	18－6
2	ＳＫ－10　２層	口縁部：隆線文（横位・弧状）　口縁部：ＲＬ縄文　内面：隆線文（横位・曲線）	18－5
3	ＳＫ－10　１層	沈線文（横位・斜位）	18－7
4	ＳＫ－10　１層	ＬＲ縄文→沈線文（横位）	
5	ＳＫ－10　２層	口縁部：隆沈文（横位渦巻文）　頸部：無文	
6	ＳＫ－10　１層	ＲＬ縄文・隆沈文（横位・曲流文）	18－8
7	ＳＫ－10　２層	ＬＲ縄文→沈線文（横位）・矢羽状沈線文	
8	ＳＫ－10　１層	手捏ね、ミガキ	19－1
9	ＳＫ－10　１層	ＲＬ縄文→隆沈文（横位・下垂）	
10	ＳＫ－10　１層	ＬＲ縄文→隆沈文（渦巻文）	

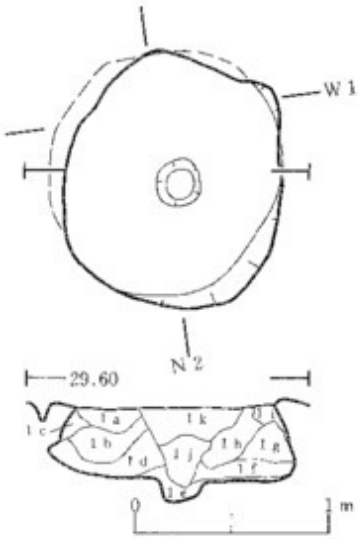
第23図　ＳＫ10土坑出土土器

ＳＫ14土坑　検出面より底面までの深さが約85cmで、中央にピットをもつ袋状土坑である。堆積土は二つに大別出来る。

１層出土の土器片は大木7　ａ～８ｂまで見られるが８ｂのものが圧倒的に多い。２層出土土器片は８ａ、ｂが多い。石器も１層を中心に多い方である。



◀第24図
S K11・12実測図



第25図　S K13実測図

〈S K－11〉

層位	土色	土性	備考
1a	10YR3/3 黒褐色	シルト	炭粒混入
1b	10YR5/6 にぶい黄褐色	シルト	
1c	10YR3/4 黄褐色	シルト	

〈S K－12〉

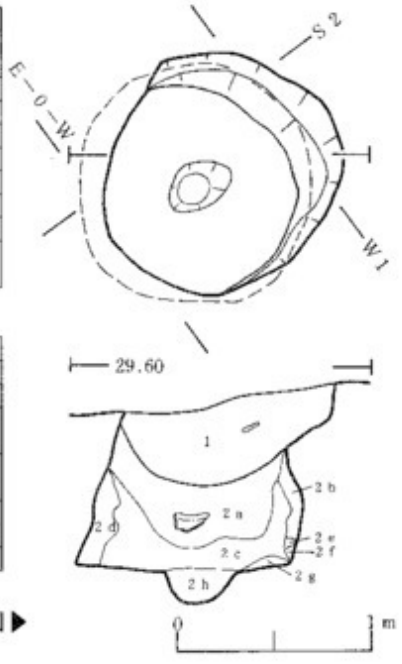
層位	土色	土性	備考
1a	10YR3/3 黒褐色	シルト	炭粒含む
1b	10YR3/4 黒褐色	シルト	焼土粒含む
1c	10YR3/4 黄褐色	シルト	
1d	10YR3/4 黒褐色	シルト	焼土・黄褐色シルト含む
1e	10YR3/3 灰黄褐色	シルト	
1f	10YR3/2 灰黄褐色	シルト	黄橙色シルト含む
2	10YR5/6 にぶい黄褐色	砂質シルト	上部に土器片集中

〈S K－13〉

層位	土色	土性	備考
1a	7.5YR3/4 極暗褐色	シルト	土器・焼土若干含む
1b	7.5YR3/4 極暗褐色	シルト	やや粗い
1c	7.5YR3/4 極暗褐色	シルト	黄橙色シルト若干含む
1d	7.5YR3/4 極暗褐色	シルト	
1e	7.5YR3/4 暗褐色	砂質シルト	しまり有り
1f	10YR3/4 暗褐色	シルト	
1g	7.5YR3/4 極暗褐色	シルト	黄橙色シルト・炭を若干含む
1h	7.5YR3/4 極暗褐色	シルト	黄橙色シルト・炭を若干含む
1i	7.5YR3/4 極暗褐色	シルト	黄橙色シルト若干含む
1j	10YR3/4 暗褐色	シルト	若干砂質
1k	7.5YR3/4 暗褐色	シルト	炭若干混入

〈S K－14〉

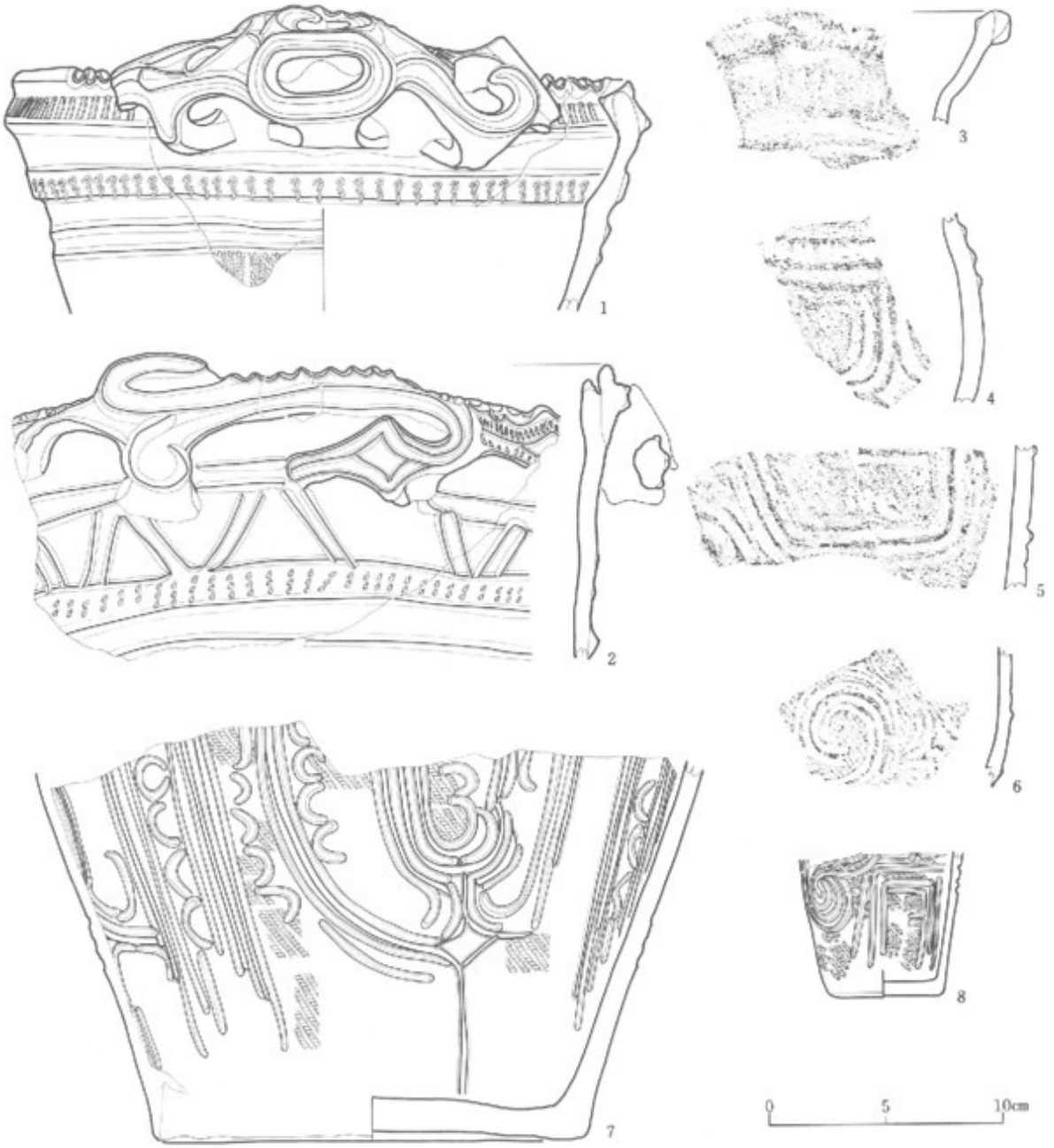
層位	土色	土性	備考
1	10YR3/4 暗褐色	シルト	炭粒若干混入
2a	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	炭粒・土器片混入
2b	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	黄橙色シルト混入
2c	10YR3/4 暗褐色	シルト	炭・黄橙色シルト若干含む
2d	10YR3/4 褐色	シルト	黄橙色シルト混入
2e	10YR3/4 暗褐色	シルト	
2f	10YR3/4 褐色	砂質シルト	
2g	10YR3/4 褐色	砂質シルト	
2h	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	



第26図　S K14実測図▶

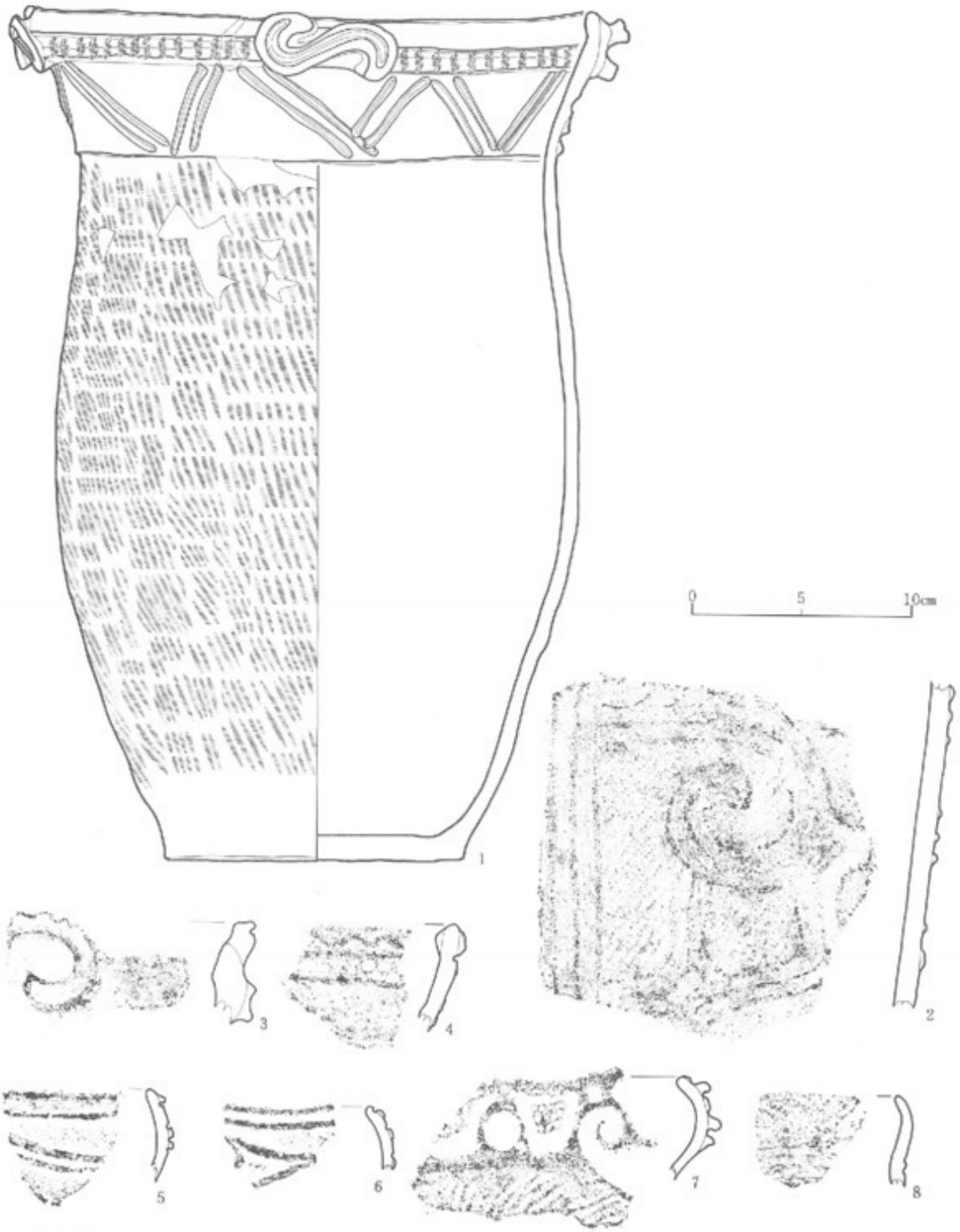
番号	遺構・層位	文様の特徴	写真図版
1	SK—11 1層	沈線文〔方形〕	19—5
2	SK—11 1層	沈線文（横位・渦巻文） 内面：隆線文（横位）	19—4
3	SK—11 1層	口縁部：刻目文をもつ隆帯文 口縁部：LR縄文→隆線文（無調整、横位・渦巻文） 内面：隆線文（横位）	19—3
4	SK—11 1層	LR縄文→隆沈文（横位渦巻文）	
5	SK—11 1層	口縁部：隆線文（横位渦巻文）・一部隆沈文・縦位短沈線文充填 体部：RL縄文	19—6
6	SK—11 1層	口縁部：隆沈文（横位渦巻文） 頸部：無文	
7	SK—11 1層	LR縄文→隆沈文（横位渦巻文）	
8	SK—11 1層	RL縄文→隆沈文（横位・曲線文）・刺突文	
9	SK—12 2層	隆線文（横位・短位・曲線）・交互刺突文	19—7
10	SK—12 1層	隆線文（横位・短位・曲線・波状）	
11	SK—12 1層	口縁部：連続刺突文 頸部～体部：RL縄文 内面：隆線文〔横位「S」字状文〕	20—3

第27図 SK11・12土坑出土土器



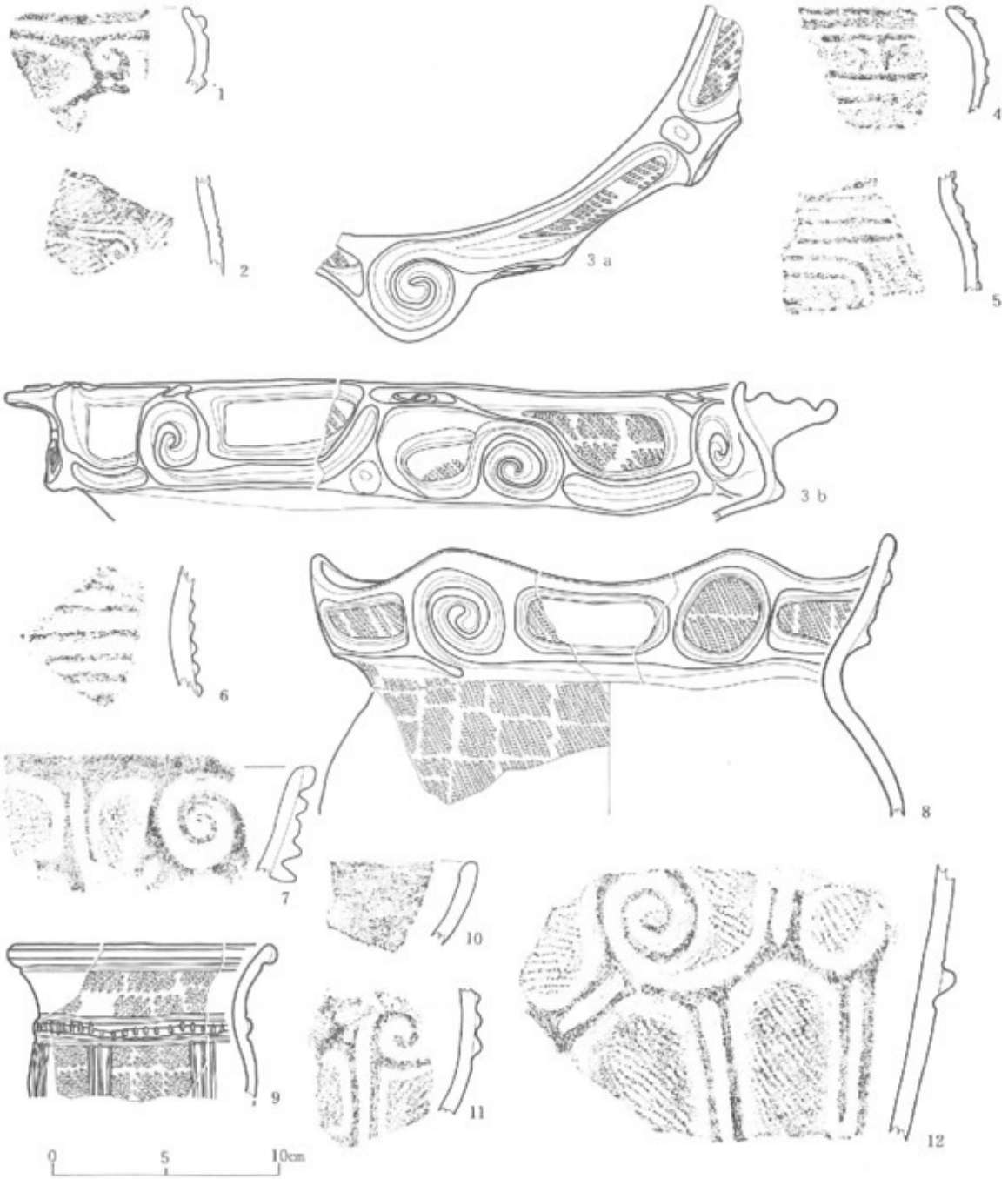
番号	遺構・層位	文様の特徴	写真図版
1	SK—12 2層	口縁部:細隆線を伴う刻目文 口縁部:楔状把手・隆線文・刻目文 頸部:隆線文(横位)・LR縄文押圧 体部:RL縄文	19—9
2	SK—12 1層	口縁部:細隆線を伴う刻目文 口縁部:楔状把手・隆線文・刻目文 頸部:鳥線文(横位・山形)・LR縄文押圧	20—2
3	SK—12 2層	口縁部:刻目文をもつ隆線文 口縁部:R縄文押圧 頸部:鳥線文(横位)	
4	SK—12 2層	沈線文・LR縄文押圧	
5	SK—12 2層	LR縄文→隆沈文(方形・曲流文)	
6	SK—12 1層	LR縄文→隆沈文(渦巻文・弧状)	
7	SK—12 2層	LR縄文→隆沈文・隆線文・沈線文(羽状・下垂) 底面:マメツ	20—5
8	SK—12 2層	LR縄文→沈線文(渦巻文・方形) 底面:ミガキ	20—6

第28図　SK12土坑出土土器



番号	遺構・層位	文様の特徴	写真図版
1	SK−12 2層	口縁部：隆線文（横位・「S」字状文）LR縄文押圧　頭部：沈線文（山形文）　体部：L縄文　施箇：ミガキ	20−1
2	SK−12 2層	LR縄文→隆線文（縦位・渦巻文）	
3	SK−13 1層	無目文をもつ隆線文（「S」字状）	20−7
4	SK−13 1層	口頸部〜口縁部：隆線文（横位・波状）・連続刺突文　頸部上部：無文　頭部下部：隆線文	20−8
5	SK−13 1層	不明縄文→隆沈文（横位・曲流文）	
6	SK−13 1層	不明縄文→隆沈文（横位・有縄渦巻文）	
7	SK−13 1層	口縁部：隆沈文（横位渦巻文）・刺突文充填　頸部：LR縄文	20−10
8	SK−13 1層	口縁部：LR縄文　頭部：沈線文（横位）	20−9

第29図　SK12・13土坑出土土器



番号	遺構・層位	文様の特徴	写真図版
1	SK−13 1層	不明縄文→陰沈文（横位波巻文）	
2	SK−13 1層	RL縄文→沈線文（横位有節渦巻文）	
3	SK−13 1層	口縁部：RL縄文→陰沈文（横位渦巻文）・刺突文・渦巻突起　頸部上部：無文	20−11
4	SK−14 2層	不明縄文→陰線文（無調整、横位・蛇状）	21−4
5	SK−14 2層	LR縄文→陰線文（無調整、横位・曲線文）	
6	SK−14 2層	陰線文	
7	SK−14 1層	LR縄文→陰沈文（渦巻文）	21−6
8	SK−14 1層	口縁部：LR縄文→陰沈文（横位渦巻文・楕円文）　頸部〜体部：LR縄文	21−2
9	SK−14 2層	口縁部：陰沈文（横位）　頸部：LR縄文　体部：LR縄文→刻目文のつく陰沈文（横位）・沈線文（下垂）	21−1
10	SK−14 1層	ミガキ	
11	SK−14 1層	RL縄文→陰沈文（縦位渦巻文）	
12	SK−14 2層	LR縄文→陰沈文（横位渦巻文・下垂）	21−7

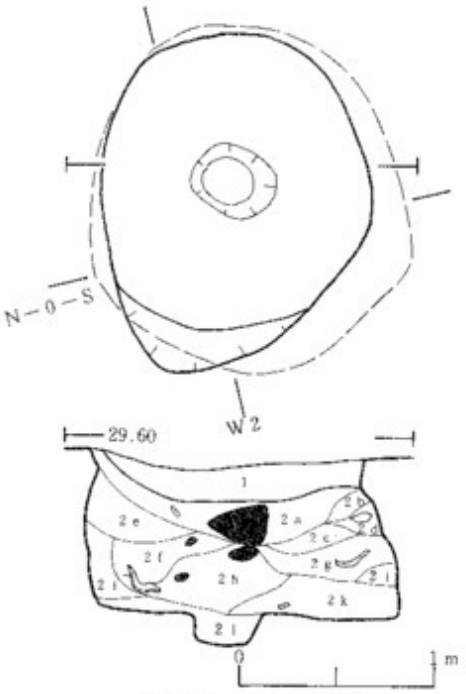
第30図　ＳＫ13･14土坑出土土器

ＳＫ15土坑　ＳＤ２溝状遺構、ＳＫ17土坑を切る。底面までの深さが約80cmで、底面中央にピットをもつ袋状土坑である。

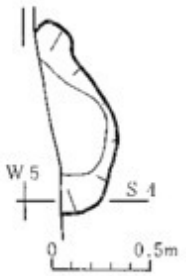
堆積層は大きく二つに分けられる。１層とした部分は層厚約20cmと薄いものであるが、大木７ａ～８ｂの土器片のうち８ｂが多いものである。Ⅱ層（包含層）が凹部に堆積したものなのだろうか。石器の出土も多い層である。２層は大木７ａ～９式までの破片が出土しており、８ａ、ｂが多い。９式の土器は１片のみである。

〈ＳＫ－15〉

層位	土色	土性	備考
1	10YR3/4 黒褐色	シルト	土器炭混入
2a	10YR3/3 暗褐色	シルト	土器片混入
2b	10YR3/3 暗褐色	シルト	やや暗い
2c	10YR3/3 暗褐色	シルト	やや明るい
2d	10YR3/2 黒褐色	シルト	土器片混入
2e	10YR3/2 黒褐色	シルト	
2f	10YR3/2 黒褐色	シルト	土器・炭若干混入
2g	10YR3/3 暗褐色	シルト	
2h	10YR3/4 黒褐色	シルト	
2i	10YR3/2 黒褐色	シルト	
2j	10YR3/4 黒褐色	シルト	
2k	10YR3/4 にぶい黄褐色	シルト	
2l	10YR3/4 暗褐色	シルト	



第31図　ＳＫ15実測図



第32図　ＳＫ16実測図▶

ＳＫ16土坑　調査区西壁外に半分かかるものであり、今まで述べた土坑とは形態を異にする。深さは約30cmで、検出できた平面形は変形な楕円形といったところである。規模も先に述べたＳＫ12土坑より小さく、後にふれるＳＫ20土坑に近似するものかも知れない。

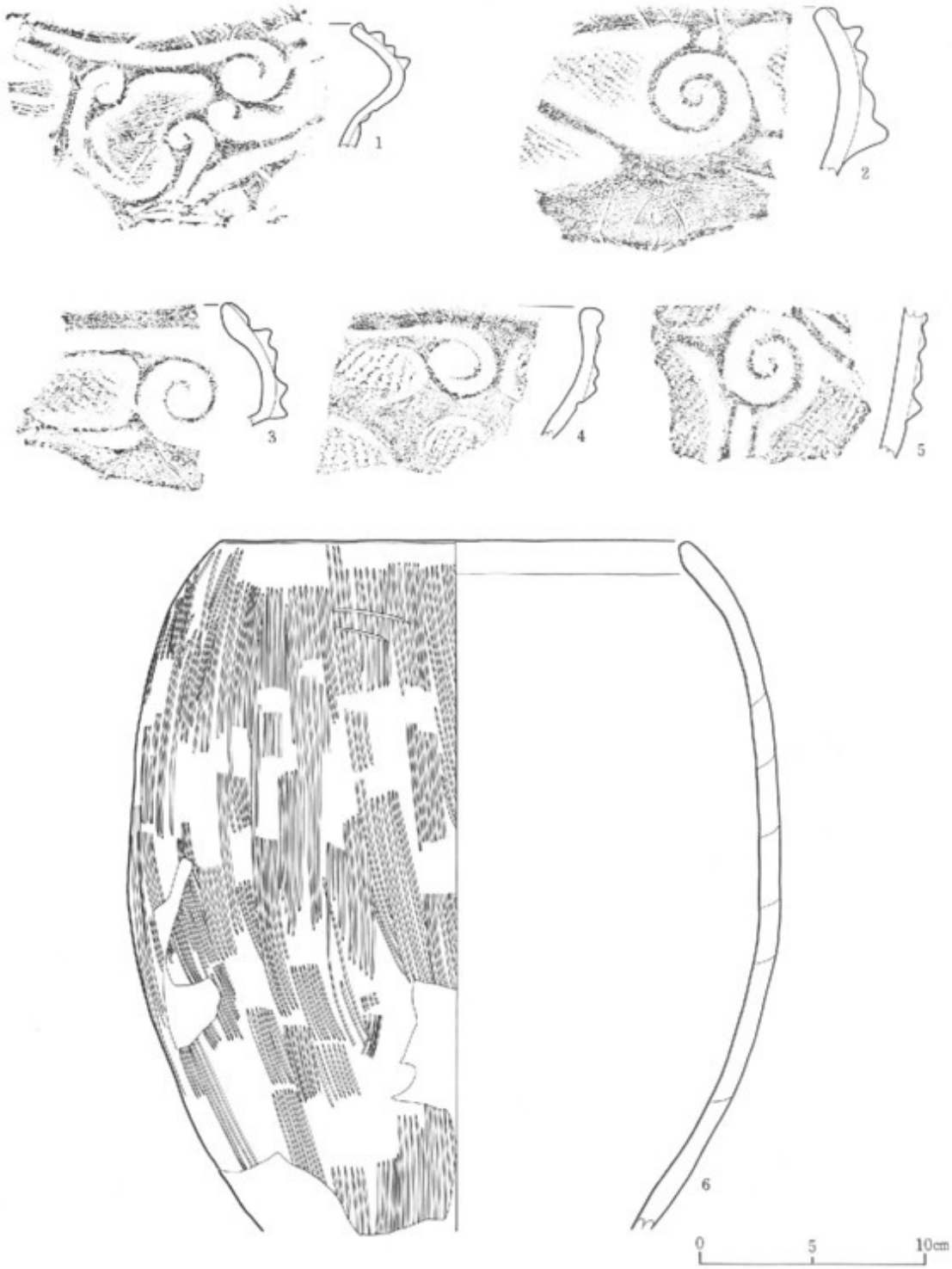
堆積土は２層に大別したが、１層と把えたものがⅡ層の残りの可能性も否定できない。遺物は１層からで、土器、石器とも若干である。大木８ａ、ｂのものである。

ＳＫ17土坑　ＳＫ15土坑、ピット４に切られるもので、底面までの深さ約20cmしかない。半分以上がＳＫ15土坑に切られて全様不明である。

堆積土は暗褐色シルトの１層で、大木８ａ、ｂ式の土器片や石器片が若干出土した。

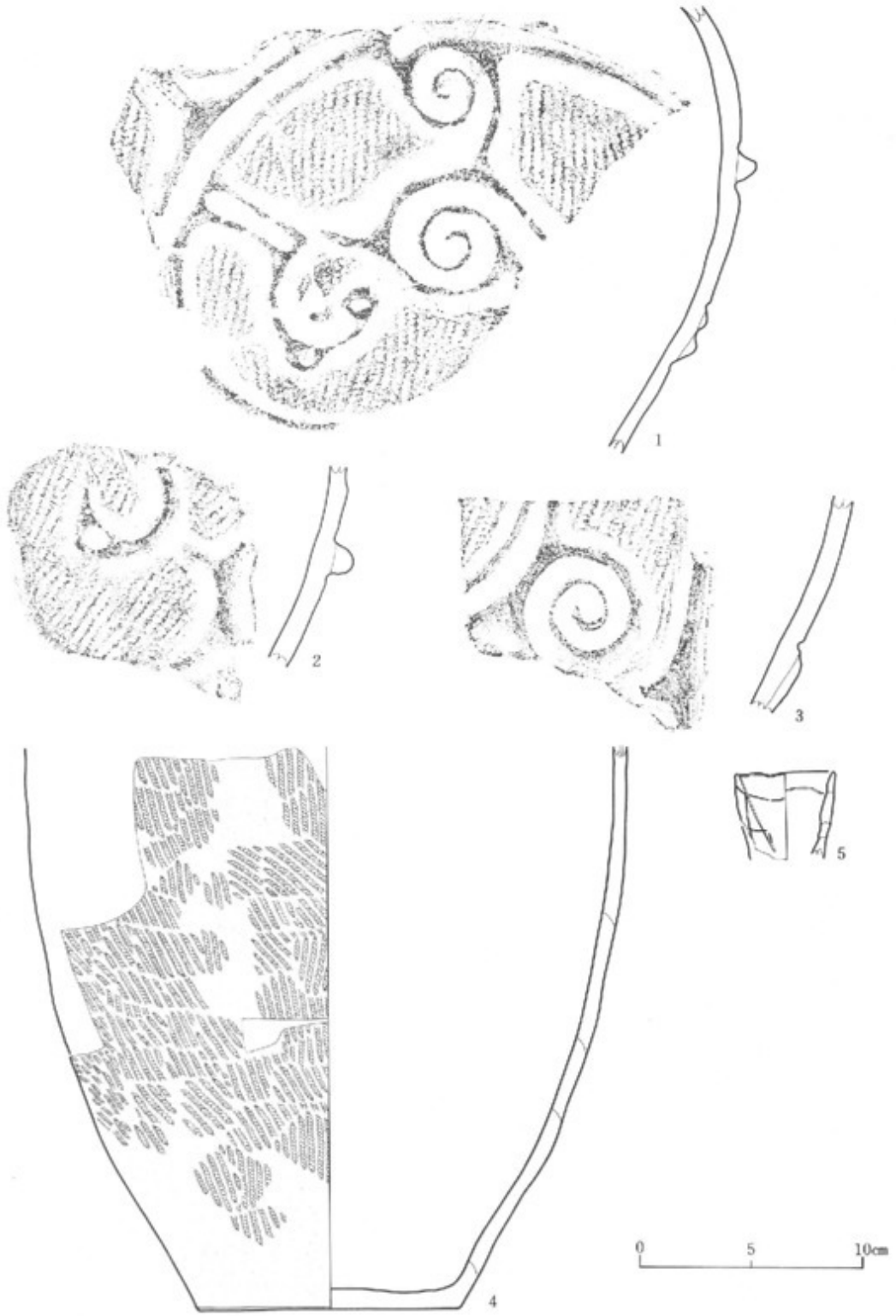
番号	遺構・層位	文様の特徴	写真図版
1	SK—15 1層	口縁部：隆線文　頸部：LR縄文	
2	SK—15 1層	口縁部：LR縄文→隆線文（無調整、横位）　頸部：LR縄文→隆沈文（横位）	21—14
3	SK—15 1層	RL縄文→隆線文（無調整、曲流文）	
4	SK—15 1層	不明縄文→隆線文（無調整、横位・曲流文）	
5	SK—15 1層	隆沈文	21—15
6	SK—15 1層	隆沈文（横位）・LR縄文	21—9
7	SK—15 1層	RL縄文→隆線文（無調整、渦巻状）	
8	SK—15 1層	RL縄文→沈線文（曲流文）	
9	SK—15 1層	RL縄文→隆線文（無調整）	
10	SK—15 1層	口縁部：隆沈文（横位渦巻文）　頸部：無文	21—8
11	SK—15 2層	口縁部：LR縄文→隆沈文（横位渦巻文）　頸部：無文　体部：LR縄文→隆沈文（横位・渦巻文）	22—1
12	SK—15 1層	隆線文（渦巻文・曲流文）・RL縄文	22—3

第33図　SK15土坑出土土器



番号	遺構・層位	文様の特徴	写真図版
1	SK−15 1層	RL縄文→隆沈文〔横位渦巻文〕	21−10
2	SK−15 1層	口縁部：LR縄文→隆沈文（横位渦巻文）　頸部：無文	22−2
3	SK−15 1層	口縁部：LR縄文→隆沈文（横位渦巻文）　頸部：無文	
4	SK−15 2層	隆沈文〔渦巻文〕・沈線文（楕円文）・RL縄文	22−9
5	SK−15 1層	RL縄文→隆沈文〔有軸渦巻文〕	
6	SK−15 1層	櫛目状条線文	21−12

第34図　ＳＫ15土坑出土土器



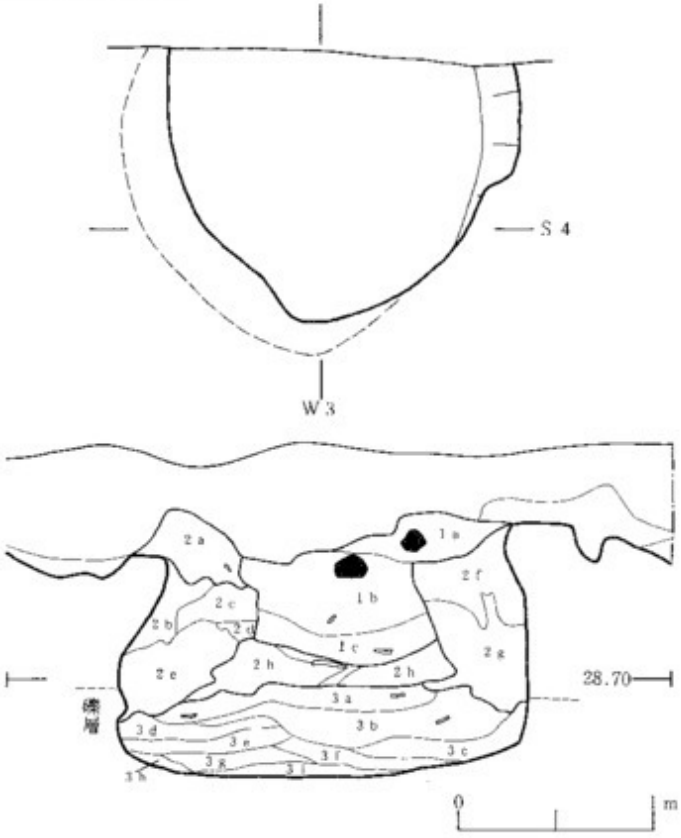
番号	遺構・層位	文様の特徴	写真図版
1・2	SK—15 2層	RL縄文→隆沈文（有軸渦巻文）	22—6
3	SK—15 2層	RLR縄文→隆沈文（渦巻文）	22—8
4	SK—15 1層	LR縄文	22—4
5	SK—15 1層	手捏ね、条線文	22—10

第35図　SK15土坑出土土器

ＳＫ18土坑　調査区南側に半分を残す土坑であるが、調査できた半分だけでも規模の大きい土坑である。検出面から約１ｍ20cmの深さがあり、底面は段丘礫層をも約40cm掘り込んで作られている。底面にはピット等の痕跡は検出されなかった。袋状土坑である。

堆積土は大きく三つに分けられ、そのうちの２層は、壁崩落土を混入する層である。土器片は大木７ａ～８ｂまでのものであり（１層は７ｂ～）、各層とも８ａ、ｂを中心とするものである。石器も多く、石鏃、石錐、スクレーパー、フレーク等150点以上の出土がある。

３層上面には灰白色の粘土が若干見られた。



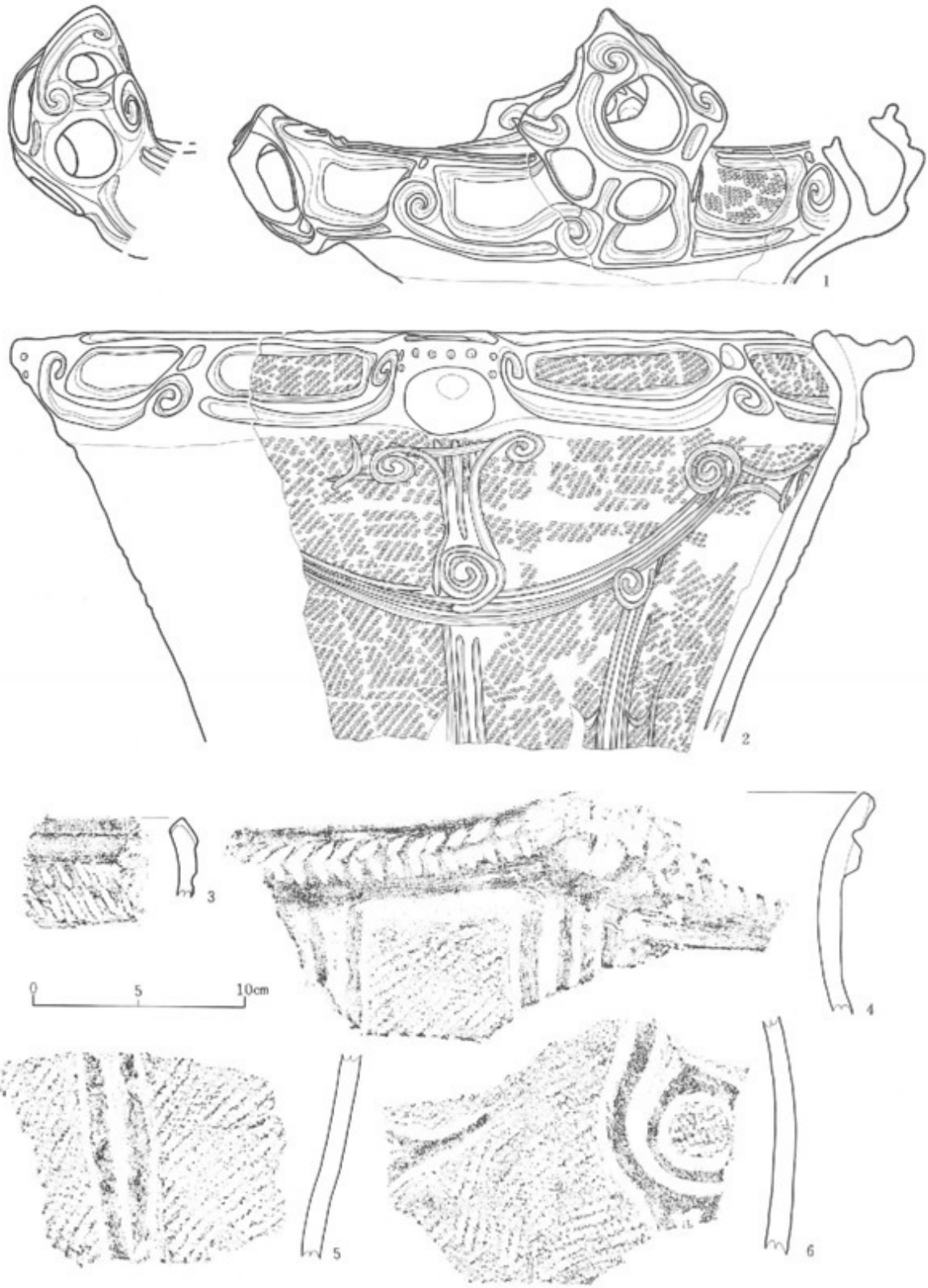
第36図　ＳＫ18実測図▶

〈ＳＫ－18〉

層位	土色	土性	備考
1a	10YR3/4 暗褐色	シルト	炭若干混入
1b	10YR3/3 暗褐色	シルト	土器・炭若干混入
1c	10YR3/4 暗褐色	シルト	炭・土器多量に混入
2a	10YR4/4 褐色	シルト	土器若干混入
2b	10YR3/4 暗褐色	シルト	
2c	10YR3/4 暗褐色	シルト	炭若干混入
2d	10YR3/4 暗褐色	シルト	
2e	10YR3/4 黄褐色	シルト	部分的に砂混入
2f	10YR3/4 暗褐色	シルト	
2g	10YR3/4 黄褐色	シルト	部分的に砂混入
2h	10YR3/4 暗褐色	シルト	黄褐色シルトを多量に混入、炭若干混入
3a	10YR3/4 暗褐色	シルト	炭多量に混入
3b	10YR3/4 暗褐色	シルト	
3c	10YR3/4 黒褐色	シルト	しまり有り、炭若干混入
3d	10YR3/4 褐色	シルト	炭・小石若干混入
3e	10YR3/4 暗褐色	シルト	炭・褐色シルト若干混入
3f	10YR3/4 黒褐色	シルト	焼土・炭若干混入
3g	10YR3/4 黒褐色	シルト	しまり有り、炭若干混入
3h	10YR3/4 褐色	シルト	
3i	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	焼土・炭若干混入

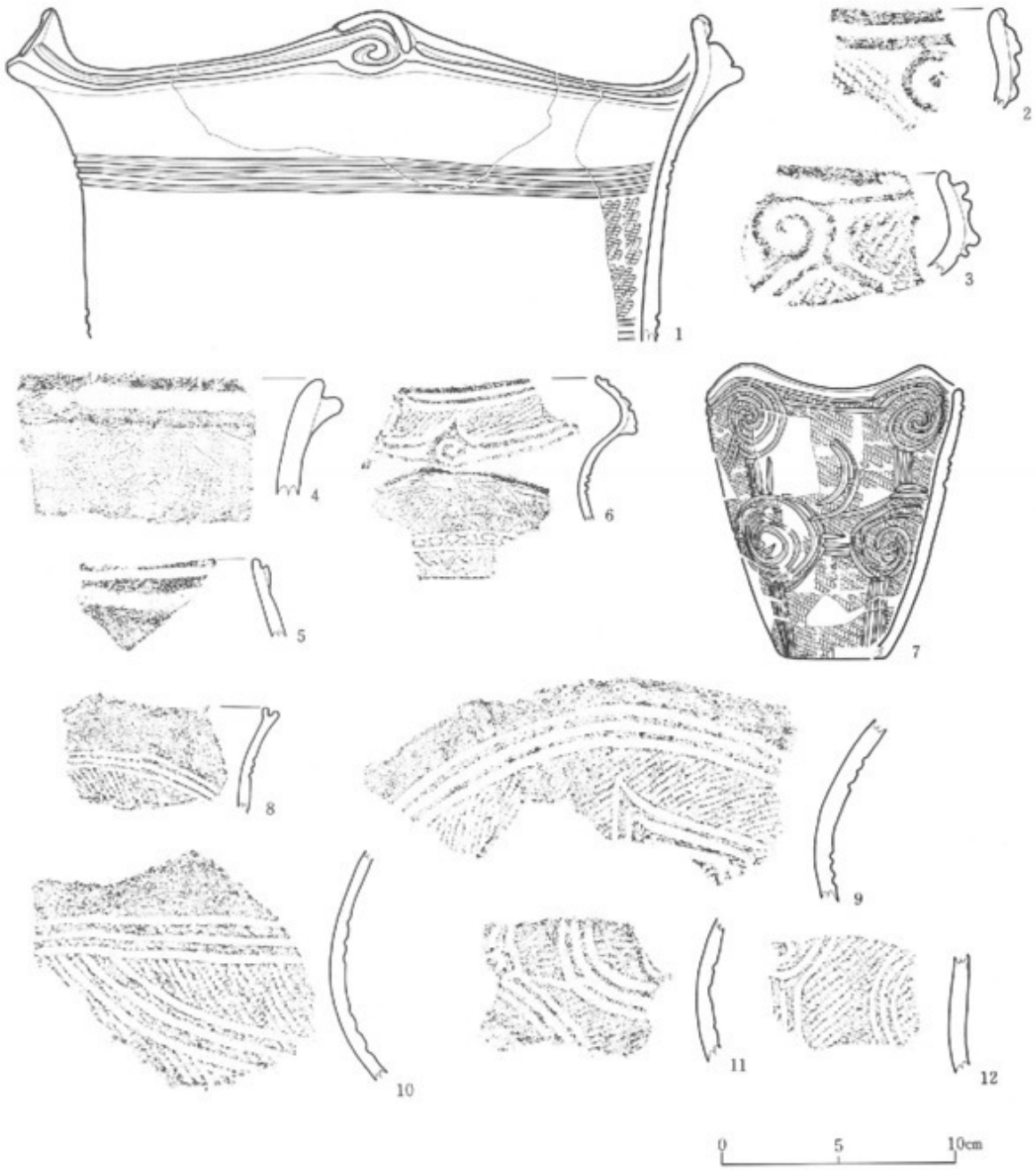
番号	遺構・層位	文　様　の　特　徴	写真図版
1	ＳＫ—16　1層	口唇部：隆沈文　頸部上部：ＲＬ縄文　内面：隆線文（横位）	21—16
2	ＳＫ—16　1層	ミガキ	
3	ＳＫ—16　1層	梱目状条線文・隆沈文（渦巻文）	
4	ＳＫ—17　1層	口唇部：刻目文　口縁部～頸部：刻目文のある隆線文・沈線文（弧状）	
5	ＳＫ—17　1層	口唇部：刻目文　口縁部：平行沈線文にはさまれた刺突文　頸部～体部：ＲＬ縄文→沈線文（曲流文）	21—18
6	ＳＫ—17　1層	不明縄文→隆線文（横位・縦位・波状）	
7	ＳＫ—17　1層	不明縄文→沈線文（横位・波状）	
8	ＳＫ—17　1層	ＬＲ縄文→沈線文（渦巻文・縦位）	
9	ＳＫ—17　1層	ＲＬ縄文・隆沈文（渦巻文）	
10	ＳＫ—17　1層	ＬＲ縄文→隆沈文（渦巻文）	
11	ＳＫ—17　1層	ＲＬ縄文→隆沈文（渦巻文）	
12	ＳＫ—18　1層	隆線文・平行沈線文にはさまれた刺突文　内面：隆線文（「Ｓ」字状文）	23—4
13	ＳＫ—18　1層	口唇部：隆線文（横位・波状）　口縁部：ＲＬ縄文→隆線文（渦巻文）	23—5
14	ＳＫ—18　1層	口唇部：刻目文　口縁部～頸部：隆線文（横位）・沈線文（横位・縦位）　内面：隆線文（横位）	
15	ＳＫ—18　3層	口唇部：隆線文　口縁部：ＬＲ縄文　内面：隆線文（横位）	23—8
16	ＳＫ—18　2層	不明縄文→隆線文（横位・曲流文）	
17	ＳＫ—18　2層	ＲＬ縄文→隆線文（無製盤、有軸渦巻文）	23—6

第37図　ＳＫ16・17・18土坑出土土器



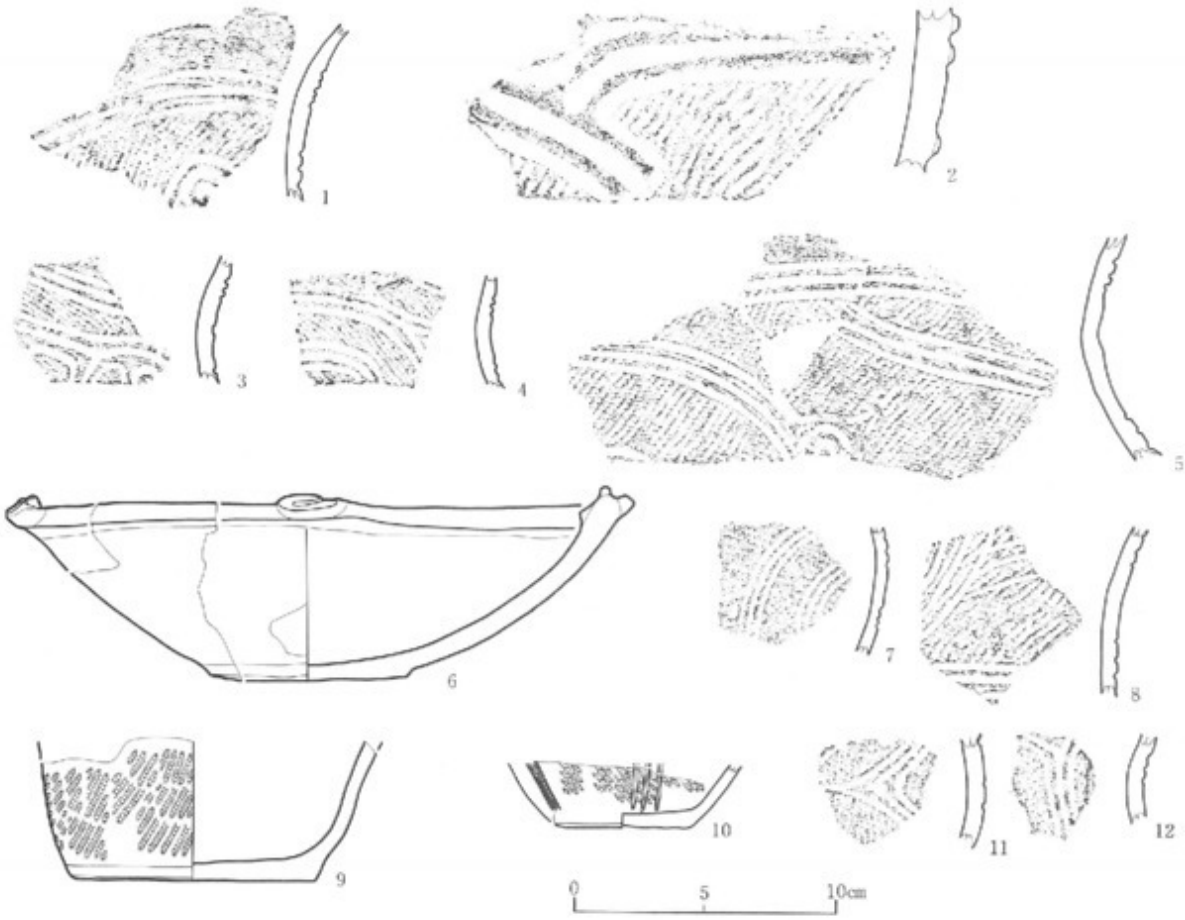
番号	遺構・層位	文様の特徴	写真図版
1	SK—18 3層	口縁部：LR縄文→隆沈文（楕位渦巻文）・渦巻突起　頸部：無文	23—7
2	SK—18 2層	口縁部：LRL縄文→隆沈文（楕位渦巻文）・渦巻突起・刺突文　体部：LRL縄文→沈線文（楕位渦巻文・下垂）	24—10
3	SK—18 3層	口唇部：隆線文　口縁部：刺突帯の短沈線文	24—8
4・5・6	SK—18 1層	口縁部：矢羽状刺突文　頸部：隆線文　体部：LRL縄文→隆沈文（渦巻文・下垂）	24—1,2,3

第38図　SK18土坑出土土器



番号	遺構・層位	文様の特徴	写真図版
1	SK—18 1層	口縁部：隆線文・隆沈文（横位渦巻文） 頸部：無文 体部：RL縄文→沈線文	24—12
2	SK—18 3層	RL縄文→隆線文（渦巻文）	
3	SK—18 3層	RL縄文→隆沈文（横位渦巻文）	24—5
4	SK—18 3層	口縁部：隆沈文（横位） 頸部：無文	24—6
5	SK—18 2層	口縁部：隆沈文（横位） 頸部：無文	
6	SK—18 3層	口縁部：LR縄文→隆沈文（有縄横位渦巻文） 頸部：無文 体部：LR縄文→横位沈線文にはさまれた連続刺突文	24—4
7	SK—18 2層	RL縄文→沈線文（横位・渦巻文・下垂）	24—11
8	SK—18 3層	LR縄文 沈線文 頸部：無文 体部：LR縄文→沈線文（横位）	
9	SK—18 3層	頸部：無文 体部：RL縄文→沈線文（横位・有棒渦巻文）	24—14
10	SK—18 3層	頸部：無文 体部：LR縄文→沈線文（横位・曲流）	23—3
11	SK—18 3層	RL縄文→沈線文（曲線）	
12	SK—18 1層	RL縄文→沈線文（渦巻文・下垂）	

第39図　SK18土坑出土土器



番号	遺構・層位	文様の特徴	写真図版
1	SK—18 3層	頸部：無文　体部：RL縄文→沈線文（横位・渦巻文）	
2	SK—18 2層	RL縄文→沈線文（曲線文）	
3・4	SK—18 3層	LR縄文→沈線文（曲線文）	
5	SK—18 3層	頸部：無文　体部：RL縄文・沈線文（横位・弧位有軸渦巻文）	
6	SK—18 3層	口縁部：隆線文（渦巻文）　頸部～体部：無文（ミガキ）　底面：ミガキ	24—13
7	SK—18 1層	RL縄文・沈線文（曲線文）	
8	SK—18 2層	RL縄文→沈線文（曲線文）	
9	SK—18 3層	LR縄文　底面：ナデ	24—15
10	SK—18 3層	LR縄文→沈線文（下垂）　底面：ミガキ	
11	SK—18 3層	LR縄文→沈線文（有軸渦巻文）	
12	SK—18 2層	RL縄文→沈線文	

第40図　SK18土坑出土土器

SK19土坑　SK20土坑に切られている。また半分以上は調査区西側にはみ出して調査できなかった。堆積土は大別して2層である。

ここでも1層はⅡ層が凹部に落ち込み堆積した可能性がある。また1層中に灰白色粘土が若干混入している。

出土土器を見ると上例同様、1、2層とも大木7a～8bに該当するものだが、1層では7bの破片もけっこう見られる。石器は1、2層ともフレーク、礫石器等10数点ずつ出土した。

ＳＫ20土坑　ＳＫ19土坑を切っており、また同じように調査区西壁外へ半分以上が残っているものである。ＳＫ16土坑同様に他の土坑とは形態を異にする。調査できたのが半分以下なので比較はむずかしいが、土坑上端に配石されていることなど、ＳＫ16土坑とも異なる。

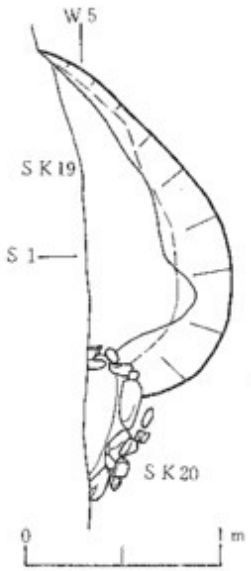
堆積土はＳＫ19土坑の１層部分（ＳＫ19の陥没によって引き込まれたⅡ層の一部と考えられる。）に切られているような形になっており、底面付近に若干残っているだけである。出土土器は大木８ａ、ｂを中心とするものであり、石器はフレークなど若干である。

ＳＫ21土坑　欠番。

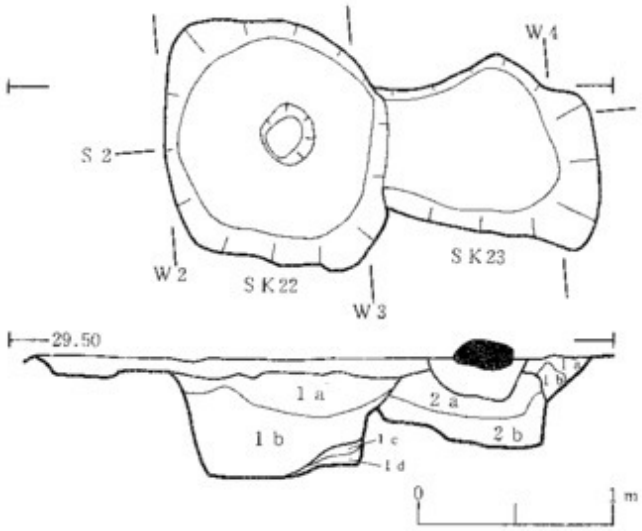
ＳＫ22土坑　ＳＫ23土坑を切っている。上面が耕作等により攪乱されており、その範囲、ＳＫ23土坑との重複関係が把えにくかった。結局、検出面からの深さ約55cmで底面中央付近にピットを有するものであった。

堆積土は大きく一つである。土器片は大木７ｂ～８ｂまで見られるが、点数は少い。石数の出土も同様に若干である。

ＳＫ23土坑　ＳＫ22土坑に切られている。底面ピットは見られない。堆積土は大別して２層だが、土器の出土がなく、石器もごく少い。



◀第41図
ＳＫ19・20
実測図



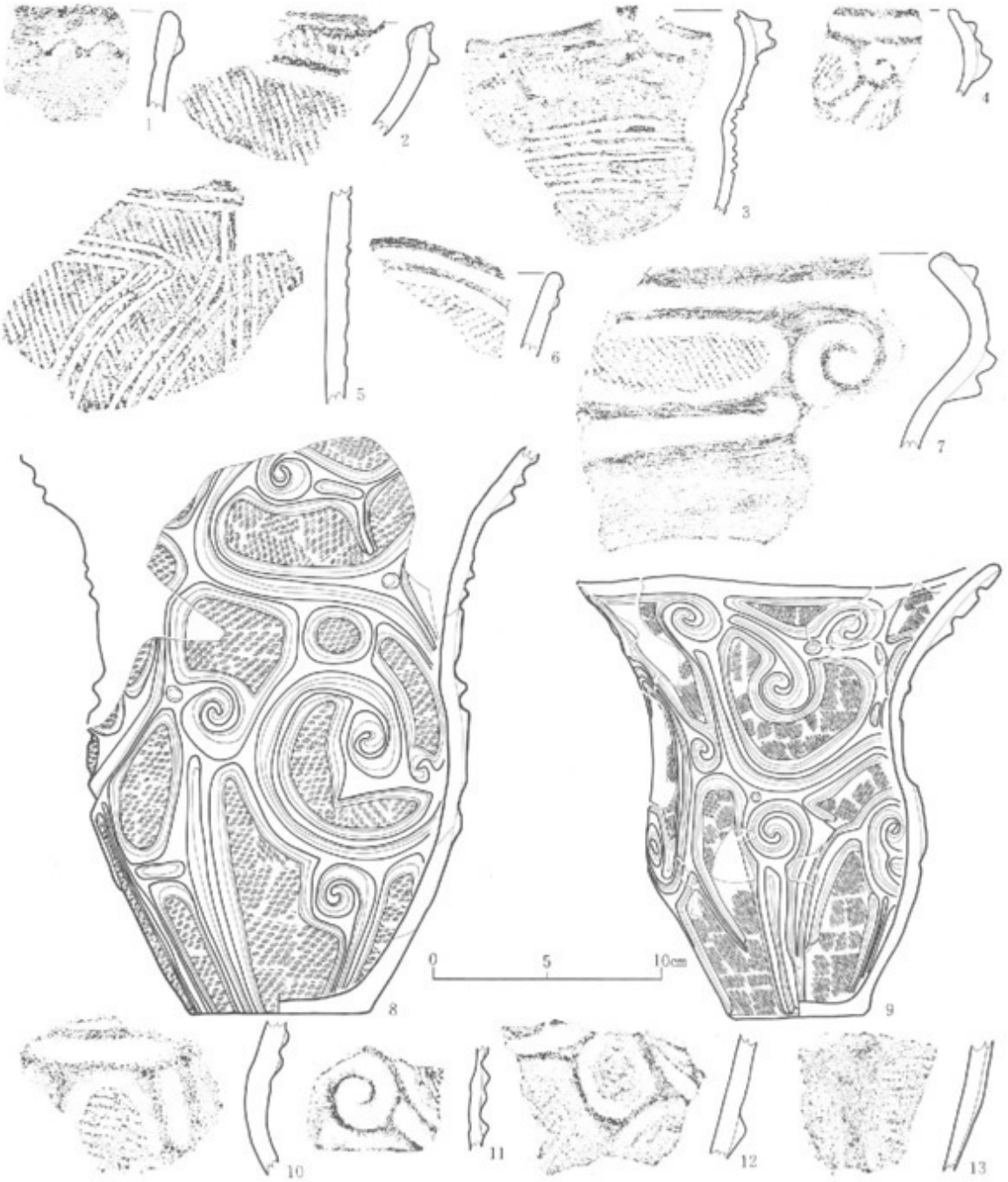
第42図　ＳＫ22・23実測図

〈ＳＫ－22〉

層位	土色	土性	備考
1 a	10YR½ 黒褐色	シルト	炭粒含む
1 b	10YR½ 暗褐色	シルト	炭粒・黄褐色シルトをブロック状に含む
1 c	10YR½ 褐色	砂質シルト	
1 d	10YR½ にぶい黄褐色	シルト質砂	

〈ＳＫ－23〉

層位	土色	土性	備考
1 a	10YR½ 褐色	シルト	焼土・黄褐色シルト混入
1 b	10YR½ 黄褐色	シルト	黄褐色シルト
2 a	10YR½ 黒褐色	シルト	炭粒含む
2 b	10YR½ 暗褐色	シルト	炭粒・黄褐色シルトをブロック状に含む

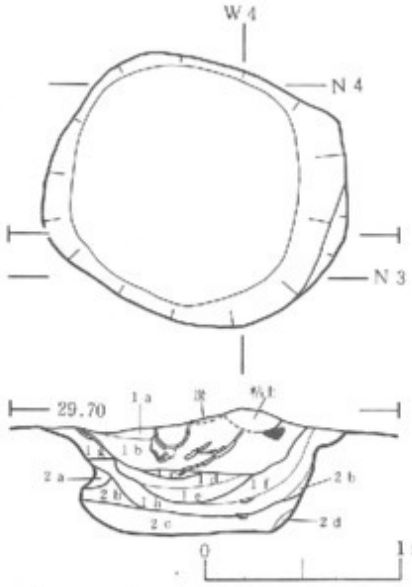


番号	遺構・層位	文様の特徴	写真図版
1	SK—19 1層	押圧のある隆線文	25—1
2	SK—19 2層	口唇部：隆線文・LR縄文押圧　口縁部：隆線文・LR縄文押圧　頸部：LR縄文	
3	SK—19 2層	口縁部：不明縄文→隆線文・円形貼付文　頸部：不明縄文→隆沈文（横位）	25—4
4	SK—19 1層	RL縄文→隆沈文（横位渦巻文）	
5	SK—19 1層	LR縄文→沈線文（横位・短位・曲線文）	25—5
6	SK—19 1層	RL縄文→隆沈文	
7	SK—19 1層	口縁部：RL縄文→隆沈文（横位渦巻文）　頸部：無文	
8	SK—19 1層	RLR縄文→隆沈文（横位有縫渦巻文・下垂）　底面：ナデ	25—7
9	SK—19 1層	LR縄文→隆沈文（横位有縫渦巻文・下垂）　底面：ミガキ	25—6
10	SK—19 1層	RL縄文→隆沈文	
11	SK—19 1層	LR縄文→隆沈文（渦巻文）	
12	SK—19 1層	RL縄文→隆沈文	
13	SK—19 1層	RL縄文→隆沈文	

第43図　ＳＫ19土坑出土土器

ＳＫ24土坑　検出面より約55cmの深さで、底面にピットが見られない。袋状土坑のようでもあるがはっきりしない。

堆積土は大別して２層である。１層は１ａ～１ｃまでの上層、１ｄ、１ｅの中層、１ｆ～１ｈの下層に分けられ、土器片は全てこれらの層からの出土になる。土器形式でいうと大木７ａ～８ｂまでのものであるが、８ｂのものが圧倒的に多い。特に１ａ、ｂ層の土器片の入り方はⅡ層形成時の流れ込み的状況を呈している。石器は１、２層から出土しており、特に１層からは多数出土している。



〈ＳＫ－24〉

層位	土色	土性	備考
1a	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	焼土含む
1b	7.5YR3/2 黒褐色	シルト	炭粒含む
1c	7.5YR4/3 褐色	シルト	
1d	7.5YR3/4 暗褐色	シルト	
1e	7.5YR3/2 黒褐色	シルト	
1f	7.5YR3/4 暗褐色	シルト	黄褐色シルト混入
1g	7.5YR4/3 褐色	シルト	炭粒若干混入
1h	7.5YR3/2 黒褐色	シルト	炭粒若干混入
2a	10YR5/6 明黄褐色	シルト	
2b	7.5YR3/4 暗褐色	シルト	
2c	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	
2d	10YR3/4 暗褐色	シルト	

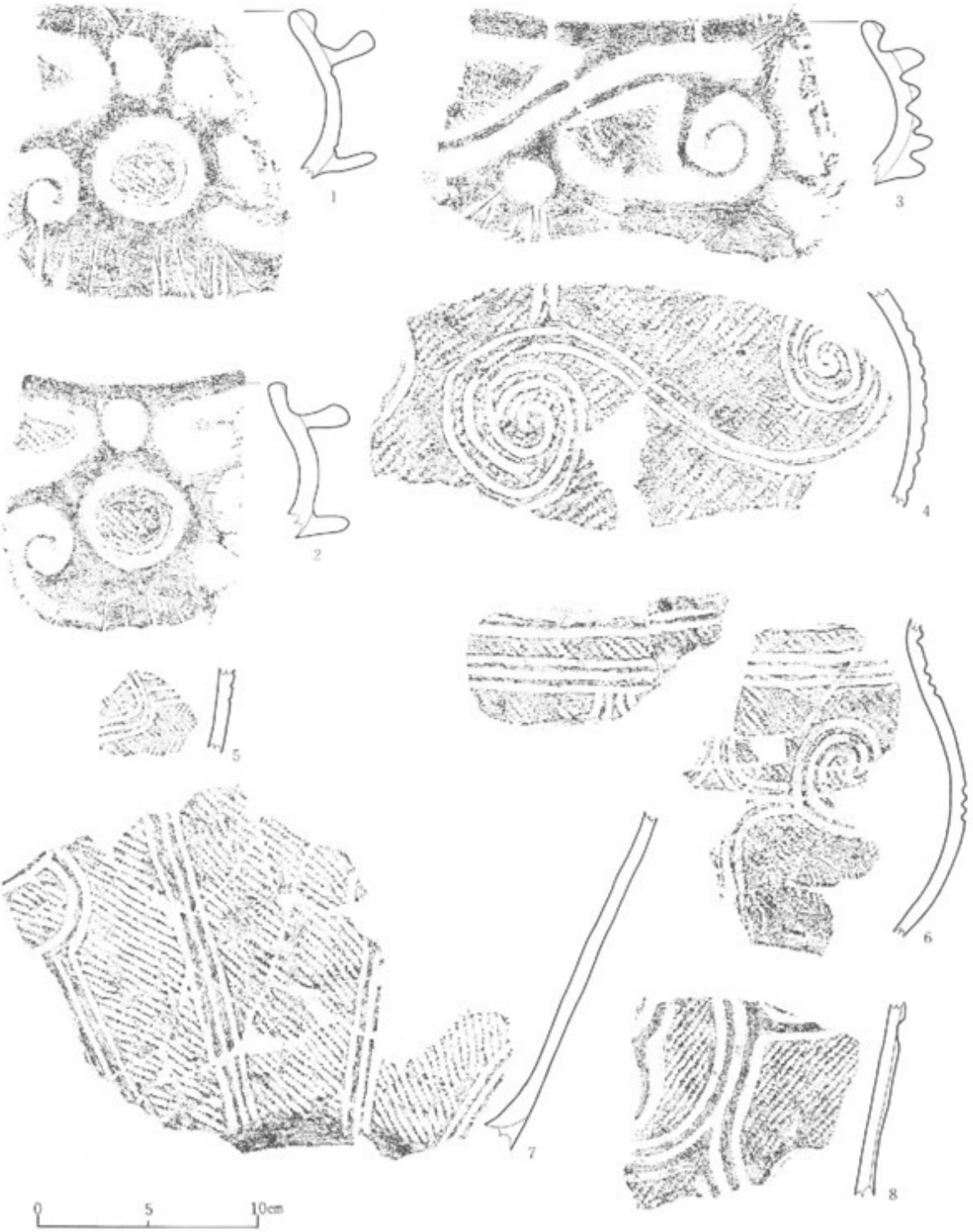
◀ 第44図　ＳＫ24実測図

番号	遺構・層位	文様の特徴	写真図版
1	ＳＫ－24　１層	口唇部:浅巻把手・刻目文　口縁部:隆線文(横位・渦巻文)・刻目文　頸部:無文　体部:ＬＲ縄文→沈線文(横位・渦巻文)	25－14
2	ＳＫ－24　１層	口縁部：隆線文（渦巻文）　頸部：押圧のある隆線文	25－13
3	ＳＫ－24　１層	口縁部：ＬＲ縄文→隆線文（無調整、横位・方形）　頸部：沈線文　内面：隆線文（方形）	25－15
4・5	ＳＫ－24　１層	口唇部：隆線文・連続刺突文　口縁部：沈線文（弧状）	25－10,11
6	ＳＫ－24　１層	ＬＲ縄文→隆線文（横位・波状）	
7	ＳＫ－24　１層	ＬＲ縄文→隆沈文（横位・渦巻文）	

第45図　ＳＫ24土坑出土土器

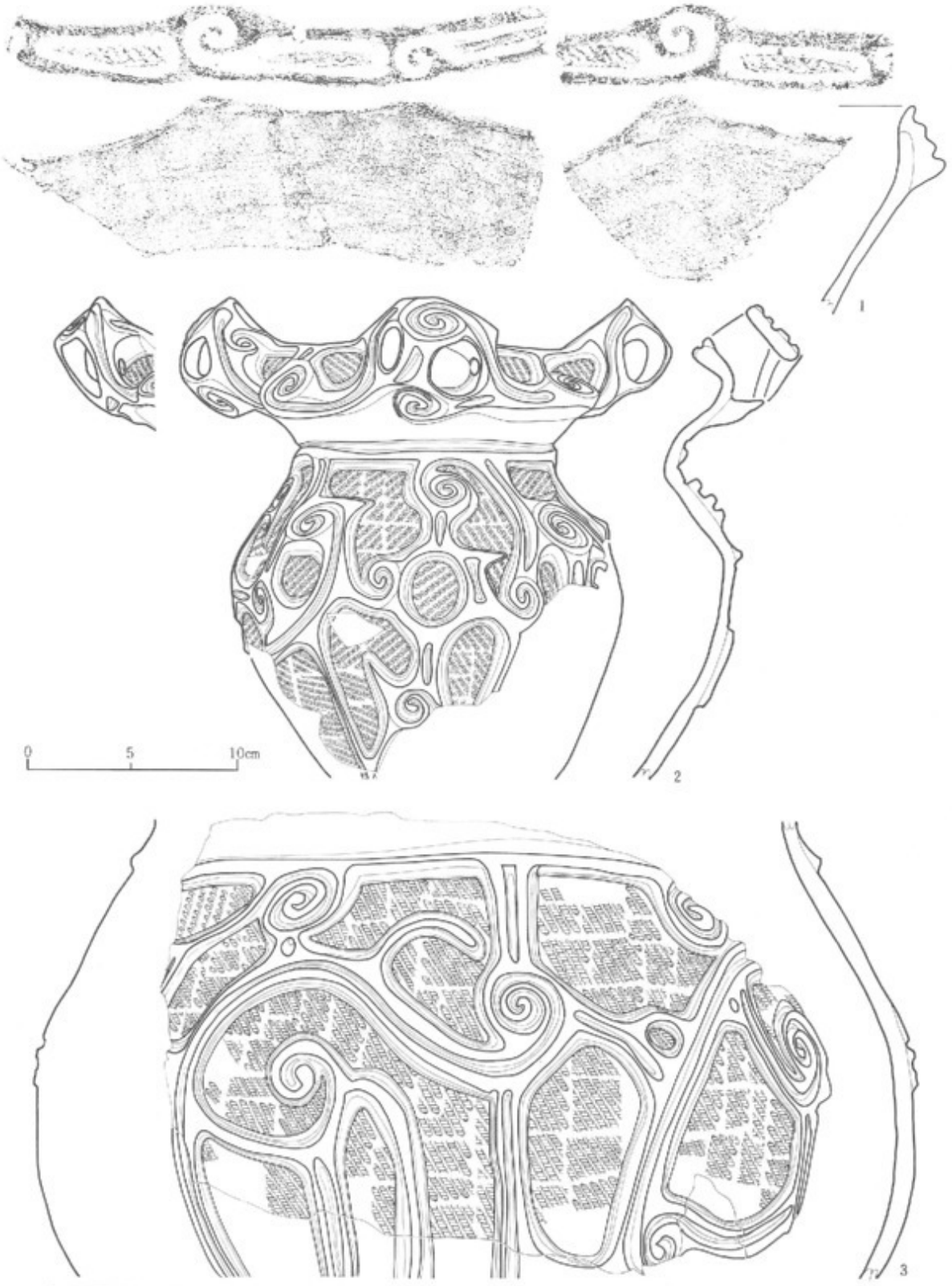
番号	遺構・層位	文　　様　　の　　特　　徴	写真図版
1	ＳＫ－24　1層	ＲＬ縄文→隆線文（横位・波状）・隆沈文	26－1
2	ＳＫ－24　1層	ＬＲ縄文→隆線文（無調整）	26－2
3	ＳＫ－24　1層	隆沈文（横位・渦巻文）・ミガキ	
4	ＳＫ－24　1層	ＬＲ縄文→沈線文（横位・縦位・波状・下垂）	27－6
5	ＳＫ－24　1層	ＬＲ縄文→隆沈文（横位渦巻文）	
6	ＳＫ－24　1層	ＬＲ縄文→沈線文（渦巻文・下垂）・刺突文	26－3
7	ＳＫ－24　1層	ＬＲ縄文→隆線文（渦巻文）	
8	ＳＫ－24　1層	口縁部：ＬＲ縄文→隆沈文（横位渦巻文）　頸部：無文	26－4
9	ＳＫ－24　1層	口縁部：隆線文（横位渦巻文）→刻目のつく隆線文　頸部：斜位短沈線文・沈線文（横位）	26－6
10	ＳＫ－24　1層	ＬＲ縄文→隆沈文（横位渦巻文）	26－5
11	ＳＫ－24　1層	口縁部：ＲＬＲ縄文→隆沈文（横位渦巻文）　頸部：無文　体部：沈線文	26－7
12	ＳＫ－24　1層	ＬＲ縄文→隆沈文（渦巻文）	
13	ＳＫ－24　1層	口縁部：穿孔・ミガキ　頸部～体部：隆線文による円文・ミガキ	25－12
14	ＳＫ－24　1層	口縁部：隆線文・横位橋状把手　体部：ＲＬ縄文	28－8

第46図　ＳＫ24土坑出土土器



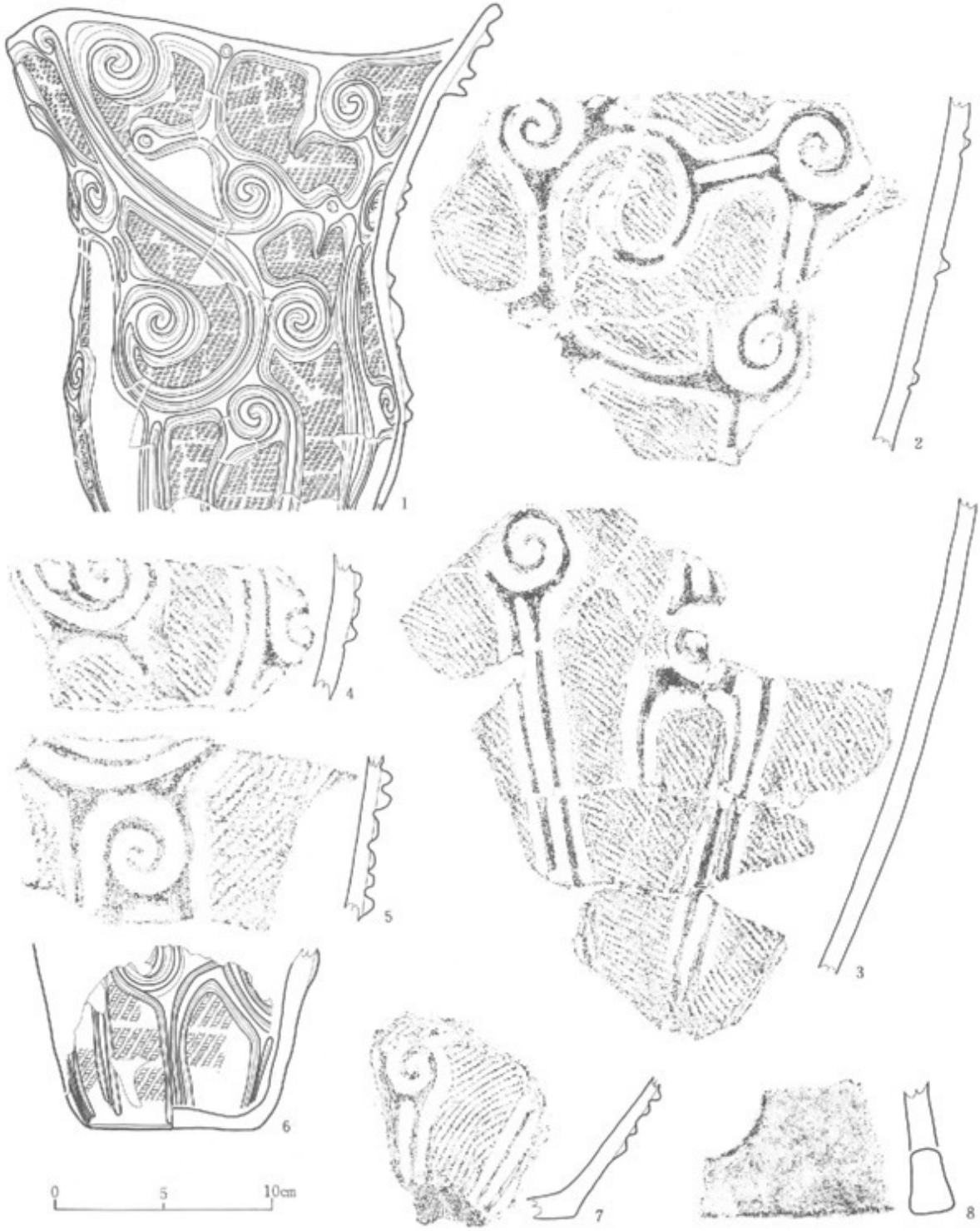
番号	遺構・層位	文様の特徴	写真図版
1・2	SK—24 1層	口縁部：亀線文・隆沈文（横位渦巻文）・RL縄文　頸部：無文	
3	SK—24 1層	口縁部：RL縄文→隆沈文（横位渦巻文）　頸部：無文	
4	SK—24 1層	RL縄文→沈線文（横位渦巻文）	28—9
5	SK—24 1層	沈線文・矢羽状短沈線文	
6	SK—24 1層	頸部：LR縄文→隆沈文（横位）　体部：LR縄文→沈線文（横位渦巻文）	26—8·11
7	SK—24 1層	LR縄文・沈線文（下垂）	28—4
8	SK—24 1層	RL縄文→隆沈文（曲線文）	

第47図　SK24土坑出土土器



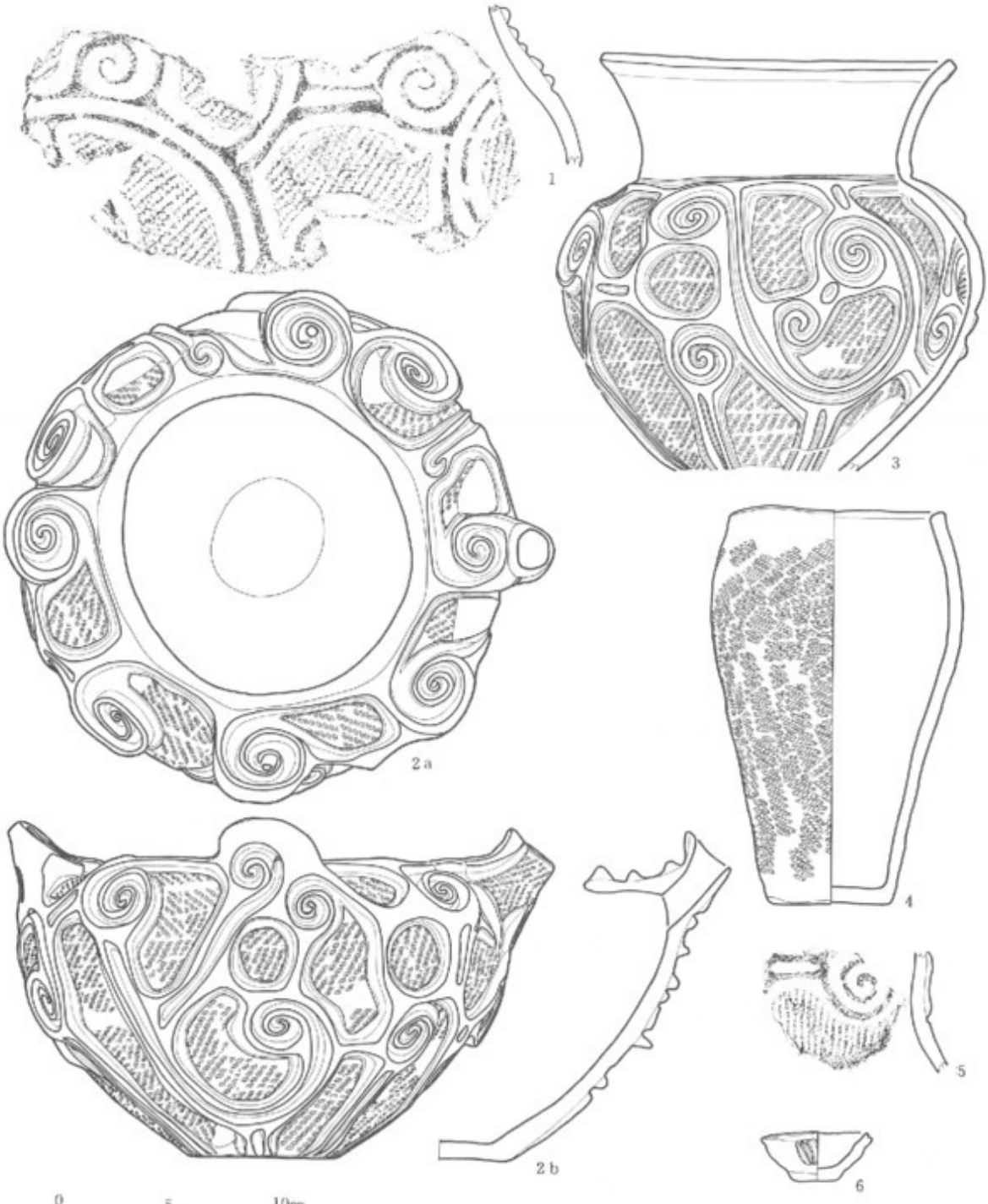
番号	遺構・層位	文様の特徴	写真図版
1	ＳＫ—24 1層	口縁部：ＲＬ縄文→隆沈文（稲位渦巻文）　口縁部～頸部：無文	28—7
2	ＳＫ—24 1層	口縁部：渦巻突起・ＲＬＲ縄文→隆沈文（稲位渦巻文）　体部：ＲＬＲ縄文→隆沈文（有軸渦巻文）	27—2
3	ＳＫ—24 1層	頸部：無文　体部：ＬＲ縄文→隆沈文（渦巻文）	26—9

第48図　ＳＫ24土坑出土土器



番号	遺構・層位	文様の特徴	写真図版
1	SK—24 1層	LRL縄文→隆沈文（有軸渦巻文）・斜突文	26—12
2・3	SK—24 1層	RLR縄文→隆沈文（横位有軸渦巻文・下垂）	28—1，2
4	SK—24 1層	LR縄文→隆沈文（有軸渦巻文）	28—6
5	SK—24 1層	LRL縄文→隆沈文（渦巻文）	28—5
6	SK—24 1層	RL縄文→隆沈文（渦巻文・下垂）　底面：マメツ	26—10
7	SK—24 1層	LRL縄文→隆沈文（渦巻文・下垂）　底面：ミガキ	27—7
8	SK—24 1層	ミガキ	

第49図　SK24土坑出土土器



番号	遺構・層位	文様の特徴	写真図版
1	SK—24 1層	RLR網文→隆沈文（横位渦巻文）	24—3
2	SK—24 1層	RLR網文→隆沈文（渦巻文）　渦巻突起（穿孔）・注口あり	27—1
3	SK—24 1層	口縁部～頸部：無文　体部：RLR縄文→隆沈文（渦巻文）	27—3
4	SK—24 1層	LR縄文	27—4
5	SK—24 1層	RL縄文→隆沈文（横位渦巻文）	
6	SK—24 1層	手捏ね、短沈線文	27—8

第50図　ＳＫ24土坑出土土器

2．ピット

ピットはＳＫ15、22、23土坑周辺を中心に多数発見されたが、ここでは石器を多数出土したピット４について報告する。

Ｐ４　ＳＫ23土坑の北側に位置するもので、ＳＫ17土坑を切っている。形状的には南北約60cm、東西約30cmと南北に長軸をもつ楕円形のものである。深さは、検出レベルの高い方から計ると38cmである。

堆積土は炭粒を若干混入する暗褐色（10ＹＲ３／３）シルトである。土器片の出土はなく、石器はスクレーパー１点、フレーク10点がまとまって出土した。オパール化している細粒凝灰岩を同一母岩としている剥片が多いが、接合したのは１組（２点）だけである（第63図１）。

3．溝跡、溝状遺構

ＳＤ１溝跡　Ｂ、Ｃ区に弧を描くようにある。天地がえしのため深さはほとんどなく、上端幅もまちまちである。残りの良いところで計測すると幅約60cm、深さ約15cmである。ＳＫ７土坑を切っている。

堆積土は灰黄褐色（10ＹＲ４／２）シルトで、石器のフレークが１点出土している。

ＳＤ２溝状遺構　Ａ、Ｂ区にＳＫ６、10、13土坑に切られるように見られる。堆積土としたものは褐色（10ＹＲ４／４）シルトでフレーク１点発見している。

これについては、Ⅲ－１層を形成するシルトの違いも考えられ、形状的にも、堆積土としたものにも、明確に溝跡とできる要素に欠けている。

4．土壌サンプルについて

発見土坑から全く任意に土壌をサンプリングした。それをガーゼを使用し水洗し、骨片及び種子と思われるものを抽出した。

（１）骨片の同定について

抽出した骨片は東北大学文学部考古学研究室に運び込み、須藤隆助教授をとおして院生の佐々木務氏に同定を依頼した。骨片は非常に細いものが多く同定不能のものも多かったが、鹿角片やイノシシ下顎骨片など哺乳類の骨片や魚類の骨片であることがわかった。その中には熱を受けて変色しているものも多数含まれていた。（表１）

（２）植物遺体の鑑定

上野遺跡の「袋状土坑」と呼ばれている土坑数基ほどの堆積土の中から洗い出して拾った、植物の遺体炭化物21点について鑑定を行った。結果は表２の如くである。

鑑定より、全体として、トチおよびクルミ（あるいはドングリ類も含むか）の殻の破片が主体である。穀物、豆類など草本植物の種子はない。また細く成形した木片がこまく折れ砕けたと思われるものもあった。（東北大学農学部　星川清親　1989.2.23）

表1　骨片同定結果

遺構	層	同定結果
SK1	2層	同定不能
SK9	1層	イノシシ下顎骨右1（下顎角付近の破片）
SK18	2層	同定不能　魚骨を含む小破片多数（熱を受けたものが多い）
	3層	同定不能　ほぼ哺乳類のみ（熱を受けて変色）
SK19	2層	ギギ科魚類胸鰭棘右1（足場部破片）
SK24	1層	鹿角（破片2）
		同定不能　哺乳類（破片若干）　その他小破片
		魚類脊椎骨1（種不明）　遊離歯2（サケ科） 哺乳類を中心とする小破片多数（熱を受けて変色しているものが多い）
	2層	同定不能 哺乳類を中心とする小破片多数（熱を受けて変色しているものが多い）

※他にサケ科椎骨の可能性のある破片が出土している。

表2　植物遺体鑑定結果

遺構	層	鑑定結果
SK9	2層	クルミの殻の破片。クルミの殻の極小破片と見られるもの。
SK18	2層	トチの実の破片らしい。
		全上の微小破片か。やや軽質であり種皮の破片か。穀物ではない。
		全上。ドングリの実の殻も混入か？
	3層	全上。細い木片の炭化物も混入。
		クルミの殻の破片、かなり大形のオニグルミとみられる。
SK19	2層	クルミの殻の小破片。クルミの殻の微小破片か。
SK24	1層	クルミらしい。他にドングリ類の殻や木片も混入。穀物ではない。
		クルミの殻の小破片。木の薄片か、種は不明。
		トチかドングリ類の種皮破片。
		木片。ただし小枝の破片ではなく、太い木を割り箸状に成形したものの破片のように思われる。燃えて炭化したものではない。
		微細破片、クルミか。
		トチの実の種皮の破片か。
		トチの果皮か、クルミの殻か不明。穀物ではない。
	2層	全上。
		クルミの殻の破片。しかし比較的薄いことに注目される。

Ⅵ　まとめと若干の考察

1．遺構の特徴

●全体的に保存良好な土坑は袋状を呈している。今回発見された土坑のほとんどは同様の形態であったと思われ、貯蔵穴として用いられたものと考えられる。

土坑底面は基本的に平坦であるが、次のように分類される。

A：中央付近にピットを有するもの（SK1、4、13、14、15）。

B：中央付近にピットを有し、そこから四方へ小溝が配されているもの（SK5）。

C：ピット、小溝を有しないもの（SK2、3、6～12、17～19、22～24）。

●上記の土坑と異なる形態のものはSK16、20である。特にSK20は土端周囲に河原石が配されているものであり、墓跡であった可能性がある。

●SD2溝状遺構は全ての土坑に切られる状況があり、SD1溝跡ともかなり違う様相を呈する。Ⅲ層上面のシルトの違いを誤認した可能性もある。

2．遺物の特徴

●出土した縄文土器は大木７ａ～10式までで、特に中期中葉の８ａ、ｂ式が多い。また８ａ、ｂ式のうちでも８ｂ式が８ａ式の倍以上の破片数であり（表３）、それも９式に近い様相のものと指摘できる。

●大木９、10式のものは非常に少数であり、ＳＫ15土坑２層出土の９式１片以外はⅡ層ないしは土坑堆積土の１層出土のものである。１層出土の遺物については、土坑内堆積土の陥没によってⅡ層の一部も引き込んだものが相当あると考えられる。

●大木７ａ～８ｂについては、混在しており、遺構及び堆積土の違いによって明確化はできなかった。

3．遺構の重複関係

●Ⅴの発見遺構と遺物のところでもふれたが、遺構間の切り合いがわかるものは、以下のとおりである。

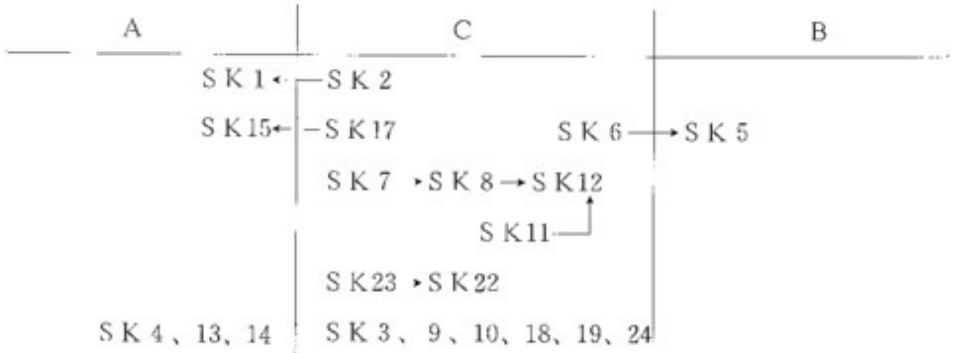
ＳＫ２→ＳＫ１　　ＳＫ17→ＳＫ15

ＳＫ６→ＳＫ５　　ＳＫ19→ＳＫ20

ＳＫ７→ＳＫ８→ＳＫ12　　ＳＫ23→ＳＫ22

→ＳＤ１　ＳＫ11→

●袋状土坑のタイプ分類Ａ、Ｂ、Ｃに上記の重複関係を当てはめると次のようになる。



●ここでは少数であるが、ＣからＡないしＢへの移行が指摘できそうである。この調査区内の発見例では、逆方向への移行例は認められない。

●ＳＫ９土坑４層とＳＫ12土坑２層の土器片に接合関係が認められるので（第28図７）、同時性が指摘できる。

4．上野遺跡内での位置付け

上野遺跡の範囲とするところは河岸段丘平坦面上にある台地全体である。その中央を東西に広く、浅く谷状地形がはいるが、そこより北側では遺物の散布が認められず、南側から遺物が採集される。南側でも特に遺物が多く散布するのは、中央部南端である。

今回の調査区は、面積こそ少なかったが、遺物散布密度が濃い地点であった。発見遺構は前述のとおりであり、集落跡内の倉庫群＝貯蔵穴群地域として把握できる。もっとも、これまで調査した箇所が少なく、同じような遺構群を呈する地域は他にもあるものと考えられる。

これだけ多量の遺物を検出したが、住居地域を考えると、この地点より約100西側で昭和51年の発掘調査で住居跡が発見されていることから、直接的には、その地点を中心に今回調査した地点間に考えておきたい。

昭和51年の調査では調査面積45㎡の中で、住居跡が切り合って8軒発見されており、出土遺物は大木8b～10式（縄文中期後半）に属するようである。まだ未整理、未発表なので、発見遺構、出土遺物の概要を記し、参考としたい。

〈発見遺構〉

○竪穴住居跡と思われる土坑（縄文時代中期）　8軒

○石囲炉跡（縄文時代中期）　4基

（※複式炉と思われるもの2基、内1基は土坑3に付属するもの）

○溝跡（縄文時代中期または平安時代）　1条

○ピット（土坑に付属するもの）　3個

〈出土遺物〉……総量ダンボール箱　10箱

土器（縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器）　8箱

一括土器9点　顔面把手1点　土錘1点　土玉1点　蓋2点　土製円盤3点含む。

○石器　2箱

石鏃26点　石錐5点　石匙5点　フレイク2点　スクレイパー1点　石皿3点

石棒1点　円石19点　磨石6点含む

参考文献

仙台市教育委員会　「上野縄文時代集落遺跡」発掘調査説明会資料：1976

丹羽茂、阿部博、小野寺祥一郎「勝負沢遺跡」：宮城県文化財調査報告書第83集・1981

工藤哲司、金森安孝、千葉仁「上野遺跡」市道十文字線関係調査略報：仙台市文化財調査報告書第88集・1986

千葉仁「東北電力鉄塔関係遺跡調査報告」：仙台市文化財調査報告書第91集・1986

吉川一明、相原淳一、鈴木真一郎他「中ノ内A遺跡」：宮城県文化財調査報告書第121集・1987

伊藤裕、須田良平「中ノ内B遺跡」：宮城県文化財調査報告書第121集・1987

真山悟、佐藤広史「小梁川遺跡　遺構編」：宮城県文化財調査報告書第122集・1987

表3　土器破片集計表

遺構等	区堆積層	大木7a	大木7b	大木8a	大木8b	大木9	大木10	ミニチュア	不明	須恵器	土師器	土製品	合計
	Ⅰ層	8	33	147	997			17	10,725	2	1	43	11,973
A区	Ⅱ層	7	13	69	167	2		6	239			57	560
B区	Ⅱ層			2					2				4
C区	Ⅱ層	1		4	9				15				29
D区	Ⅱ層	7	16	137	232			18	620			2	1,032
SK−1	1層	1	4	69	76				163				313
	2層	1	1	25	82				73				182
SK−2	1層	1	3	34	31		2		113				184
SK−3	1層	3	6	48	48			1	136			3	245
SK−4	1層		5	26	35				129				195
SK−5	1層	2	4	30	37				115				188
SK−6	1層	2	53	63	9				16				143
SK−7	1層	1	4	52	97			2	214				370
	2層	3	2	33	20				28			2	88
SK−8	1層	6	73	11	118			4	259			1	472
	2層	1	2	17	14				51				85
SK−9	1層	1	6	11	4			2	41				65
	2層	1	7	12	4			1	41				66
	3層				4				2				6
	4層	1	1	12	6				55				75
	5層		1	2					3				6
	6層			4					2				6
SK−10	1層	1	8	44	77			2	243			1	376
	2層	2	3	31	18			1	75				132
SK−11	1層		6	49	62			2	163				282
SK−12	1層	2	7	24	19			1	96				149
	2層	2	2	11					3				18
SK−13	1層	1	3	43	71	1		4	202				325
SK 14	1層	1	5	32	152			5	244			2	461
	2層	1	3		6			4	13				29
SK 15	1層	3	16	20	128			7	319			5	498
	2層	4	8	57	67	1		2	150				289
SK 16	1層			11	15			1	26			1	54
SK−17	1層		6	35	33				91				165
SK 18	1層		8	101	83				197			2	391
	2層			4	33				68				105
	3層	2	5	116	142				115				380
SK−19	1層	1	27	21	49	1		3	90			2	194
	2層		3	47	21				65				136
SK 20	1層		3	14	28			1	47				93
SK−22	1層		3	6	1				13				23
SK−24	1層	2	10	78	160			7	287			1	545
	2層	2	2	14	19			1	56				94
SD−1	1層	8	33	95	370			14	1,098			6	1,624
合計		79	399	1,681	3,544	5	2	106	16,703	2	1	128	22,630

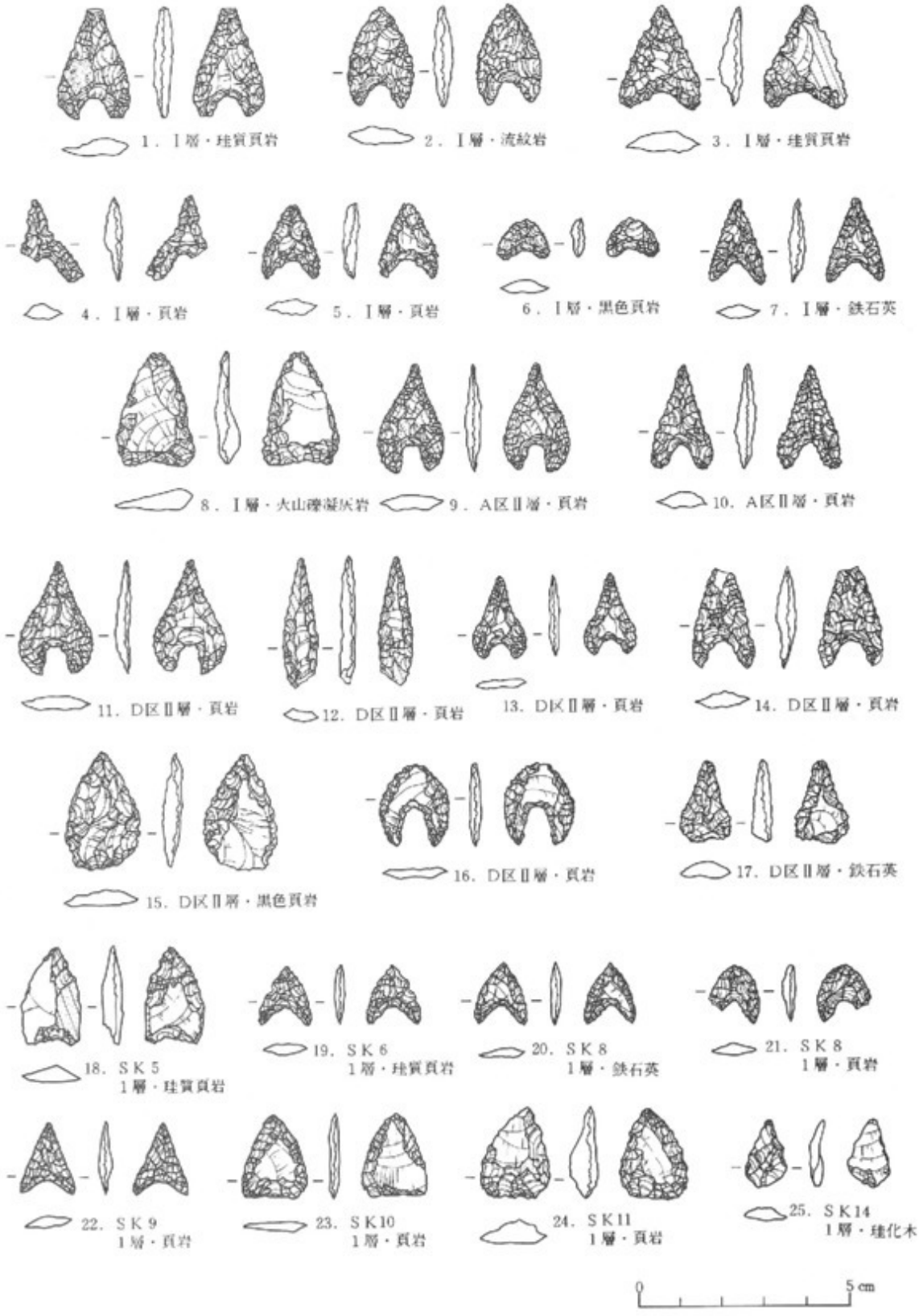
※　Ⅰ層＝表採、表土、耕作土
　　Ⅱ層＝遺物包含層
　　SK21＝SK19と一体となり欠番
　　この集計には実測点数も含まれる
　　以上は土器破片、石器集計表共通

表4　石器集計表

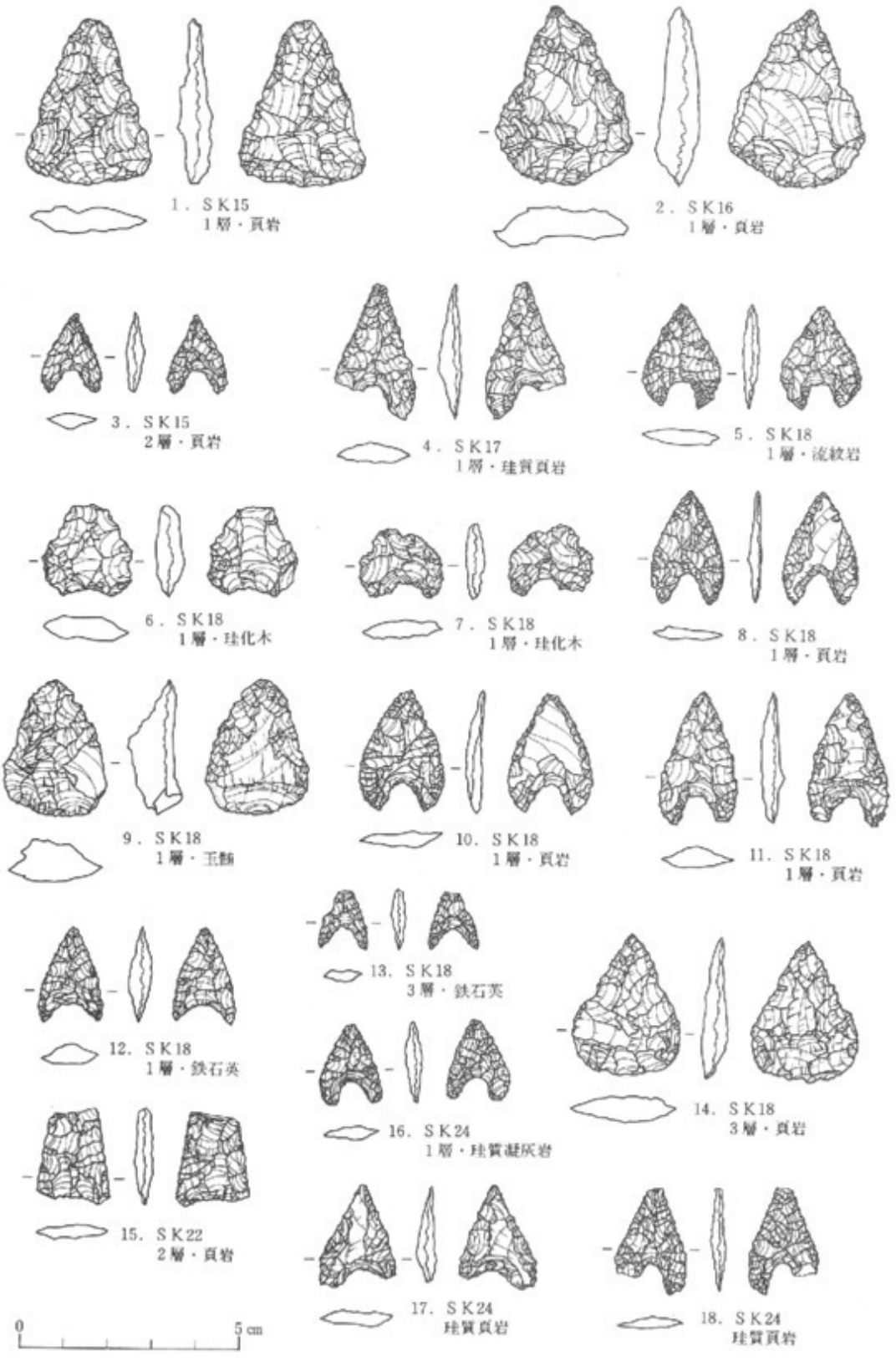
遺構等	区堆積層	石鏃	石錐	石匙	石鋸	石核	スクレイパー	ピエス・エスキーユ	フレーク	石核	礫石器	合計
Ⅰ層	全区	11	5	4		3	20		182		5	230
Ⅱ層	A区	2			1	1	2		27	1	10	44
	B区										1	1
	C区								4			4
	D区	7	1	2		1	6		81	1	14	113
SK1	1層						1		3	1		5
	2層								4		3	7
SK2	1層						1		9		2	12
SK3	1層								5			5
	2層								2			2
SK4	1層						1		22			23
SK5	1層	1	1						18		1	21
SK6	1層	1					2		9			12
SK7	1層		1						4		2	7
	2層	1	1				1		14		7	24
SK8	1層	2					1		43			46
	2層	1						1	12		1	15
	3層										1	1
SK9	1層	1		1			1		10		1	14
	2層								1		6	7
	4層										4	4
	5層										4	4
SK10	1層	3	1				4		55		8	101
	2層		1				1		26		3	31
SK11	1層	1							21		2	24
SK12	1層								8		2	10
	2層										1	1
SK13	1層	1					2		16			19
SK14	1層	1	2	1			1		44			49
	2層						1		18		2	21
SK15	1層	2	1	1	1		9	1	54		5	74
	2層	2	1	1					26		7	37
SK16	1層	1							3			4
SK17	1層	1		1			2		18		4	26
SK18	1層	10	4			1	7		74		2	98
	2層		1						7		2	10
	3層	2		1			3		31		7	44
SK19	1層		1				2		8		3	14
	2層						1		12		2	15
SK20	1層		2						7		1	10
SK22	1層	1					1		3			5
SK23	1層		1	1								2
SK24	1層	3		1			4		39		6	53
	2層								18			18
	層不明	2							22		3	27
SD1	1層								1			1
SD2	1層								1			1
P 4	1層						1		10			11
合計		57	24	14	2	6	75	2	1,002	3	122	1,307

表5　石器の石質

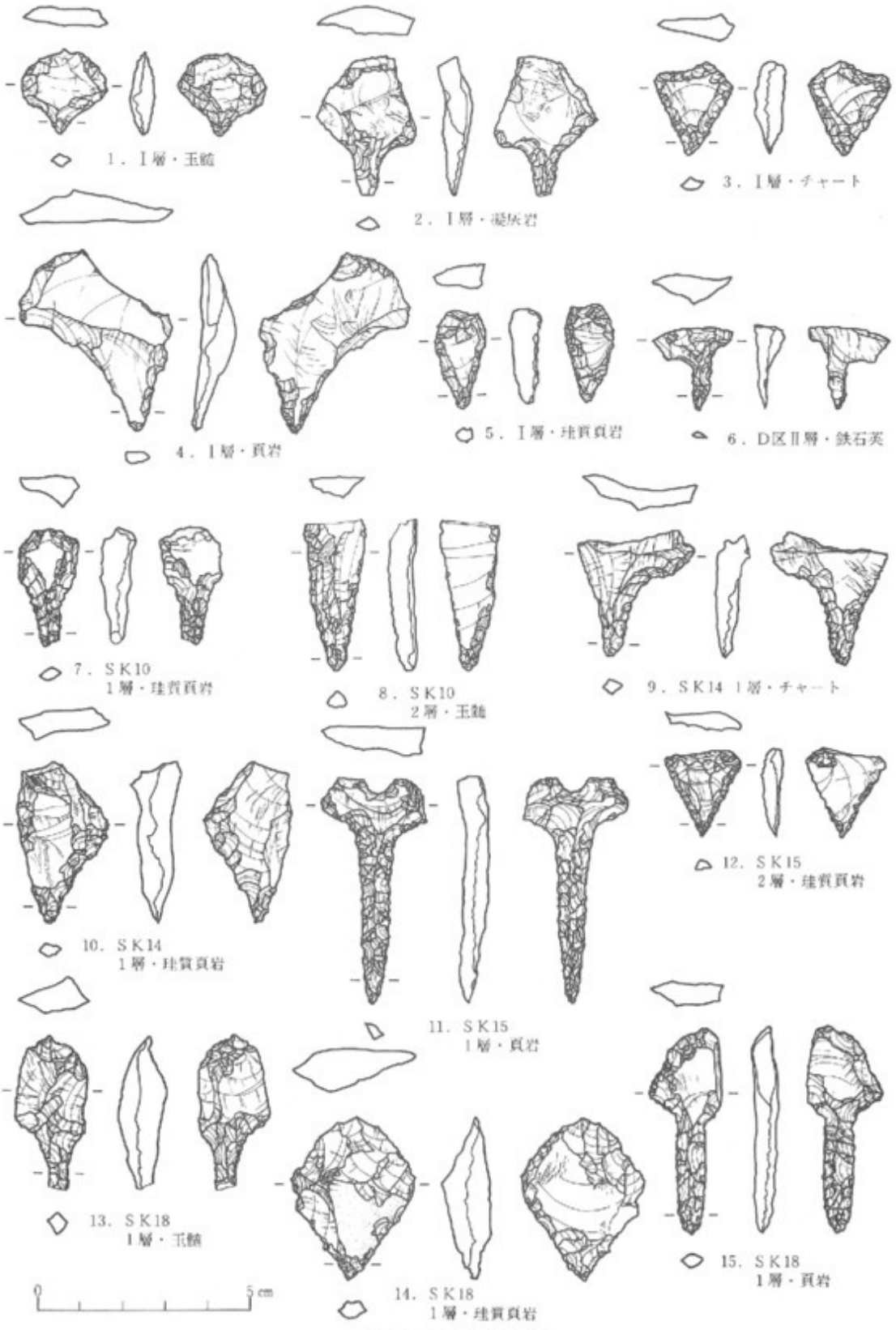
石器＼石質	頁岩	珪質頁岩	黒色頁岩	珪質砂岩	凝灰岩	珪質凝灰岩	火山礫凝灰岩	鉄石英	チャート	玉髄	珪化木	流紋岩	蛇紋岩	閃緑岩	凝灰角礫岩	安山岩	溶岩
石鏃	20	8	2			1	1	5		1	3	2					
石錐	3	6			1			7	2	3							
石匙	11	1															
スクレイパー	16	2			1				1								
ピエス・エスキーユ	1			1													
石核	2																
打製石斧						1			1								
磨製石斧													2			2	
石皿					4												
礫石器														3	2	37	1


1．Ⅰ層・珪質頁岩
2．Ⅰ層・流紋岩
3．Ⅰ層・珪質頁岩
4．Ⅰ層・頁岩
5．Ⅰ層・頁岩
6．Ⅰ層・黒色頁岩
7．Ⅰ層・鉄石英
8．Ⅰ層・大山礫凝灰岩
9．A区Ⅱ層・頁岩
10．A区Ⅱ層・頁岩
11．D区Ⅱ層・頁岩
12．D区Ⅱ層・頁岩
13．D区Ⅱ層・頁岩
14．D区Ⅱ層・頁岩
15．D区Ⅱ層・黒色頁岩
16．D区Ⅱ層・頁岩
17．D区Ⅱ層・鉄石英
18．SK5
1層・珪質頁岩
19．SK6
1層・珪質頁岩
20．SK8
1層・鉄石英
21．SK8
1層・頁岩
22．SK9
1層・頁岩
23．SK10
1層・頁岩
24．SK11
1層・頁岩
25．SK14
1層・珪化木
0
5cm

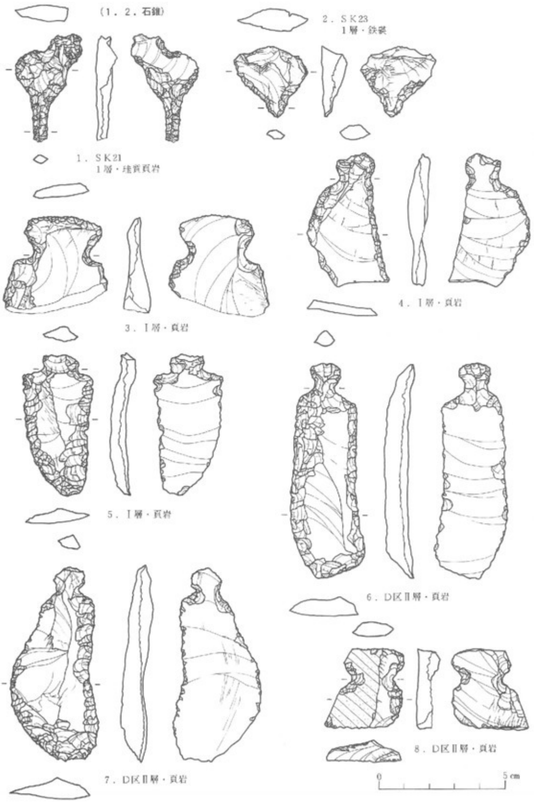
第51図　石器Ⅰ（石鏃）


1．SK15
1層・頁岩
2．SK16
1層・頁岩
3．SK15
2層・頁岩
4．SK17
1層・珪質頁岩
5．SK18
1層・流紋岩
6．SK18
1層・珪化木
7．SK18
1層・珪化木
8．SK18
1層・頁岩
9．SK18
1層・玉髄
10．SK18
1層・頁岩
11．SK18
1層・頁岩
12．SK18
1層・鉄石英
13．SK18
3層・鉄石英
14．SK18
3層・頁岩
15．SK22
2層・頁岩
16．SK24
1層・珪質凝灰岩
17．SK24
珪質頁岩
18．SK24
珪質頁岩
0
5 cm

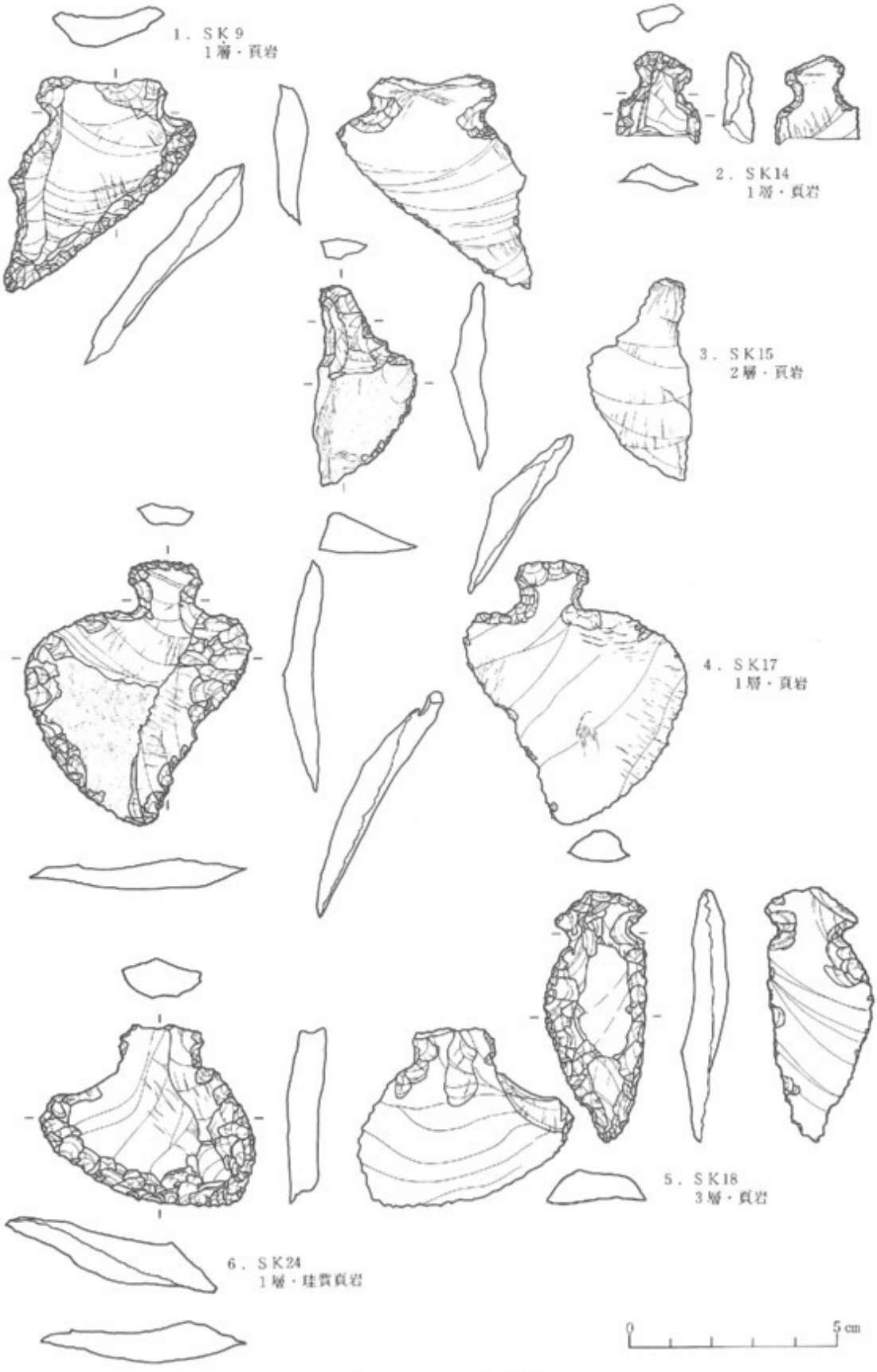
第52図　石器Ⅱ（石鏃）


1．Ⅰ層・玉髄
2．Ⅰ層・凝灰岩
3．Ⅰ層・チャート
4．Ⅰ層・頁岩
5．Ⅰ層・珪質頁岩
6．D区Ⅱ層・鉄石英
7．SK10
1層・珪質頁岩
8．SK10
2層・玉髄
9．SK14 1層・チャート
10．SK14
1層・珪質頁岩
11．SK15
1層・頁岩
12．SK15
2層・珪質頁岩
13．SK18
1層・玉髄
14．SK18
1層・珪質頁岩
15．SK18
1層・頁岩
0
5cm

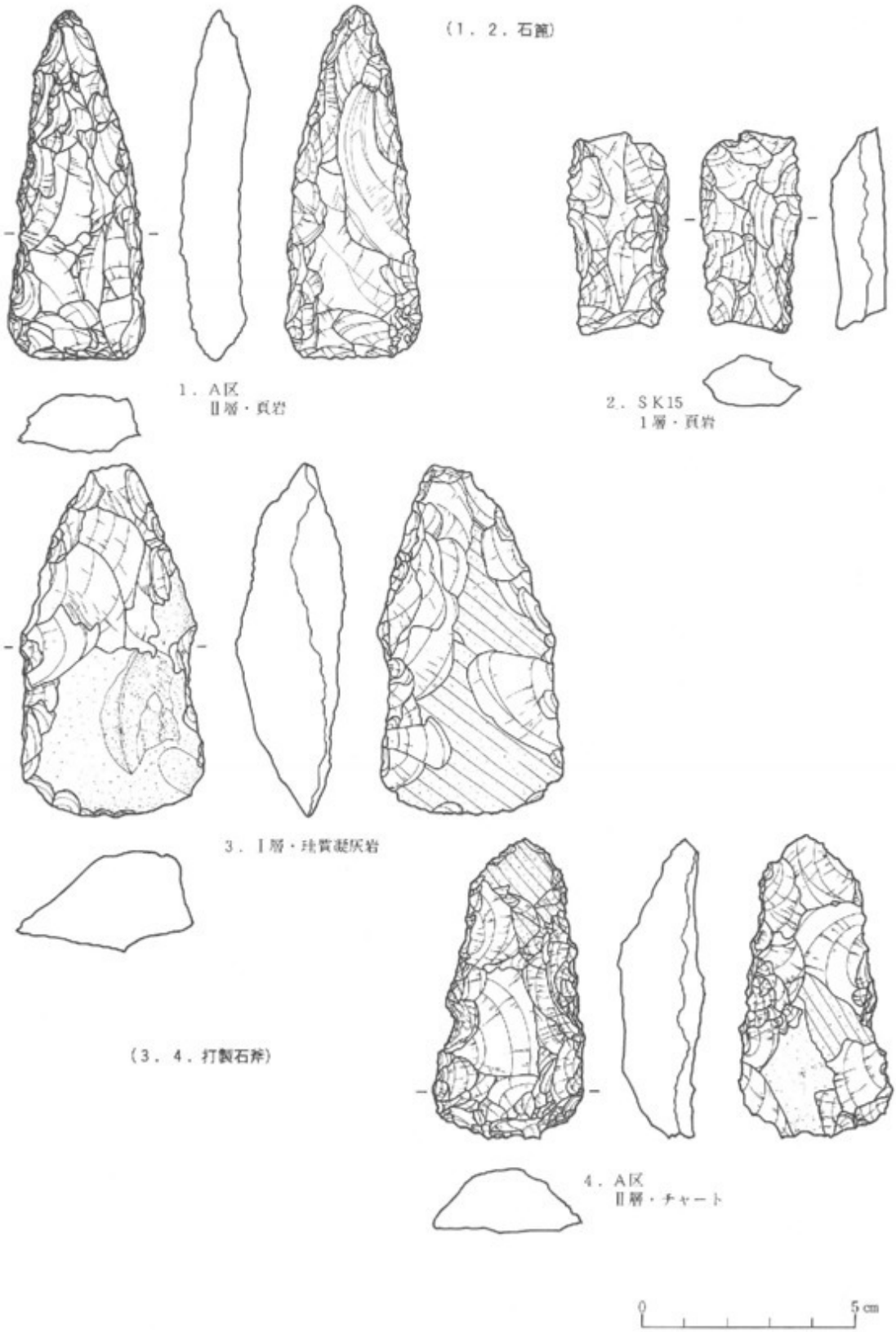
第53図　石器Ⅲ(石錐)



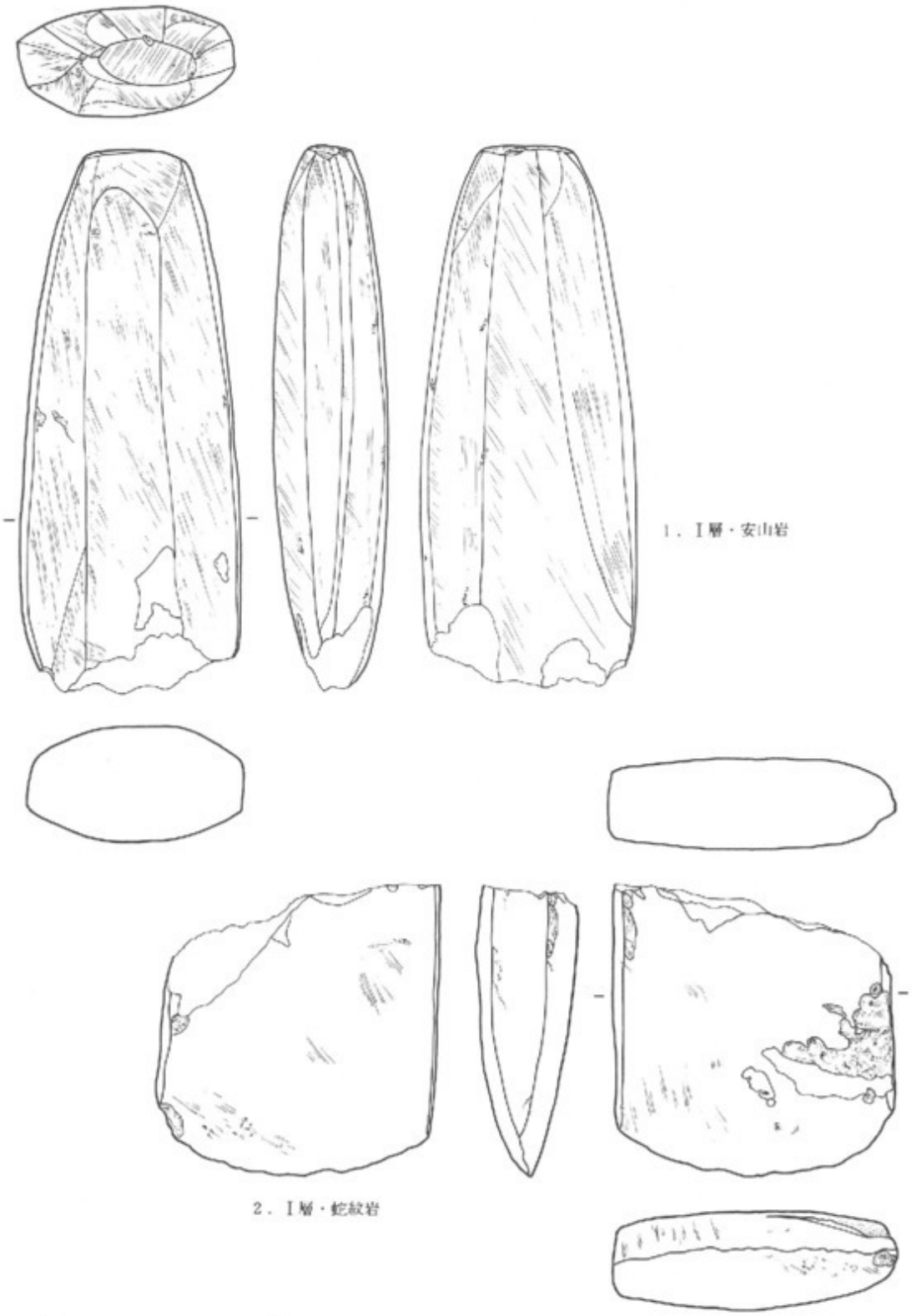
第54図　石器Ⅳ（石錐、石匙）


1．SK9
1層・頁岩
2．SK14
1層・頁岩
3．SK15
2層・頁岩
4．SK17
1層・頁岩
5．SK18
3層・頁岩
6．SK24
1層・珪質頁岩
0
5cm

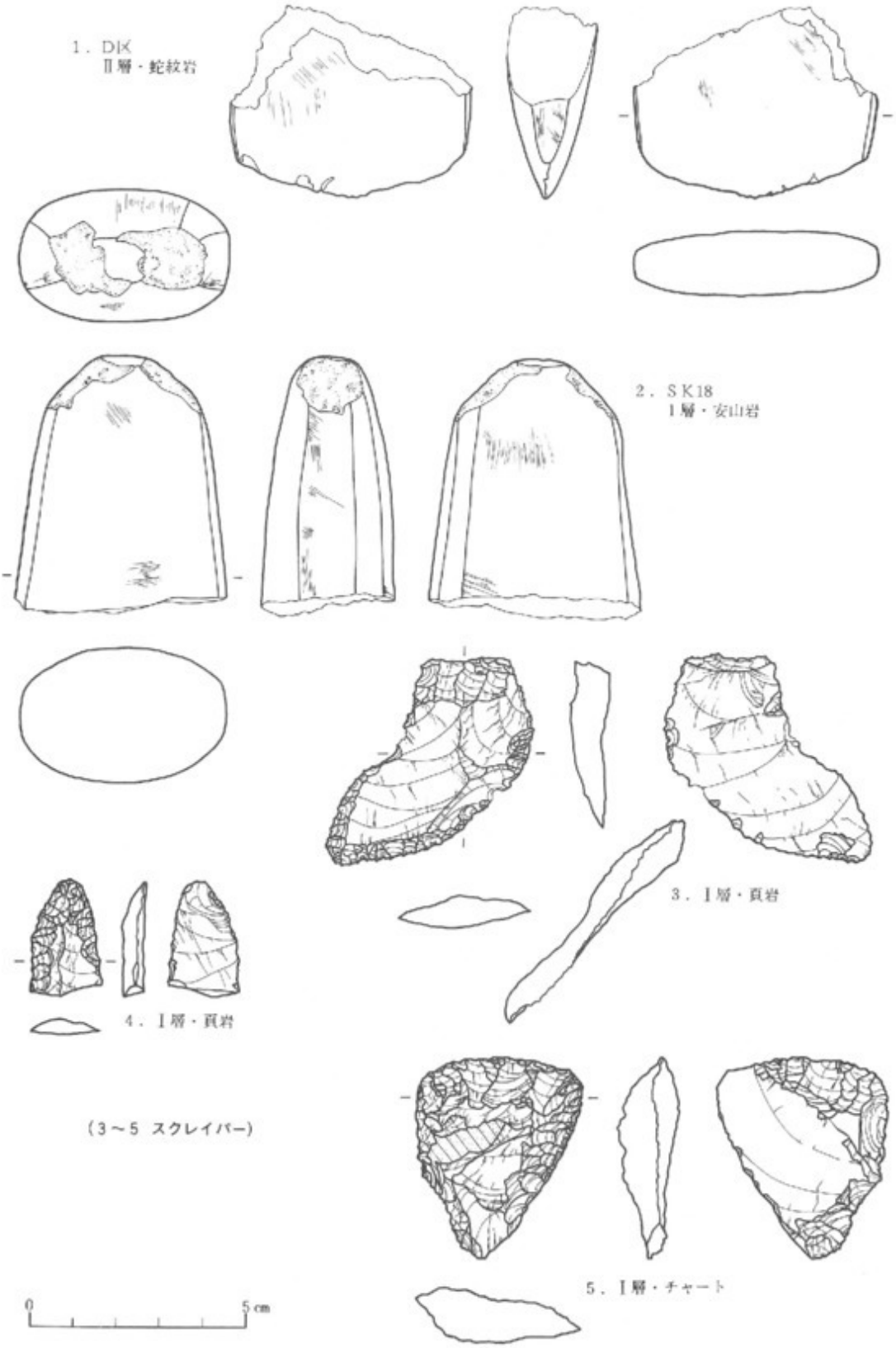
第55図　石器Ⅴ（石匙）



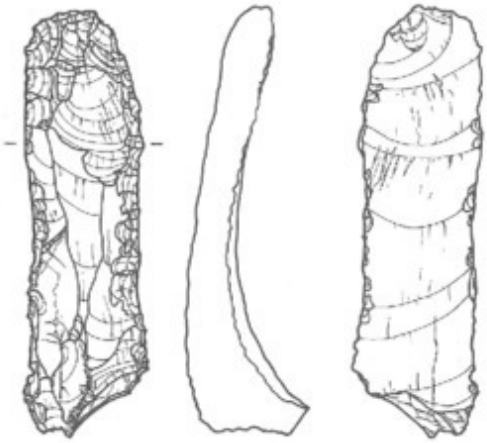
第56図　石器Ⅵ（石篦、打製石斧）



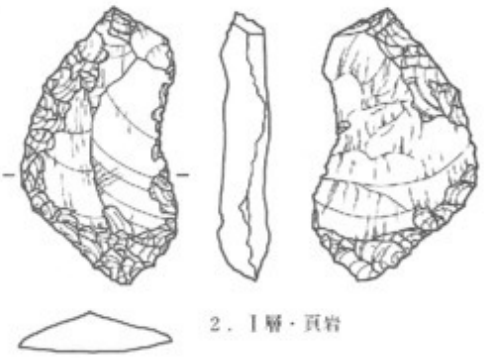
第57図　石器Ⅶ(磨製石斧)



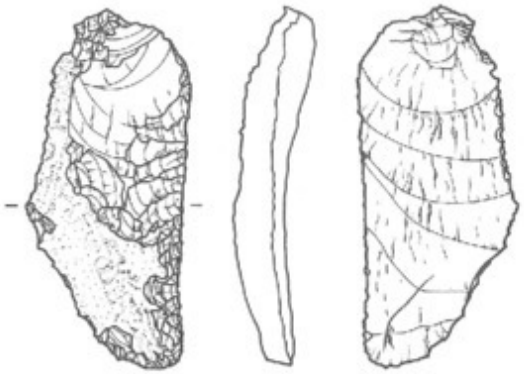
第58図　石器Ⅷ（磨製石斧、スクレイパー）



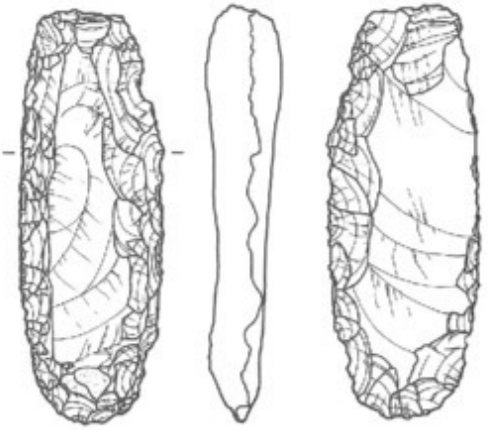
1．Ⅰ層・頁岩



2．Ⅰ層・頁岩



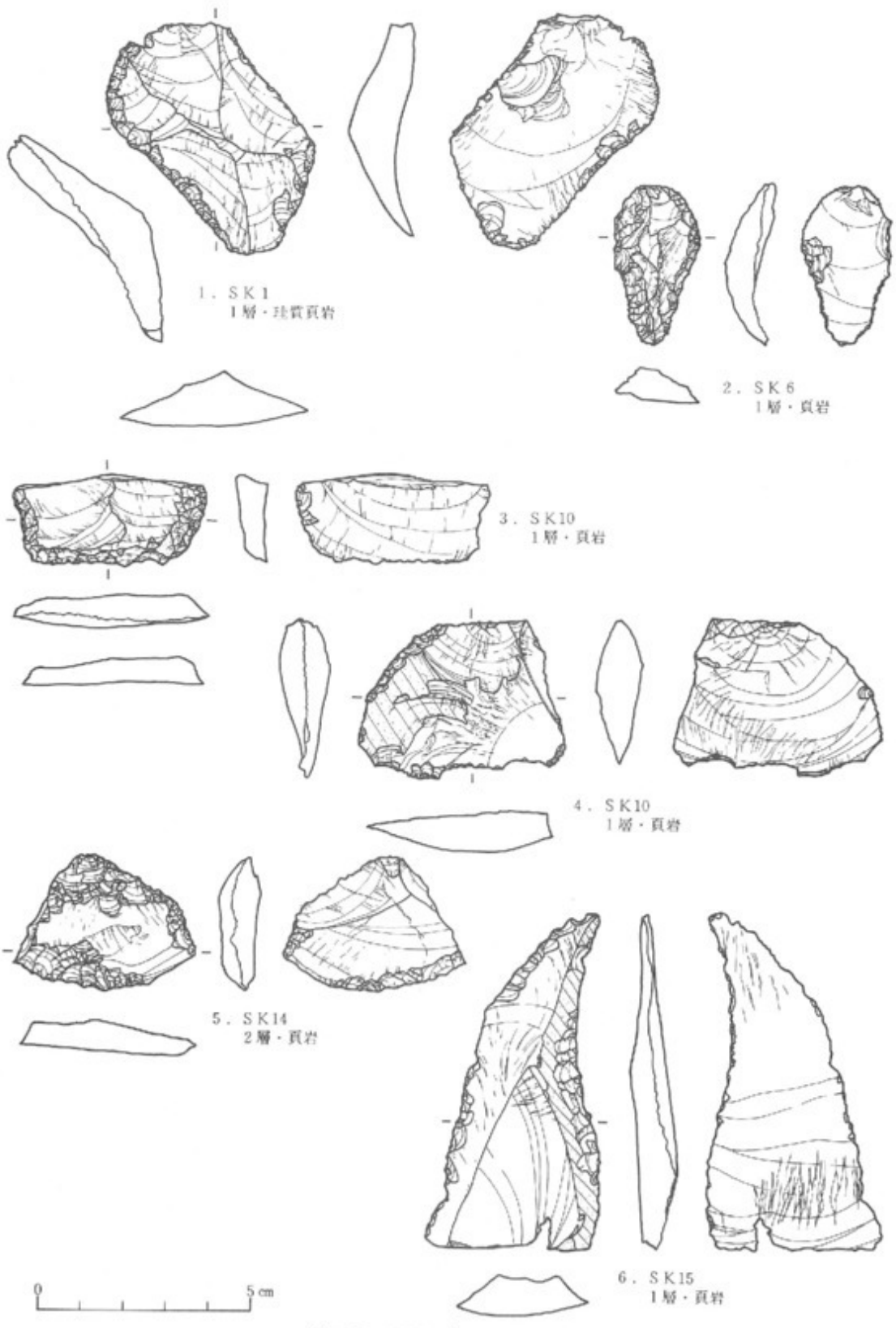
3．Ⅰ層・頁岩



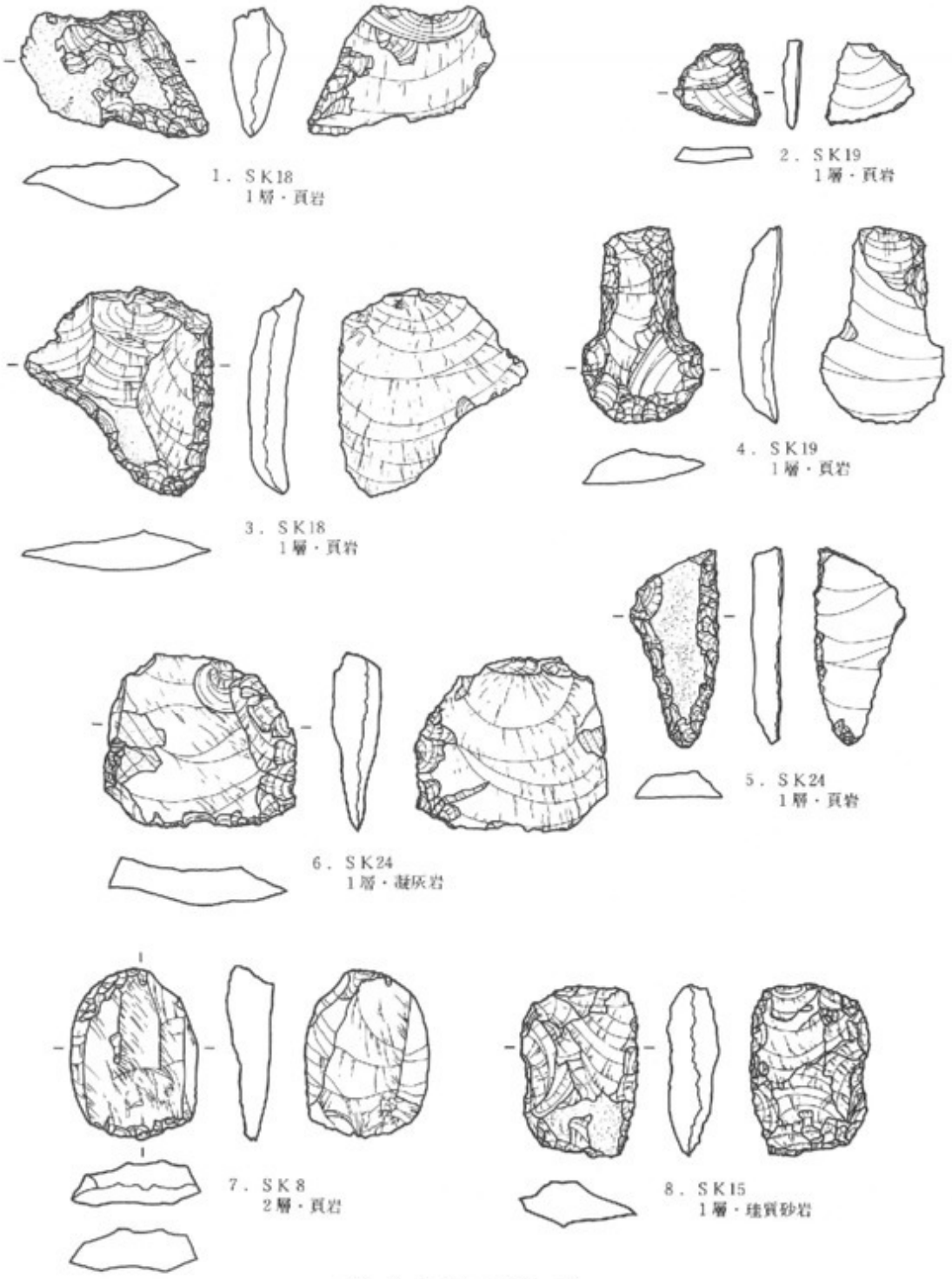
4．A区
Ⅱ層・珪質頁岩

5．D区
Ⅱ層・頁岩

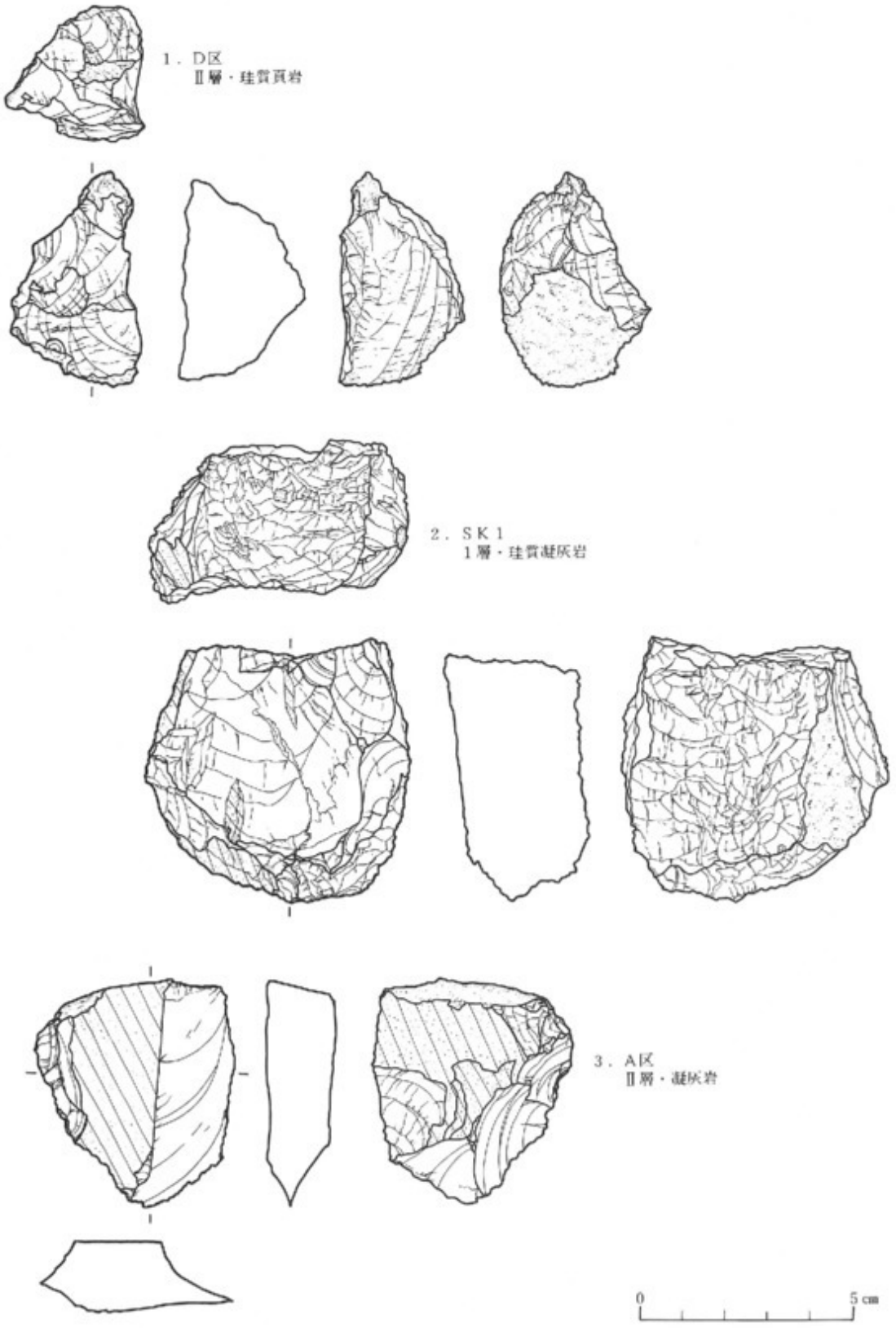
第59図　石器Ⅸ（スクレイパー）



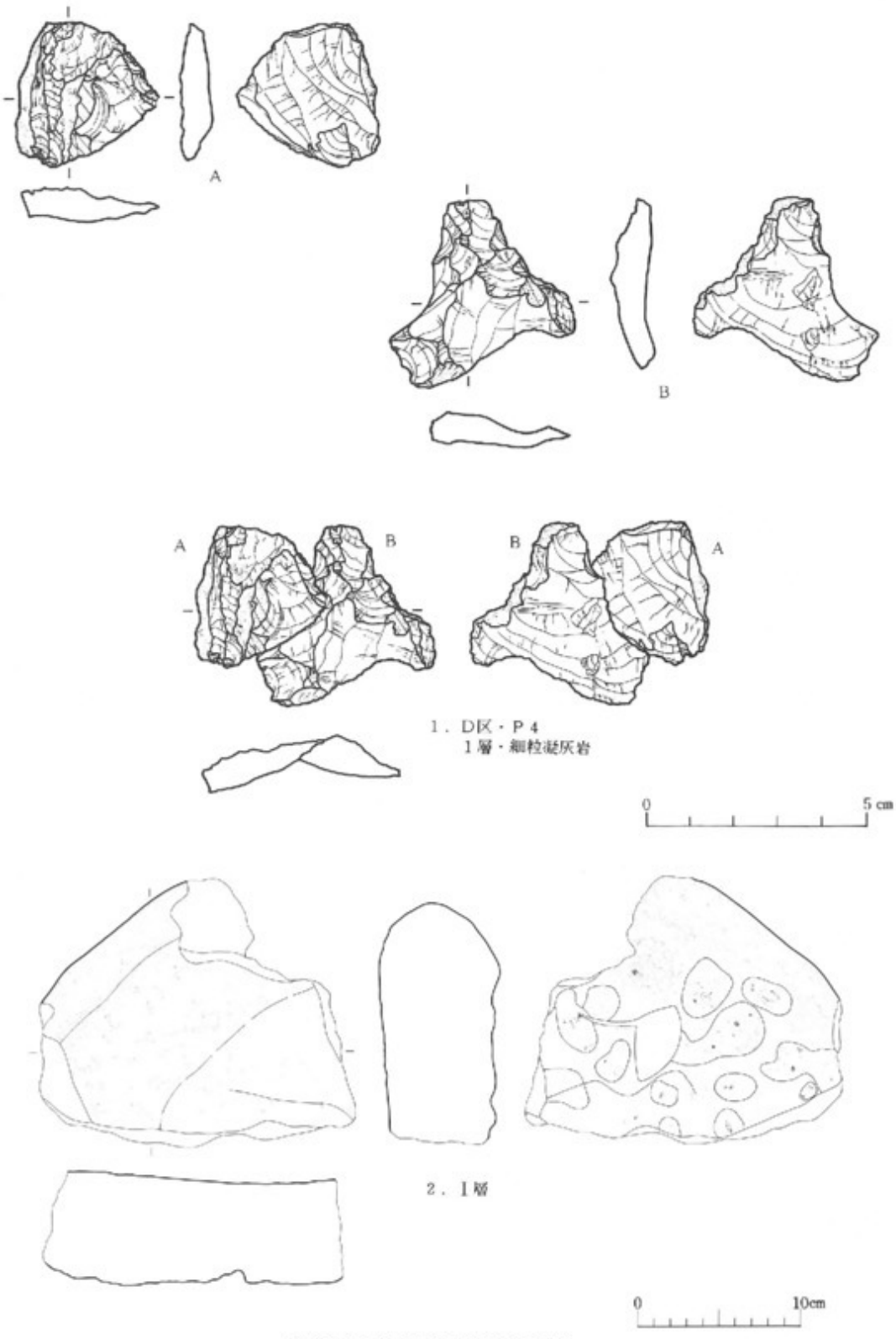
第60図　石器X（スクレイパー）



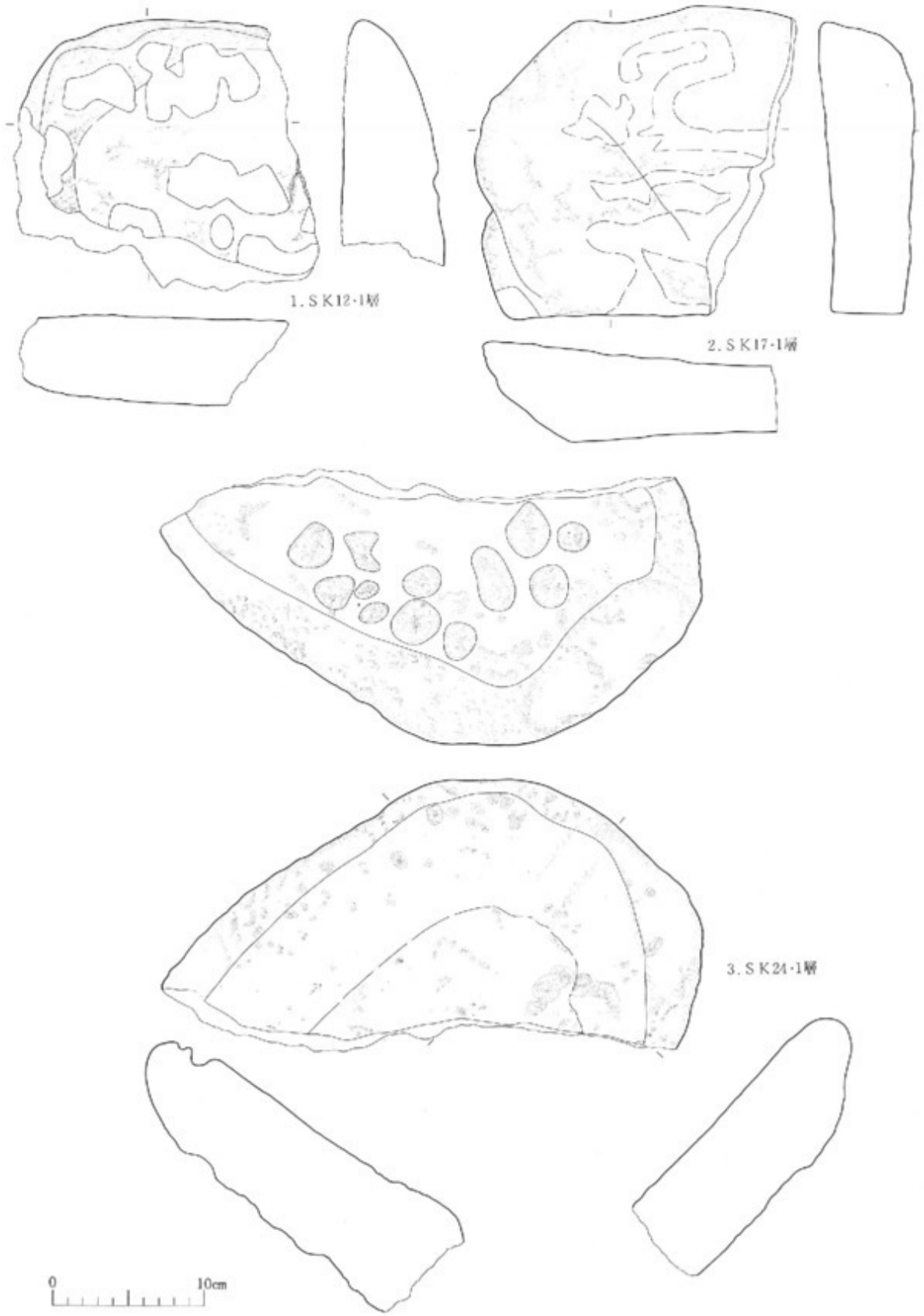
第61図　石器XI（スクレイパー、ピエス・エスキーユ）



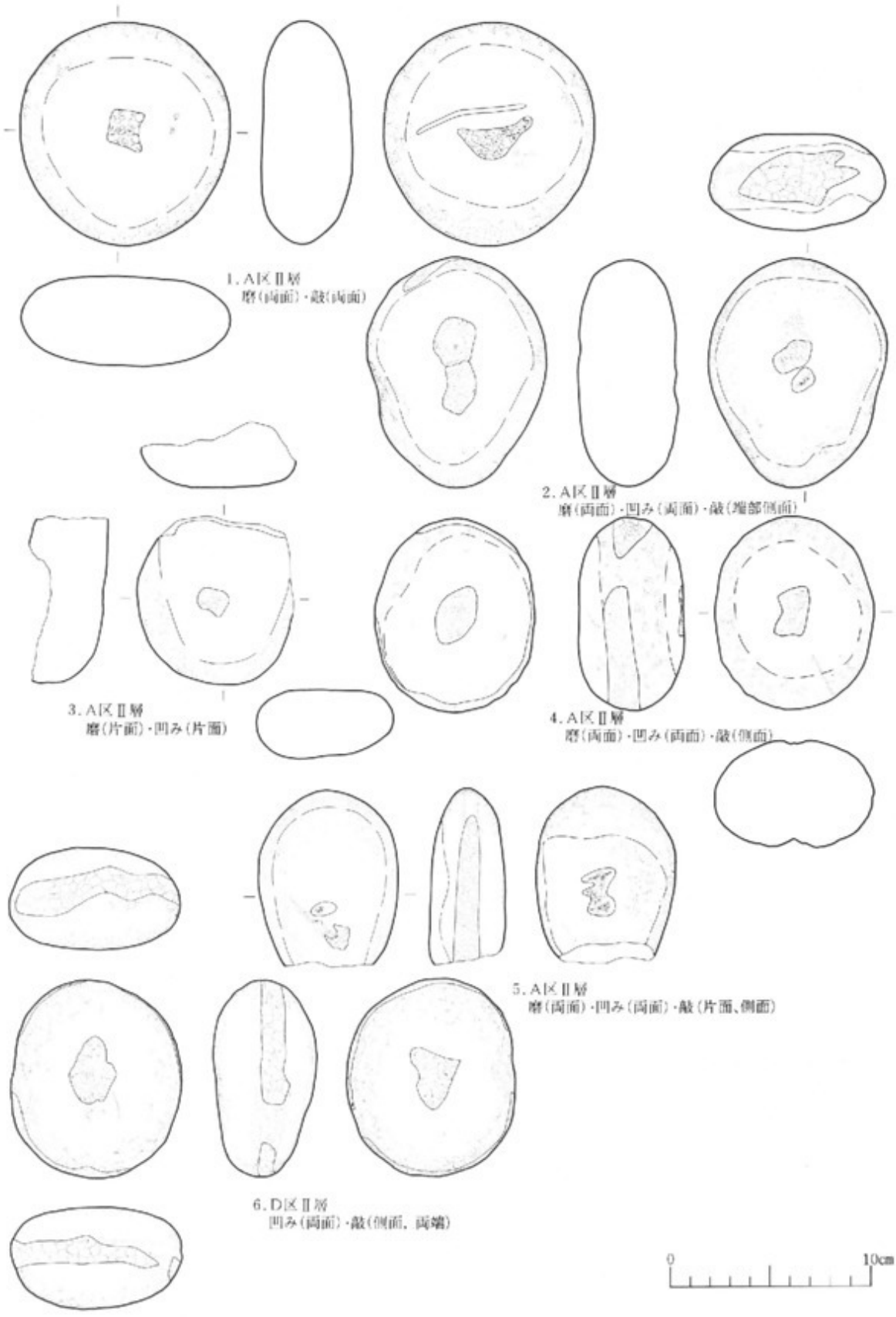
第62図　石器Ⅻ(石核)



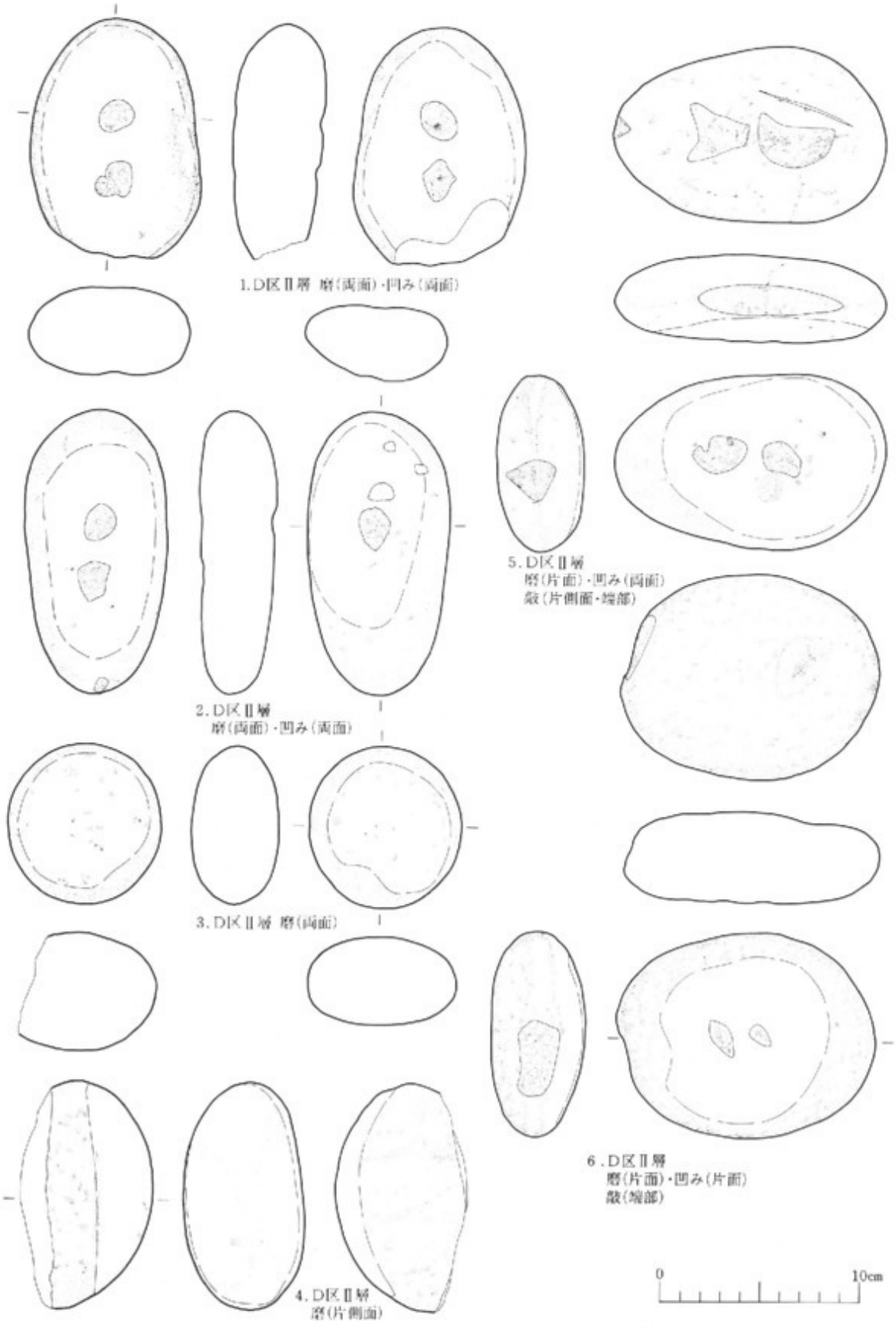
第63図　石器XII（接合資料、石皿）



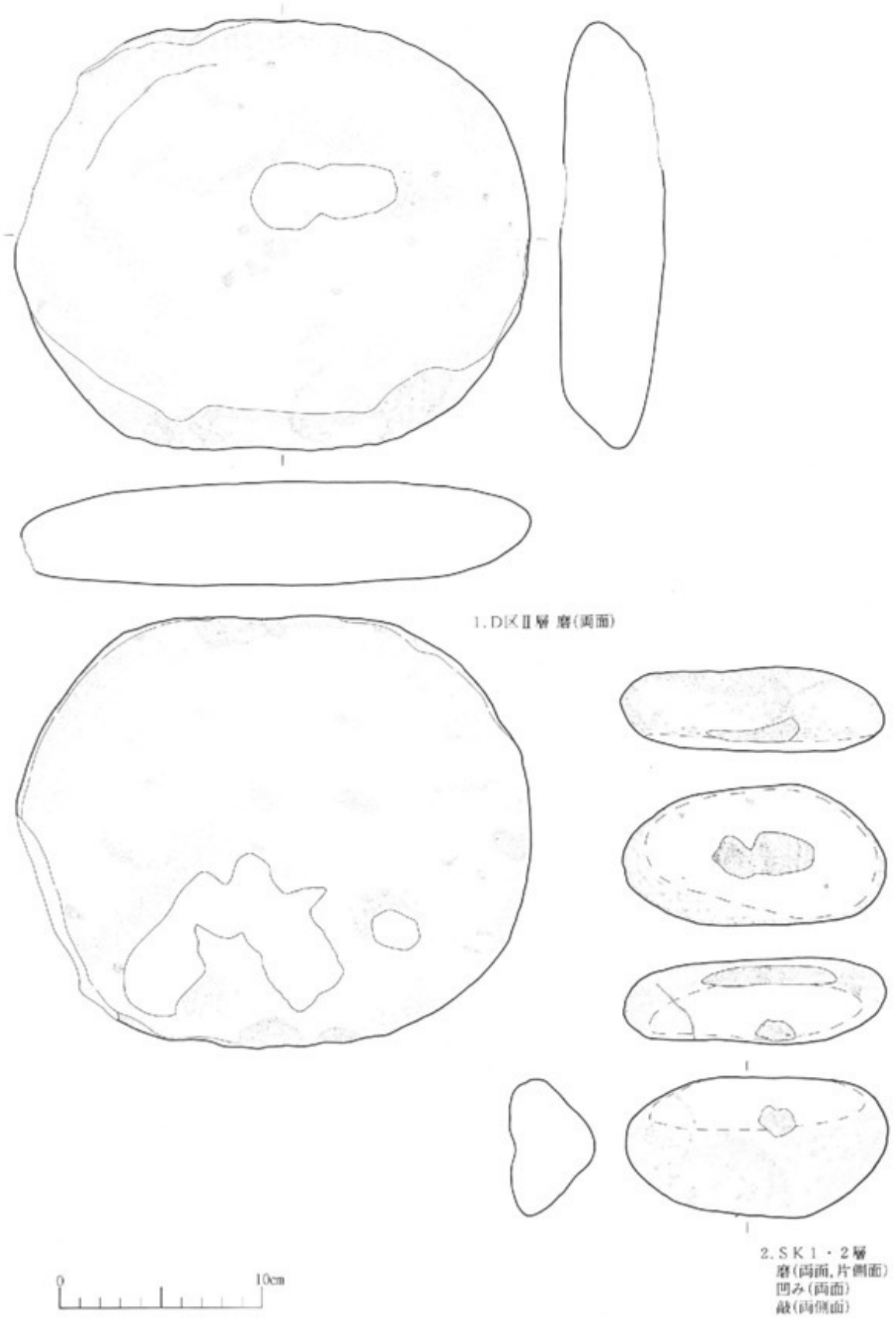
第64図　石器XIV(石皿)



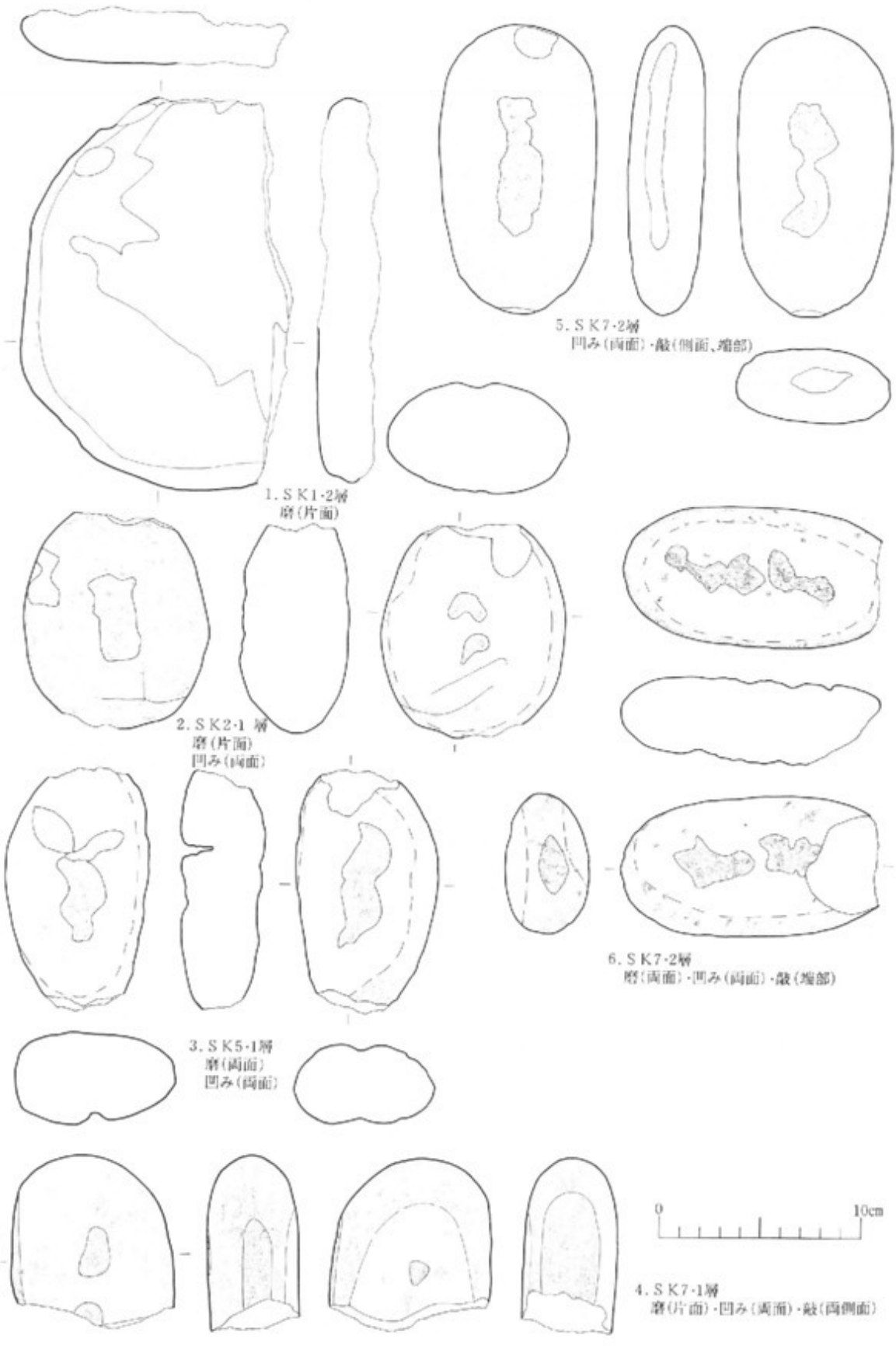
第65図　石器XV(礫石器)



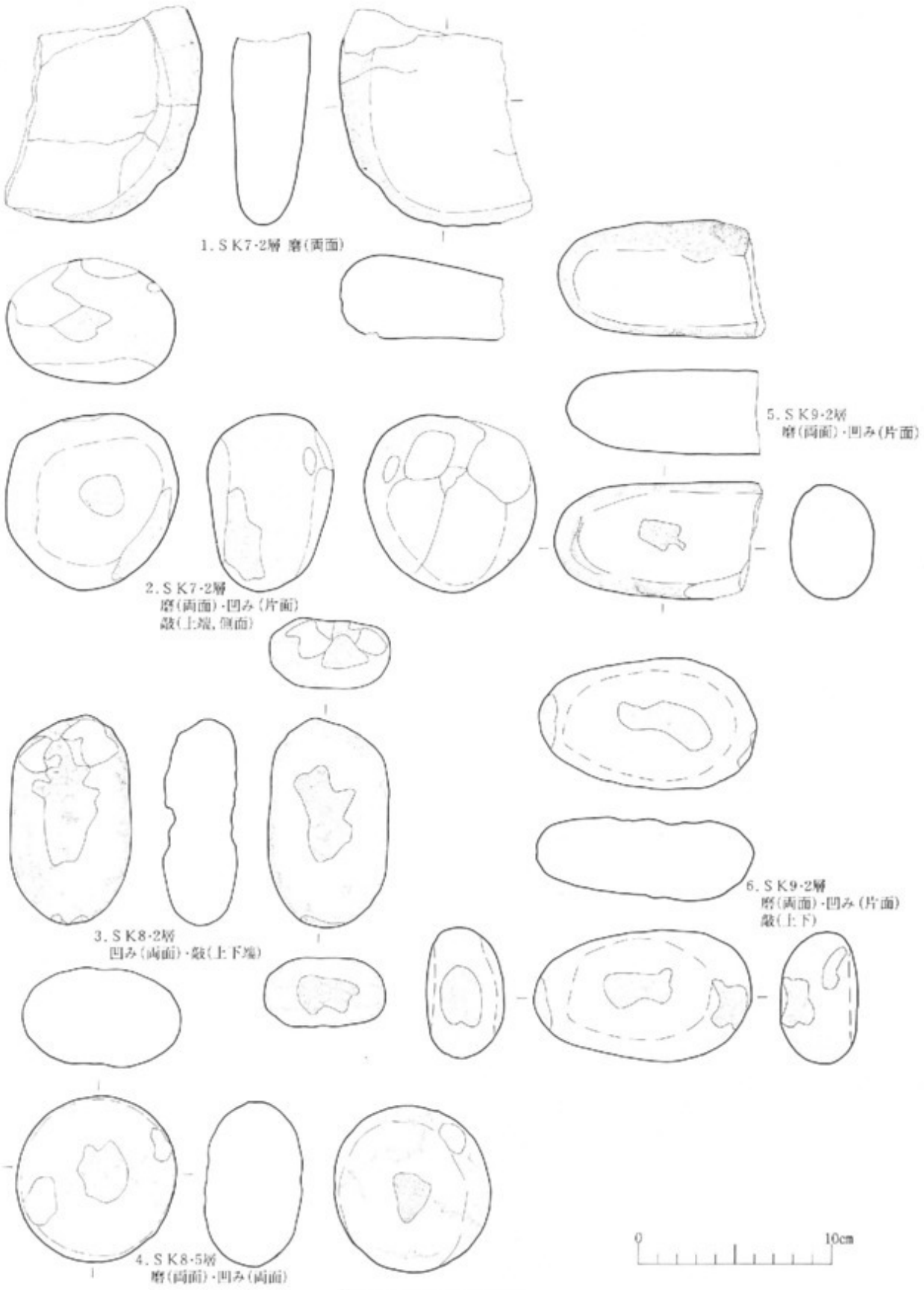
第66図　石器XVI(嚢石器)



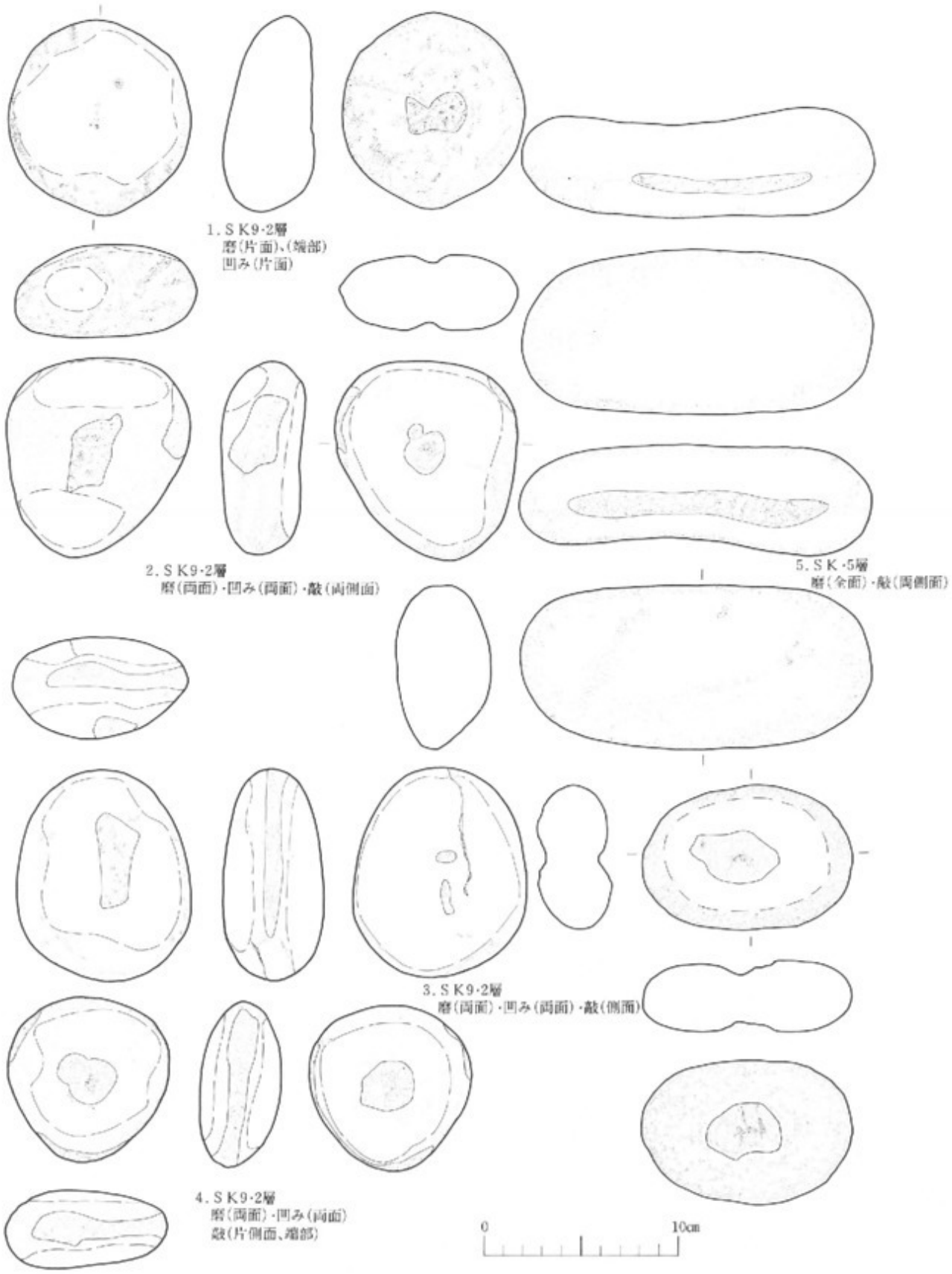
第67図　石器Ⅻ(礫石器)


1. SK1-2層
磨(片面)
2. SK2-1 層
磨(片面)
凹み(両面)
3. SK5-1層
磨(両面)
凹み(両面)
5. SK7-2層
凹み(両面)・敲(側面、端部)
6. SK7-2層
磨(両面)・凹み(両面)・敲(端部)
4. SK7-1層
磨(片面)・凹み(両面)・敲(両側面)
0
10cm

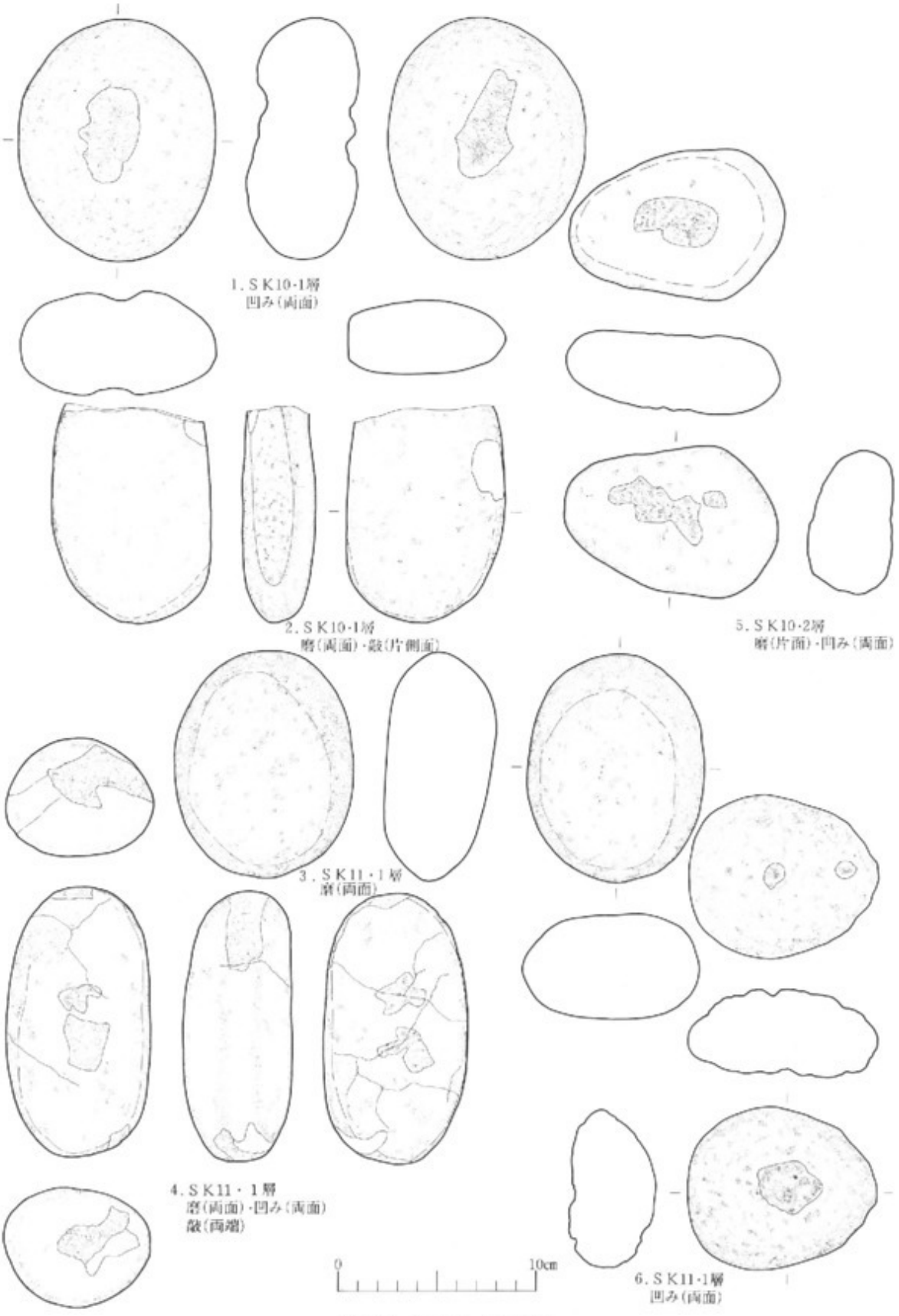
第68図　石器㈧(礫石器)



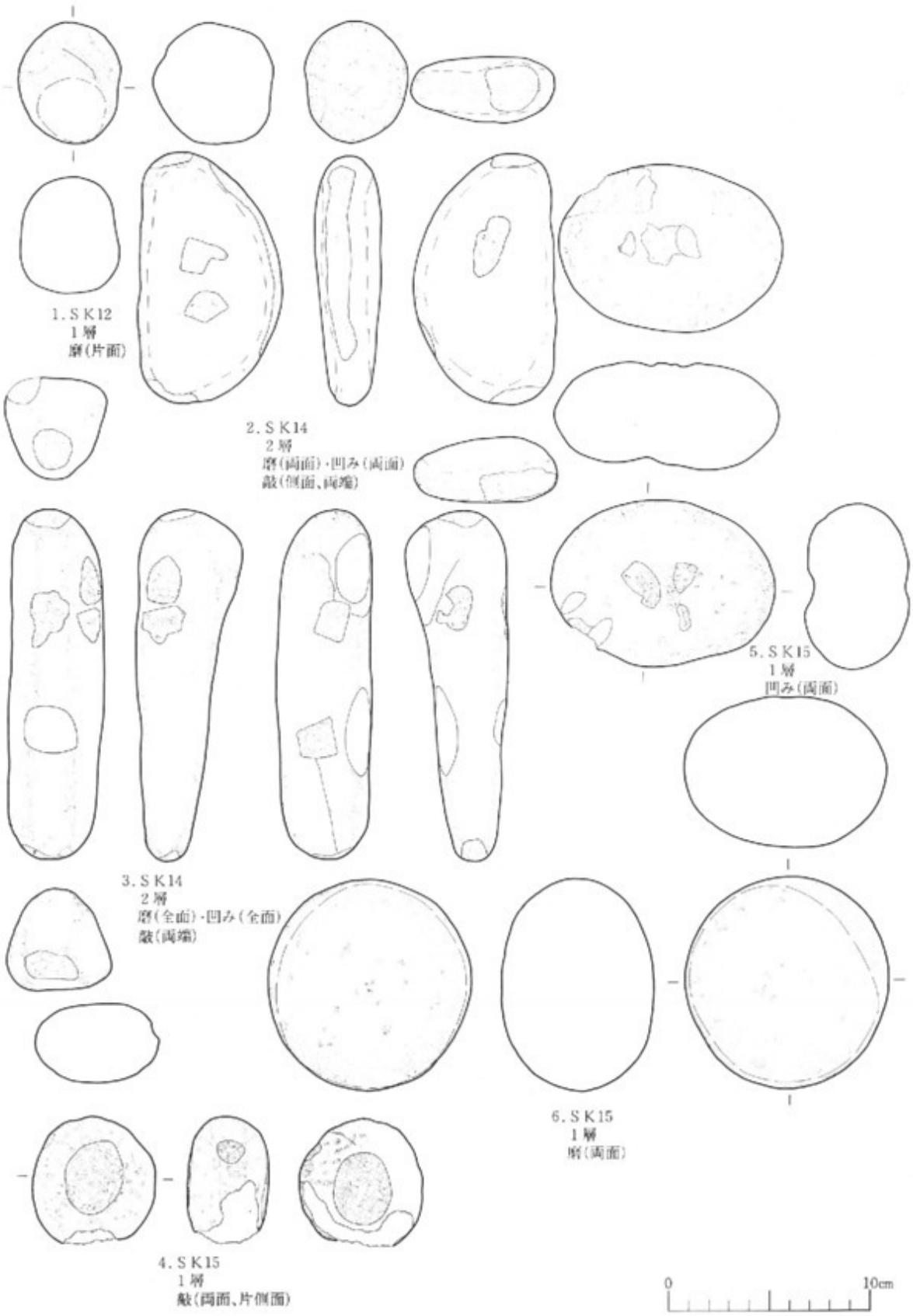
第69図　石器XIX(礫石器)



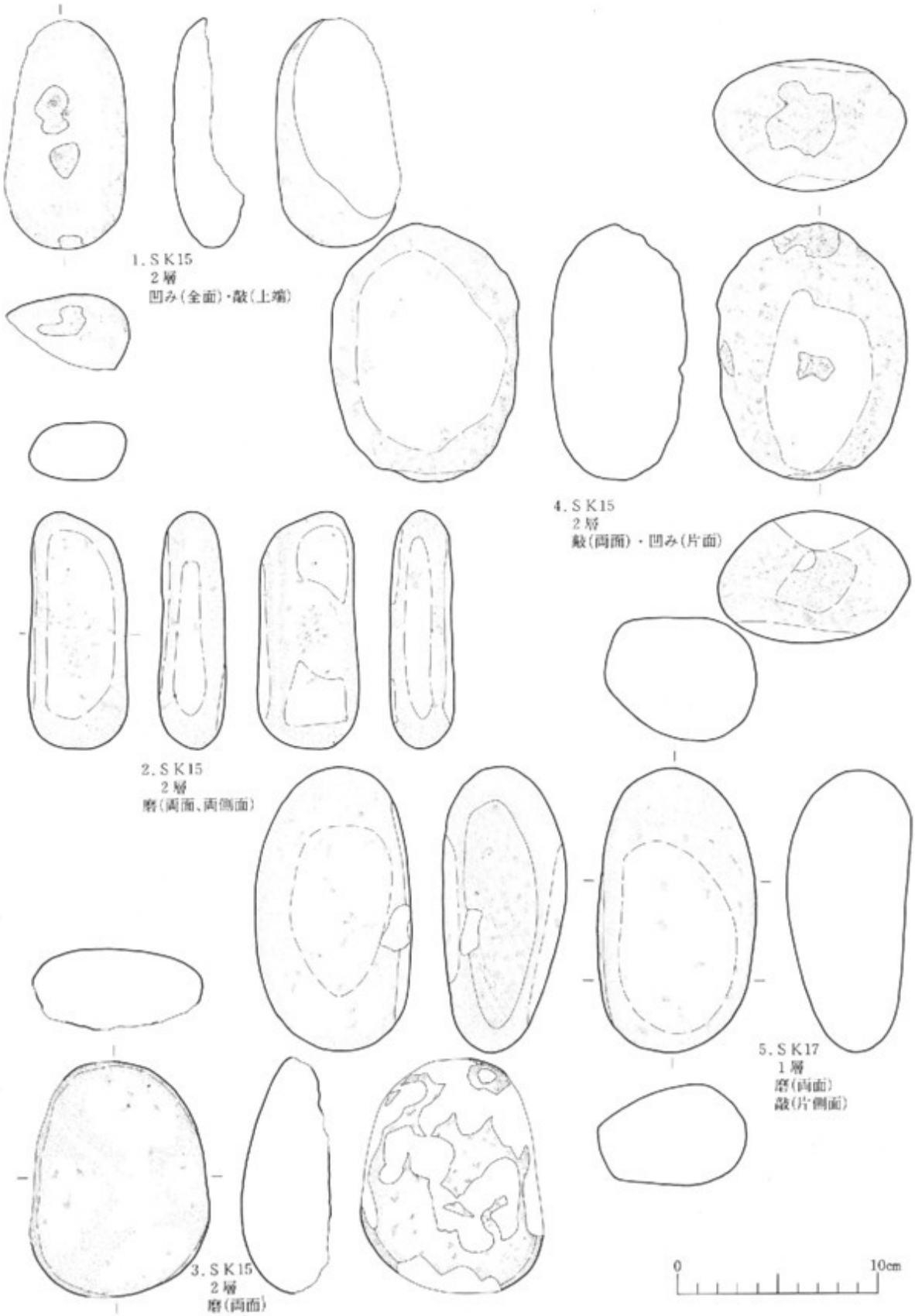
第70図　石器 XX（礫石器）



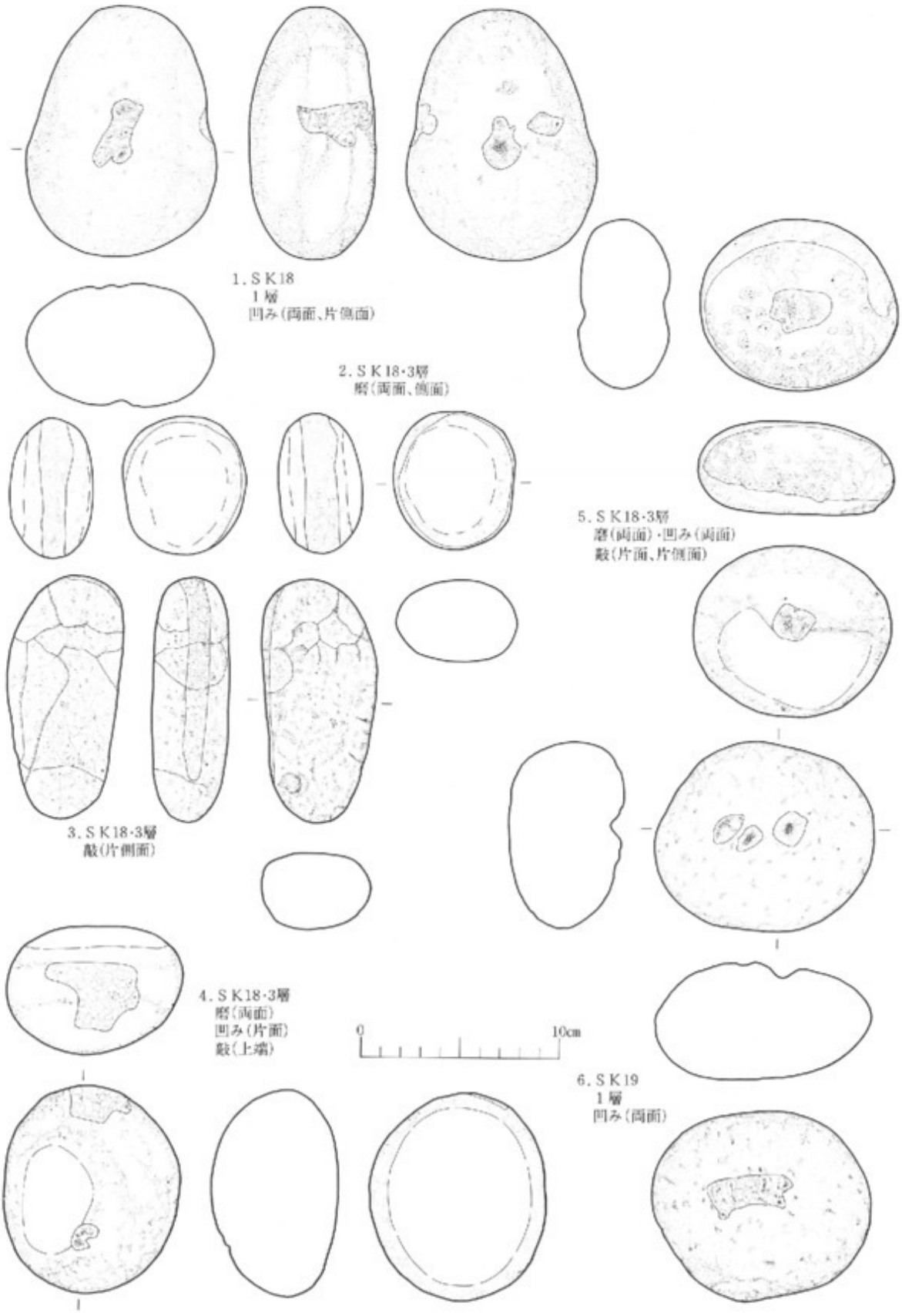
第71図　石器XXI（礫石器）



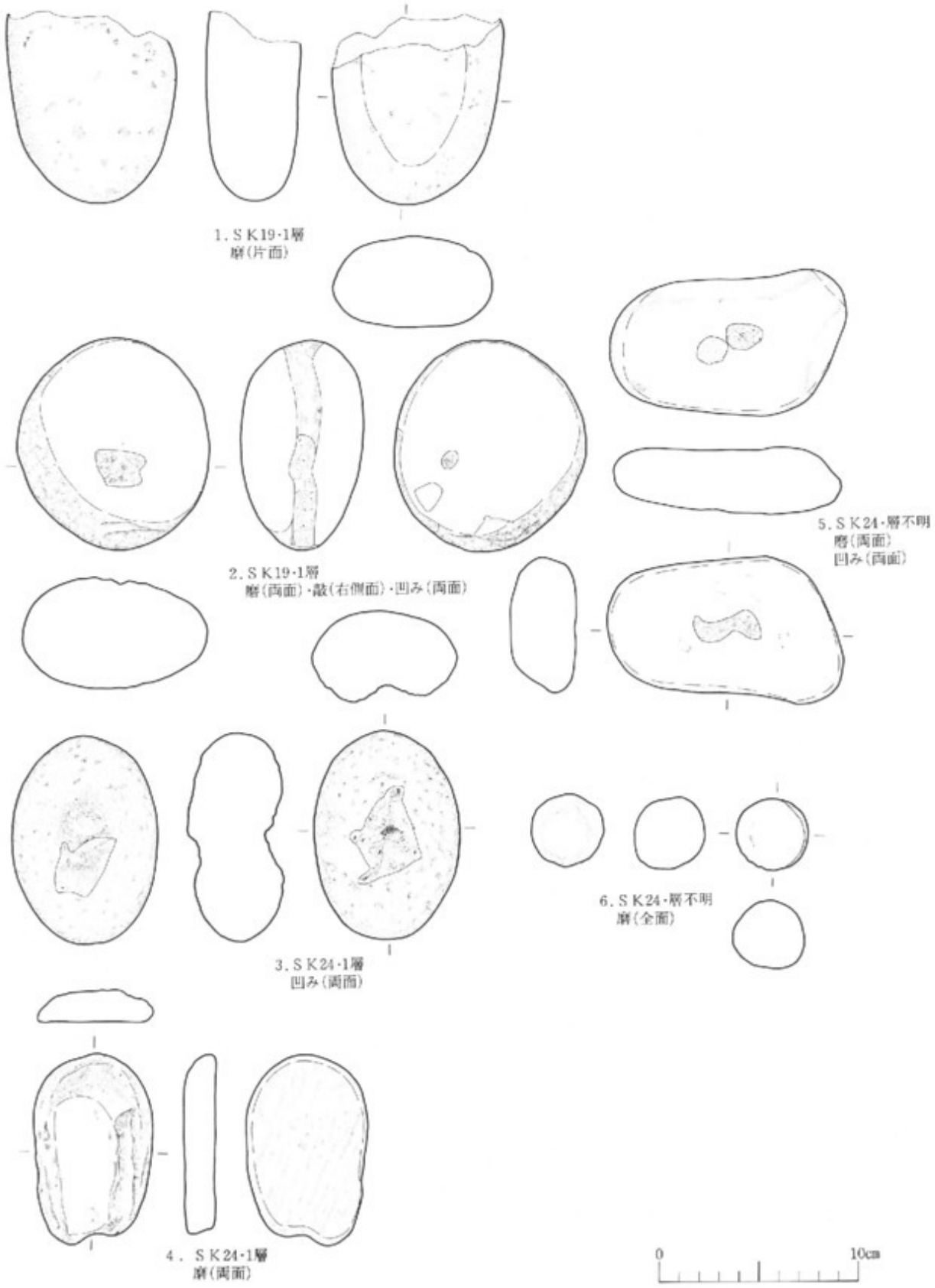
第72図　石器 XXII (礫石器)



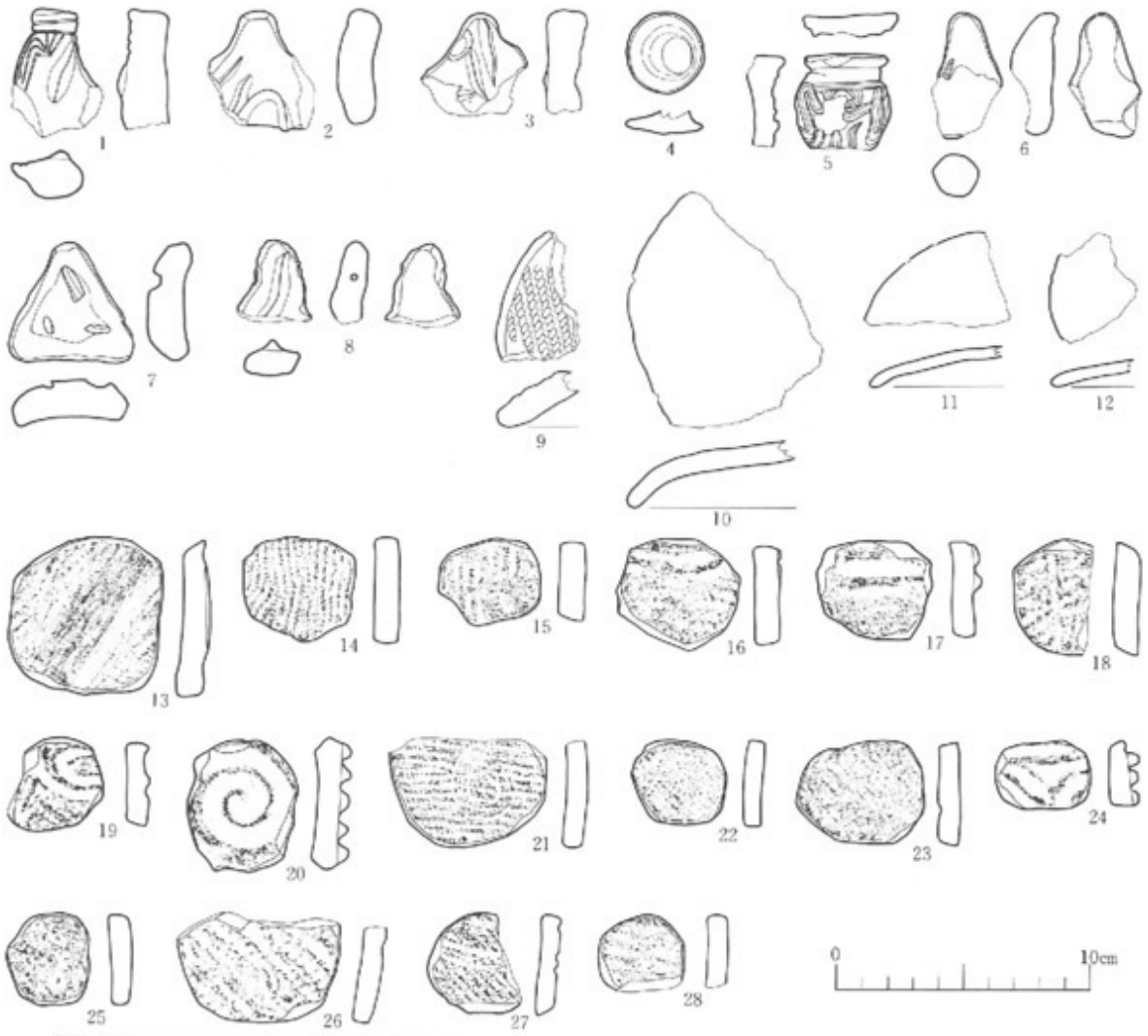
第73図　石器 XXⅢ (礫石器)



第74図　石器 XXIV (礫石器)



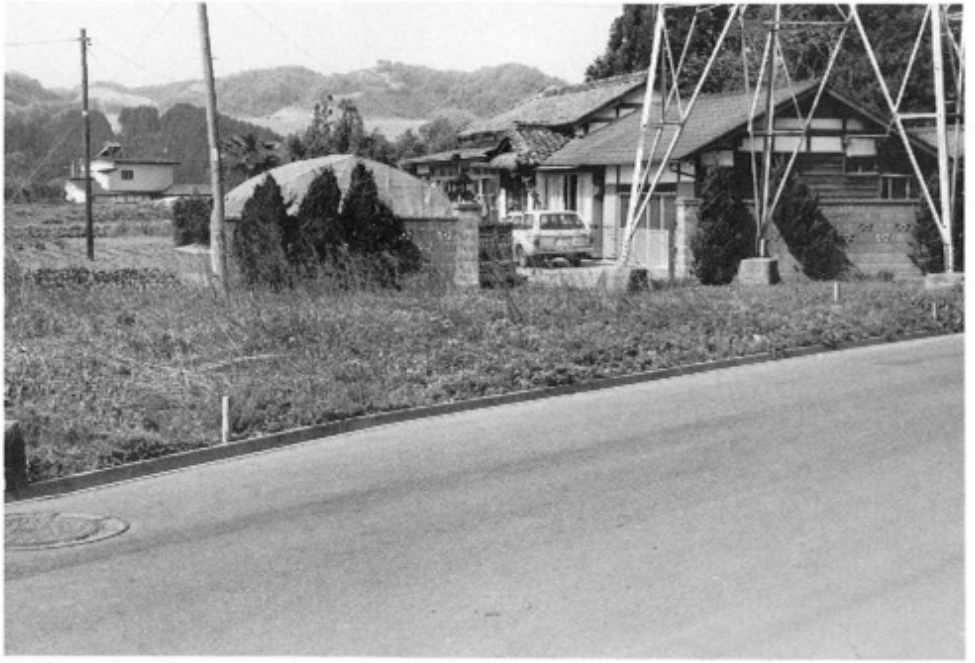
第75図　石器 XXV （礫石器）



番号	遺構・層位	種　類	特　徴
1	Ⅰ層	三角形土製品	
2	Ⅰ層	三角形土製品	
3	A区　Ⅱ層	三角形土製品	
4	A区　Ⅱ層	土　錘	
5	SK－6　1層	不明土製品	
6	SK－8　1層	三角形土製品	
7	SK－18　1層	三角形土製品	
8	SK－19　1層	三角形土製品	
9	Ⅰ層	蓋	
10	D区　Ⅱ層	蓋	
11	D区　Ⅱ層	蓋	
12	SK－16　1層	蓋	
13	Ⅰ層	土製円盤	外面隆線文・沈線文・ＲＬ縄文（複節、横位）　内面磨き　胎土雲母含む、白色針状物質若干含む
14	A区　Ⅱ層	土製円盤	外面ＲＬ縄文（横位・斜位）　内面磨き　胎土砂粒・雲母含む
15	SK－3　1層	土製円盤	外面ＬＲ縄文（斜位）一部すり消し　内面磨き　胎土砂粒・雲母含む
16	SK－3　1層	土製円盤	外面降帯線文・沈線文・縄文　内面磨き　胎土砂粒・雲母含む
17	SK－3　1層	土製円盤	外面隆線・沈線　内面磨き　胎土砂粒・雲母含む
18	SK－7　2層	土製円盤	外面沈線ＲＬ縄文（横位）　内面磨き　胎土雲母・繊粒含む
19	SK－7　2層	土製円盤	外面沈線ＬＲ縄文（横位）　内面磨き　胎土砂粒・雲母含む
20	SK－8　1層	土製円盤	外面降帯線文・沈線文　内面磨き　胎土砂粒・雲母含む
21	SK－12　1層	土製円盤	外面ＲＬ縄文（斜位）・渦巻文様（沈線）　内面磨き　胎土砂粒・雲母含む
22	SK－13　1層	土製円盤	外面縄文磨耗している　内面磨き　胎土礫粒・雲母含む
23	SK－14　1層	土製円盤	外面ＬＲ縄文（横位）内面ヘラナデ磨き　胎土砂粒・雲母含む
24	SK－15　1層	土製円盤	外面降帯線文・沈線文　内面磨き　胎土砂粒・雲母含む
25	SK－15　1層	土製円盤	外面縄文磨耗　内面磨き　胎土砂粒・雲母含む
26	SK－15　1層	土製円盤	外面ＬＲ縄文（横位）　内面磨き　胎土砂粒・雲母含む
27	SK－18　1層	土製円盤	外面縄文・沈線文　内面磨き　胎土礫粒・雲母含む
28	SK－19　1層	土製円盤	外面縄文磨耗している　内面磨き　胎土砂粒・雲母含む

第76図　土 製 品

1.

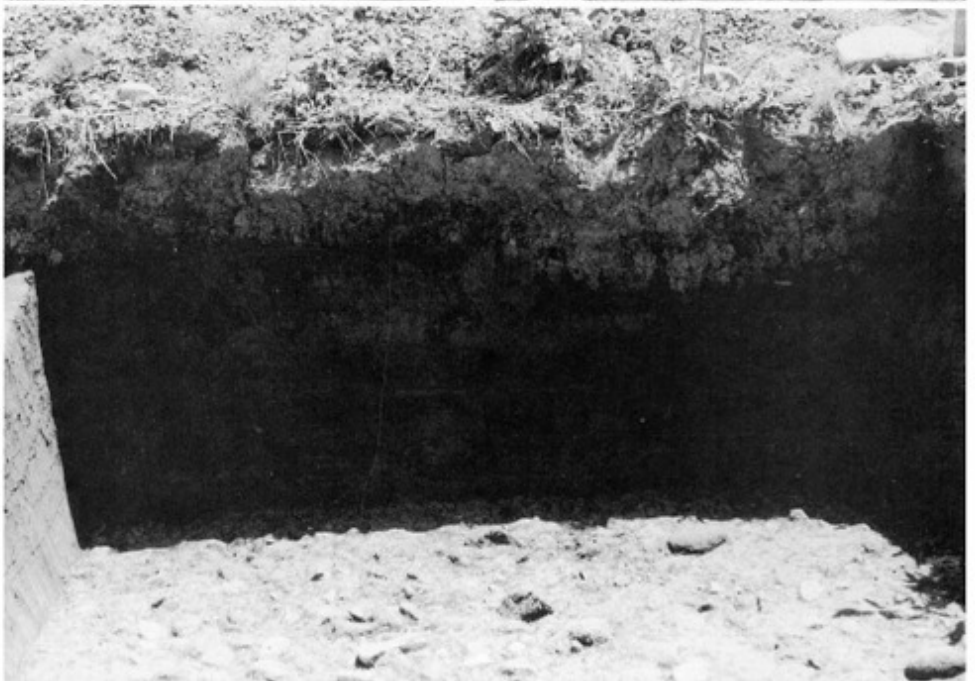


調査前の状況▶
(北東→南西)

2.

調査風景▶
(西→東)

3.



基本層の状況▶
(西→東)

写真 1

4.

◀完掘状況
(西→東)

5.

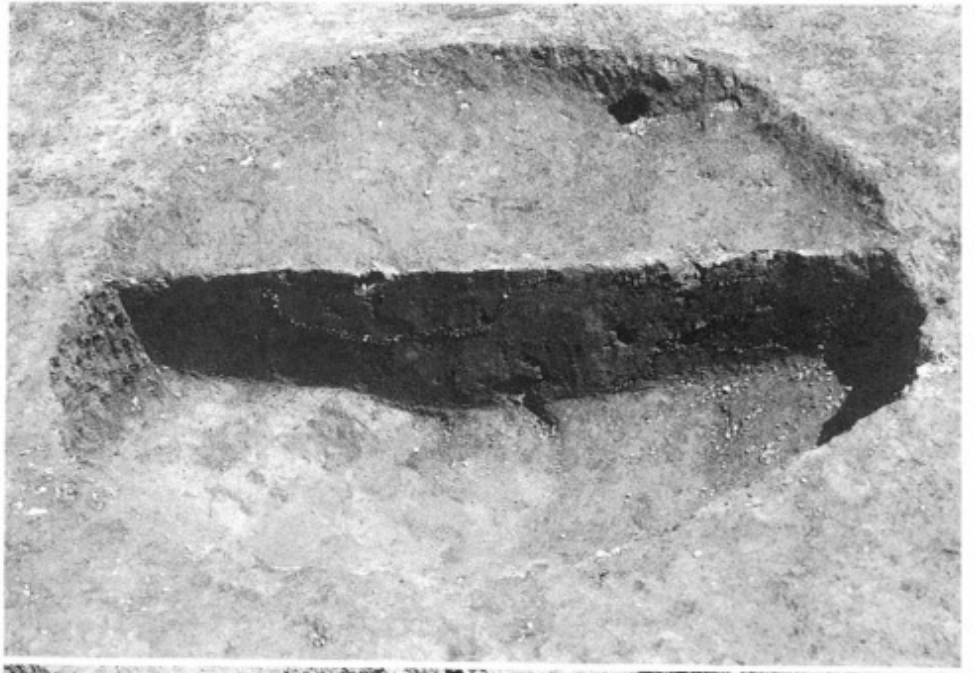
◀SK1・2
(南→北)

6.

◀SK3
(南→北)

写真2

7.



ＳＫ３断面状況▶
（北西→南東）

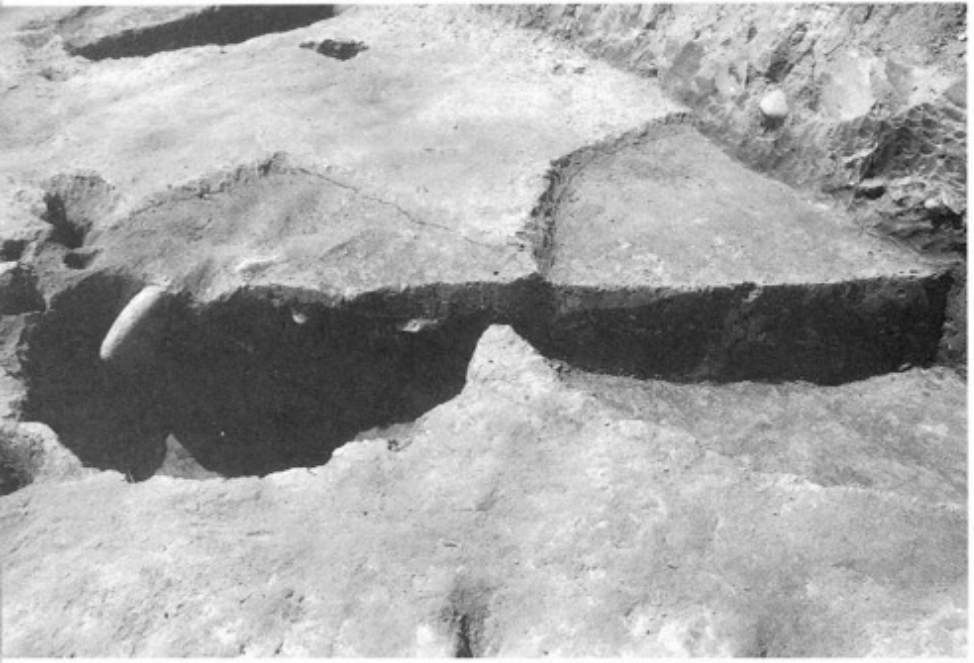
8.

ＳＫ４と断面▶
（西→東）

9.

ＳＫ5･6▶
（東→西）

写真３



10.

◀ ＳＫ5･6断面状況
（南東→北西）

11.

◀ ＳＫ７遺物出土状況
（北→南）

12.

◀ ＳＫ7･8
（北→南）

写真４

13.

SK9▶
(北→南)

14.

SK9遺物出土状況▶
(東→西)

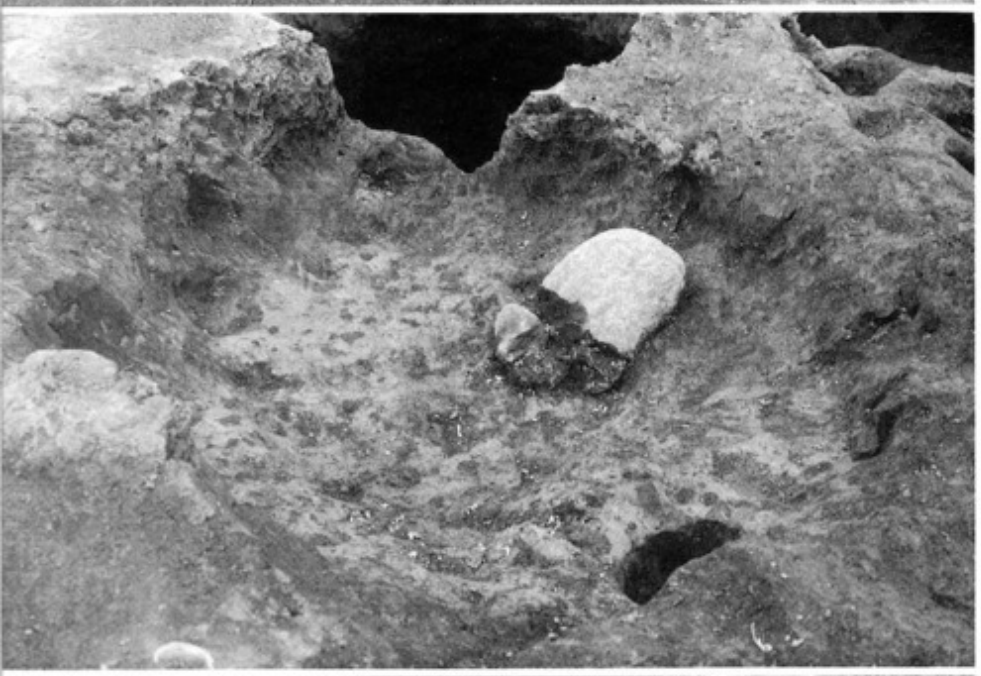
15.

SK10▶
(西→東)

写真5

16.

◀ S K10断面状況
(南→北)



17.

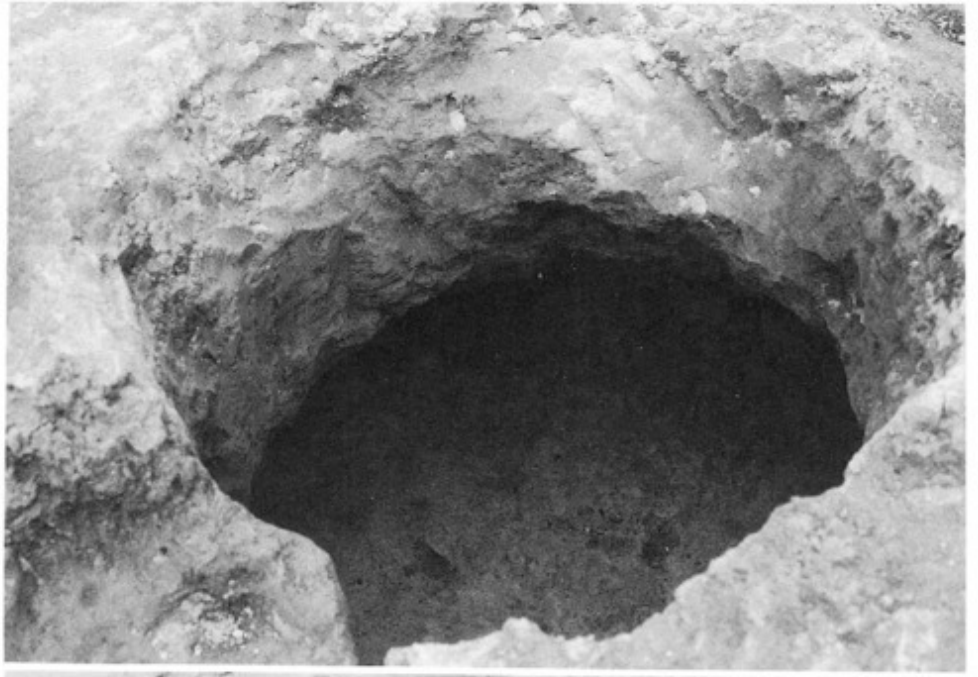
◀ S K11
(南→北)

18.

◀ S K11・12断面状況
(西→東)

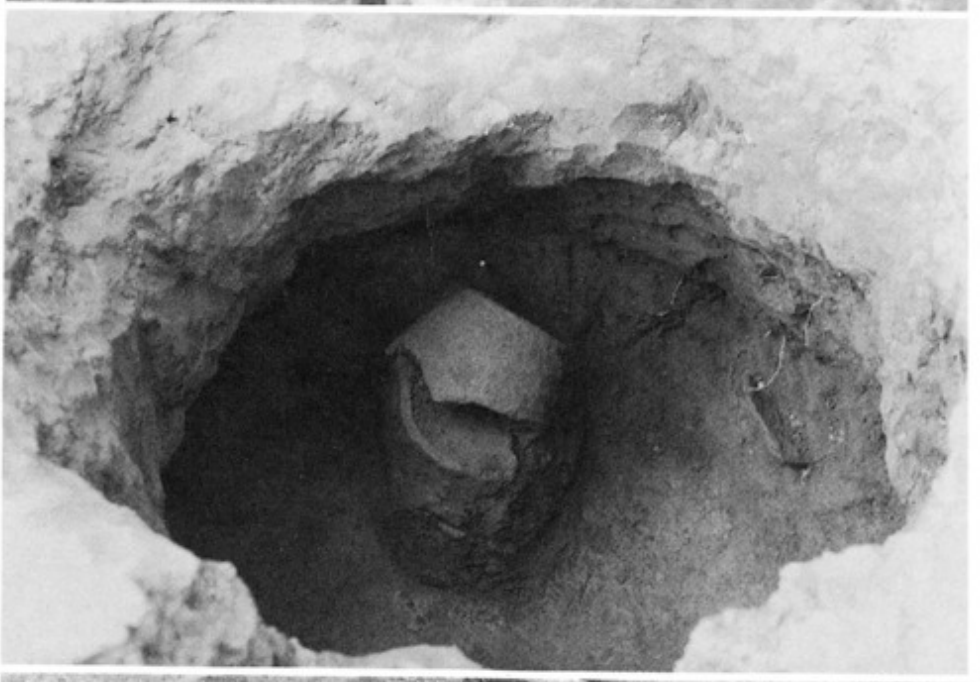
写真6

19.



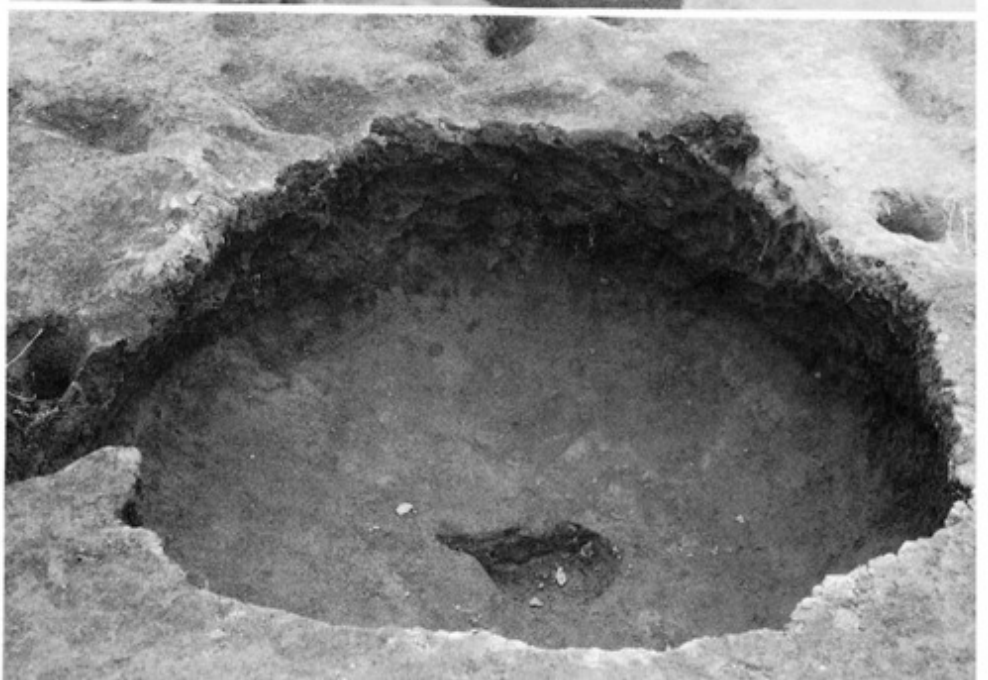
SK12▶
(南→北)

20.



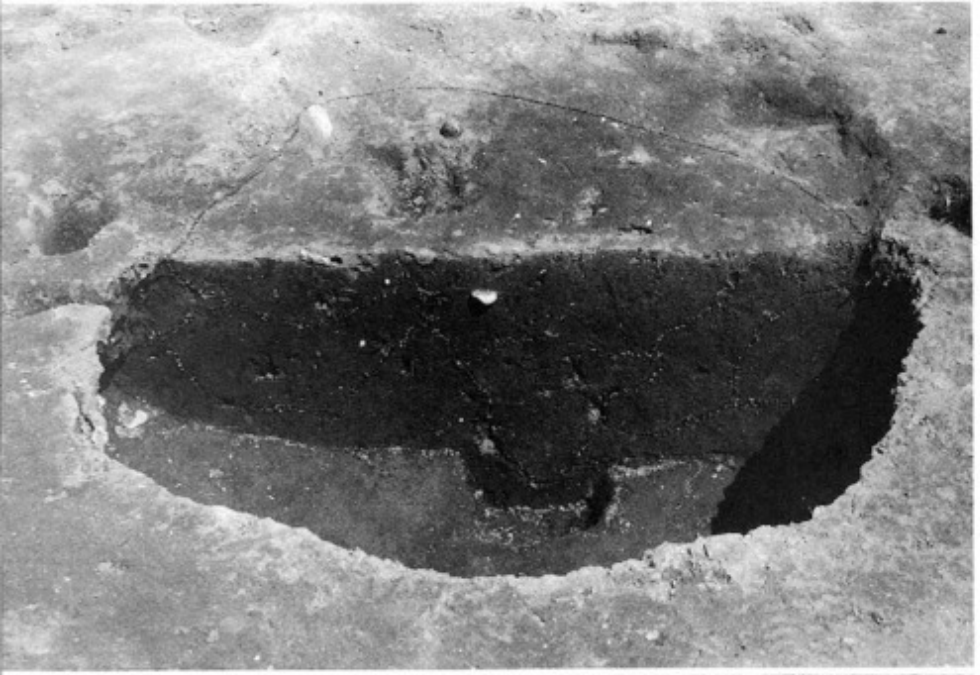
SK12遺物出土状況▶
(南→北)

21.



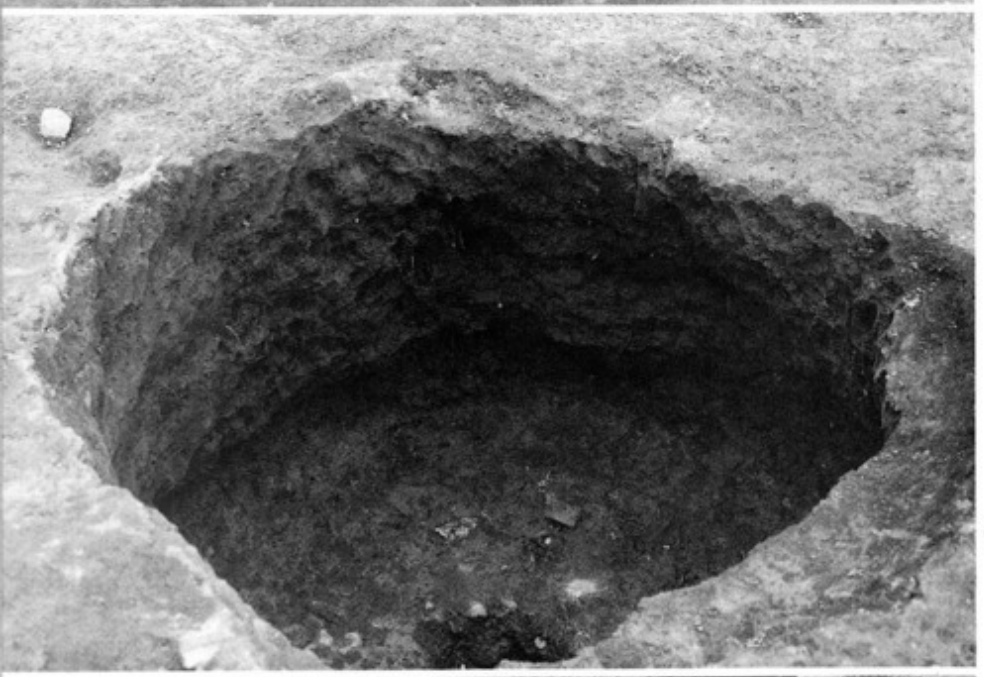
SK13▶
(西→東)

写真7



22.

◀ S K13断面状況
(西→東)



23.

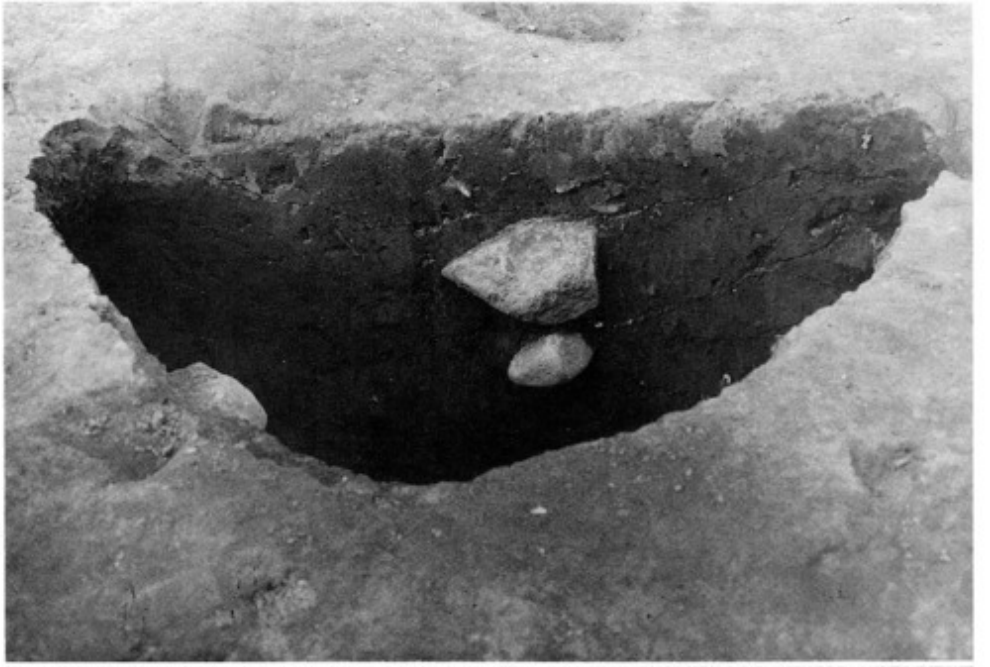
◀ S K14
(西→東)

24.

◀ S K15
(南→北)

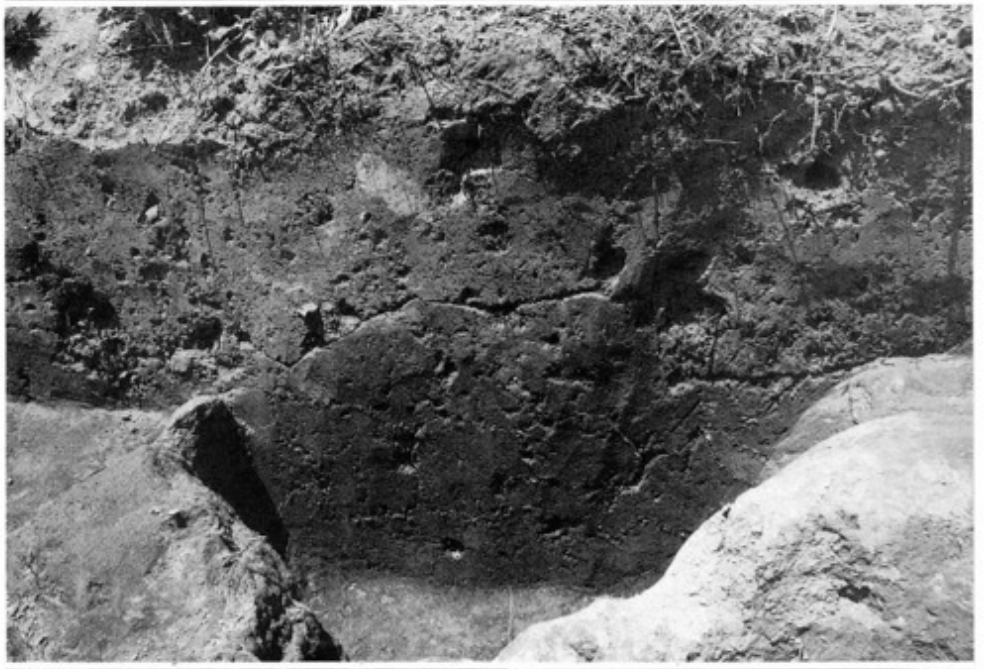
写真 8

25.



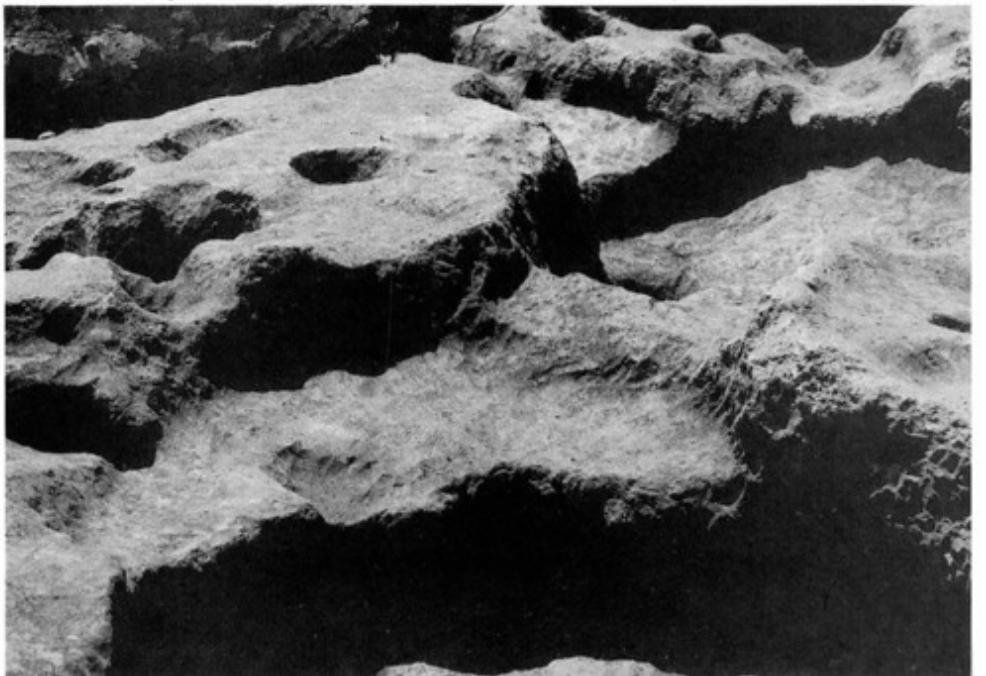
SK15断面状況▶
（南→北）

26.



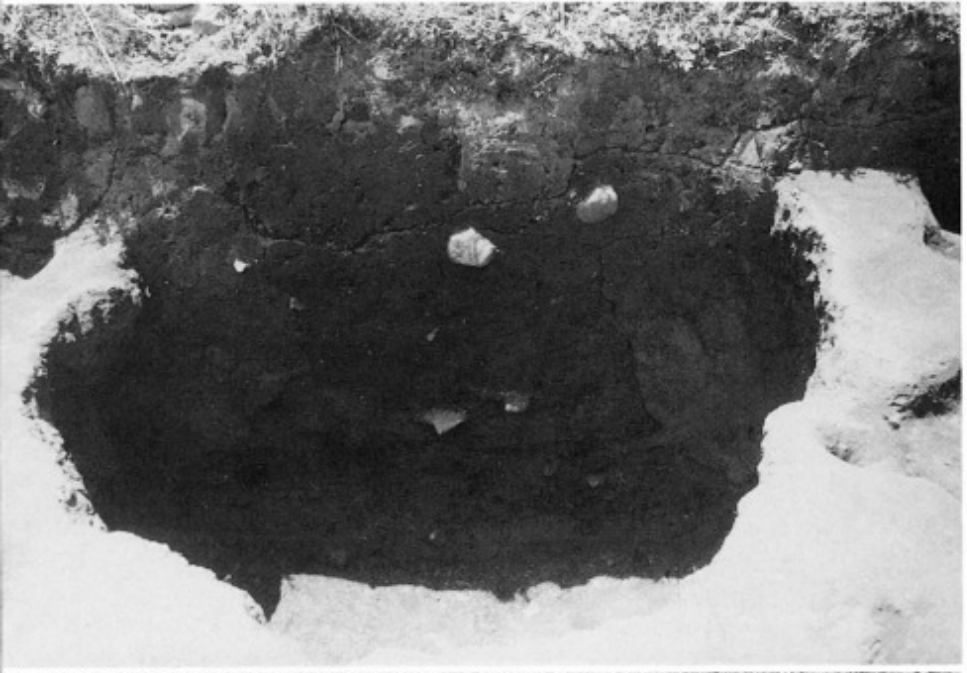
SK16と断面▶
（東→西）

27.



SK17▶
（南東→北西）

写真9



28.

◀ S K18と断面
（北→南）

29.

◀ S K19・20と断面
（東→西）

30.

◀ S K22・23
（西→東）

写真10

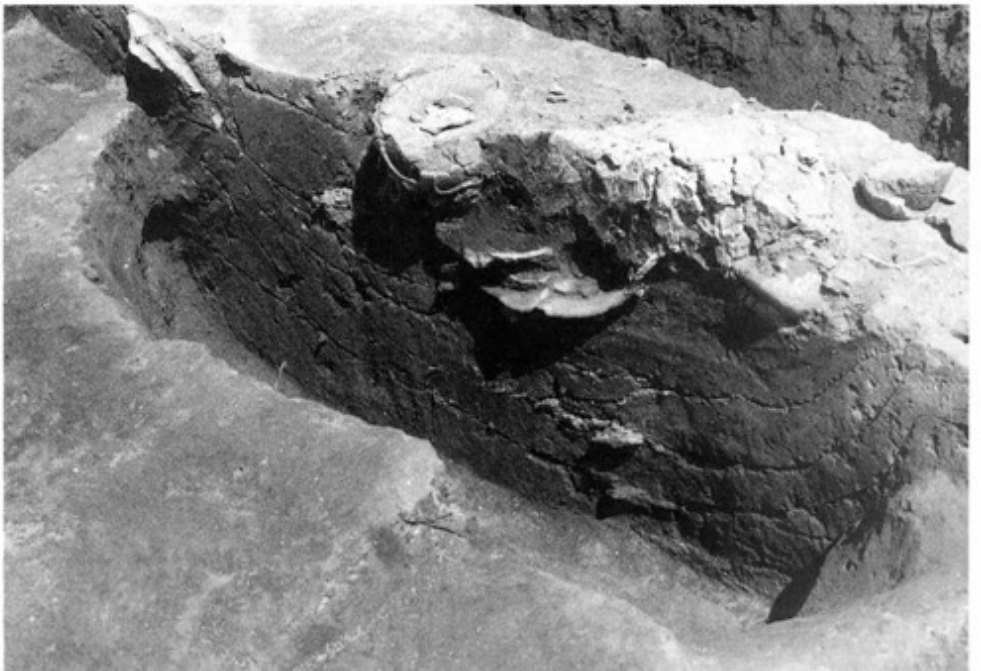
31.

S K24▶
(南西→北東)

32.

S K24遺物出土状況▶
(北→南)

33.



S K24断面状況▶
(南→北)

写真11

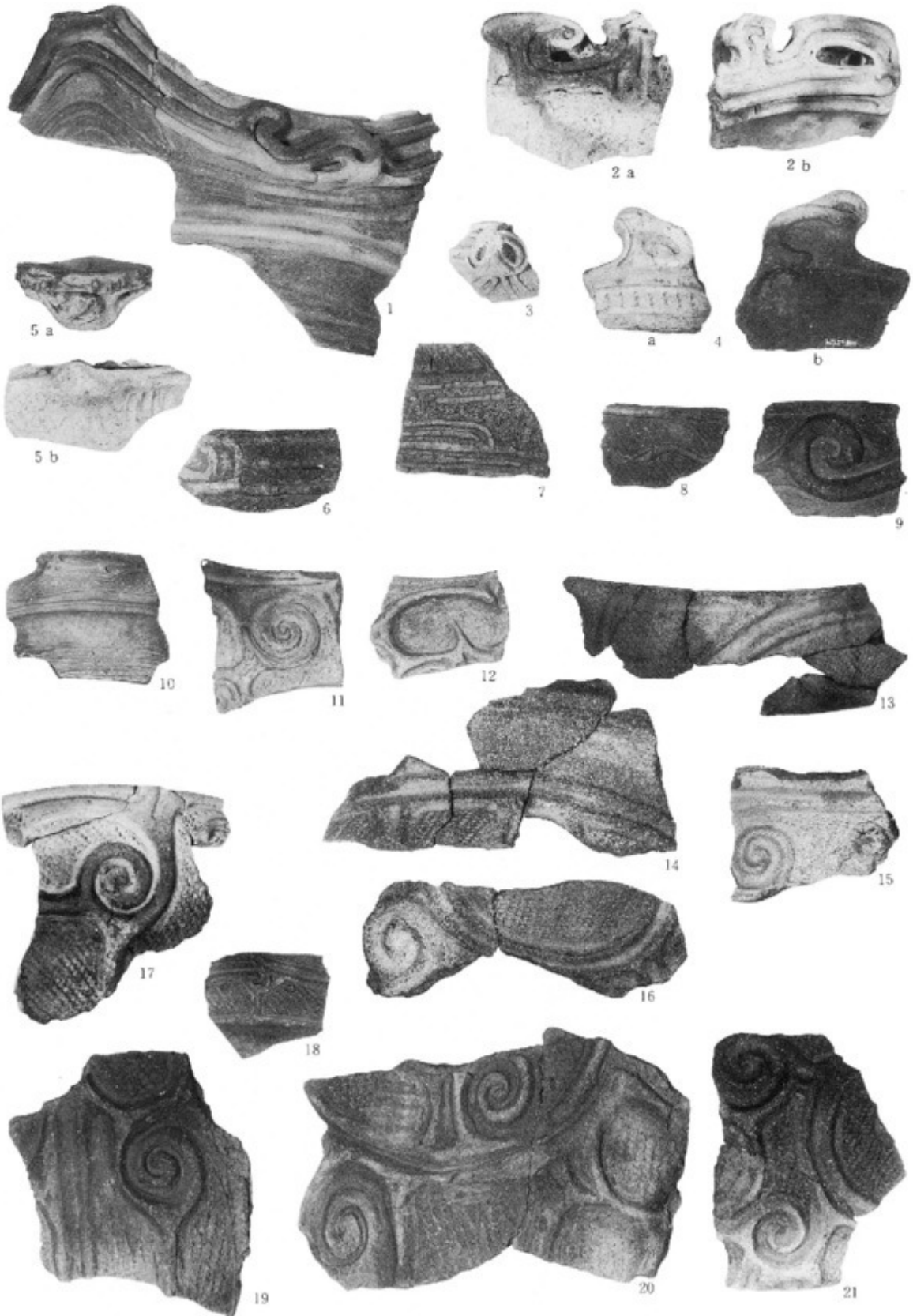


写真12　I層出土土器

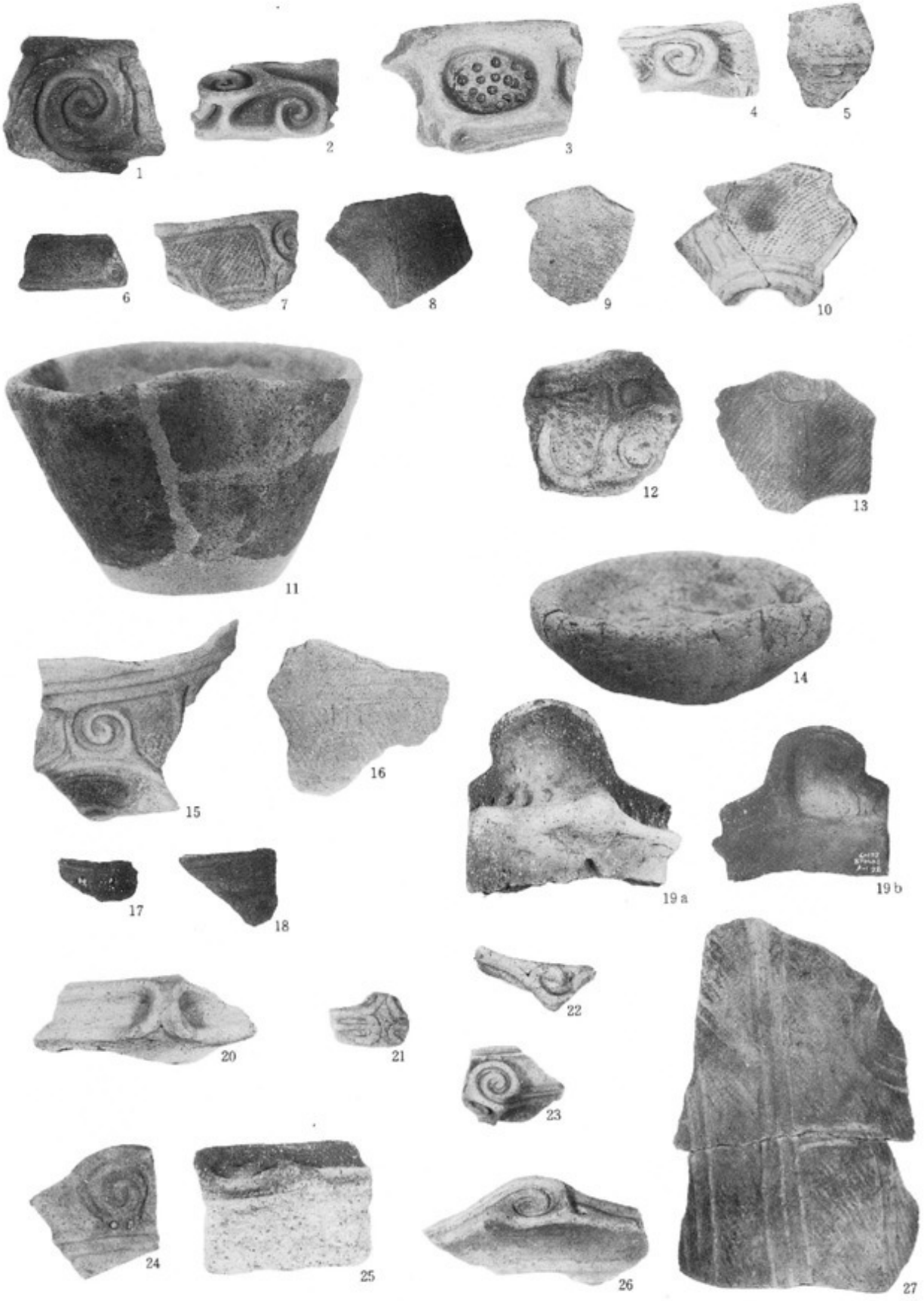


写真13　Ⅰ層・Ⅱ層出土土器

※1～14がⅠ層

写真14　Ⅱ層・ＳＫ１出土土器

※1～7がⅡ層

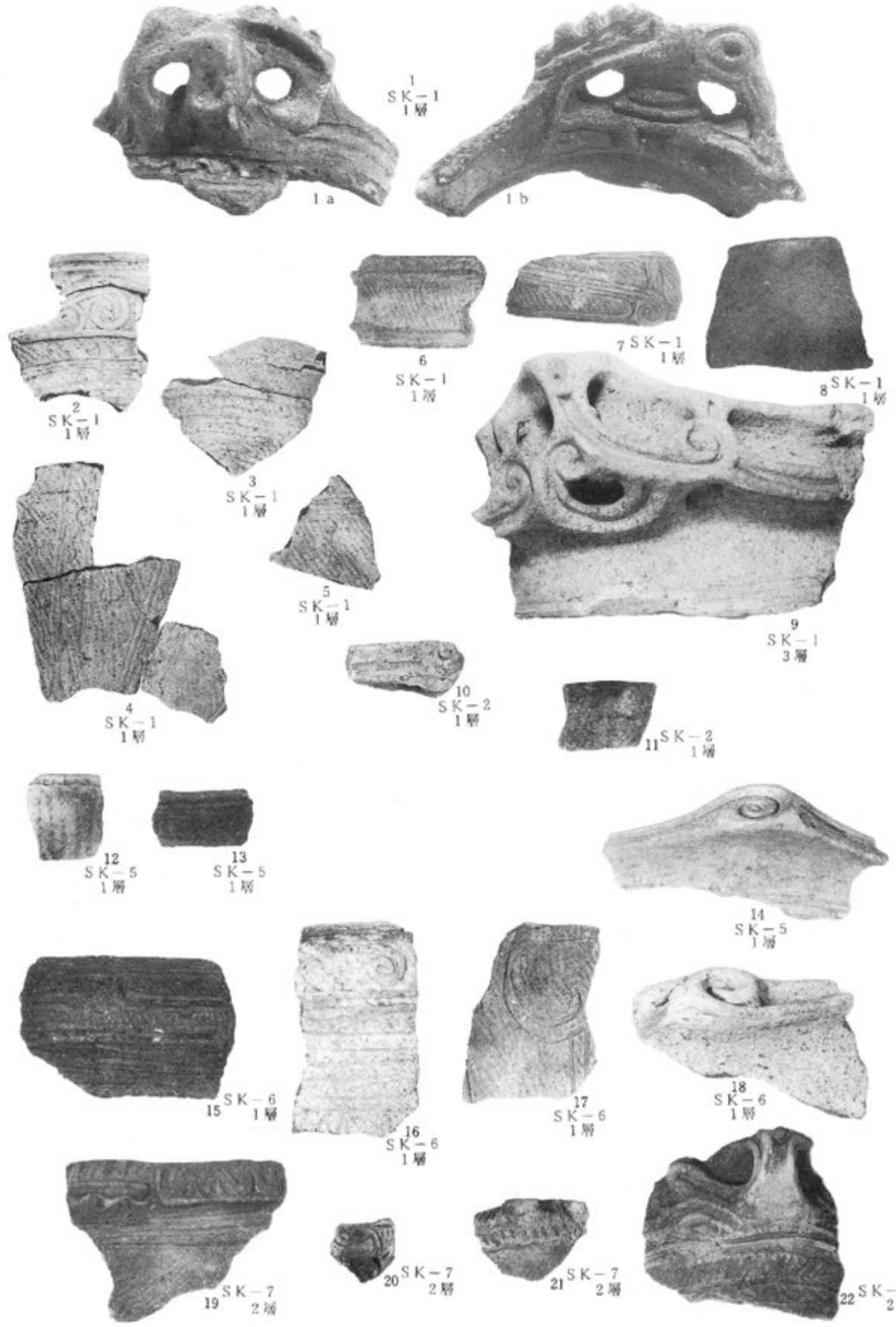


写真15　SK1・2・5・6・7出土土器

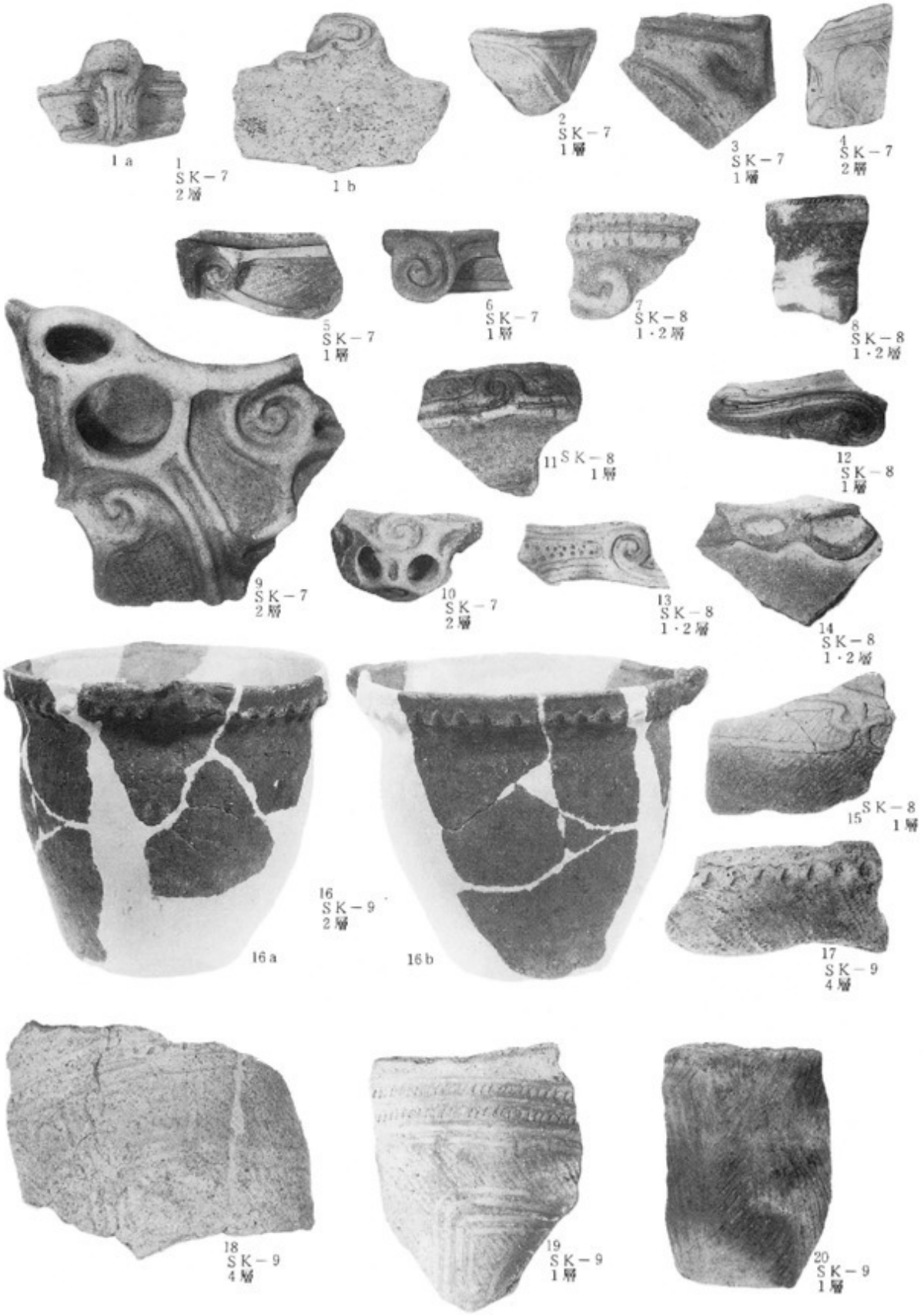


写真16　ＳＫ７・８・９出土土器

1 a

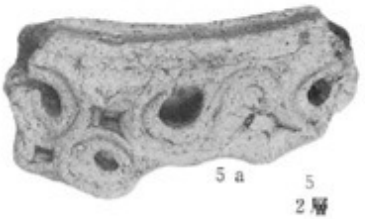
1
4層

2
5層

1 b

3
5層

4
5層



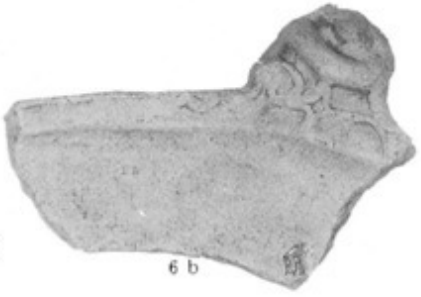
5 a

5
2層

5 b

6 a

6
4層



6 b

7
5層

写真17　ＳＫ９出土土器

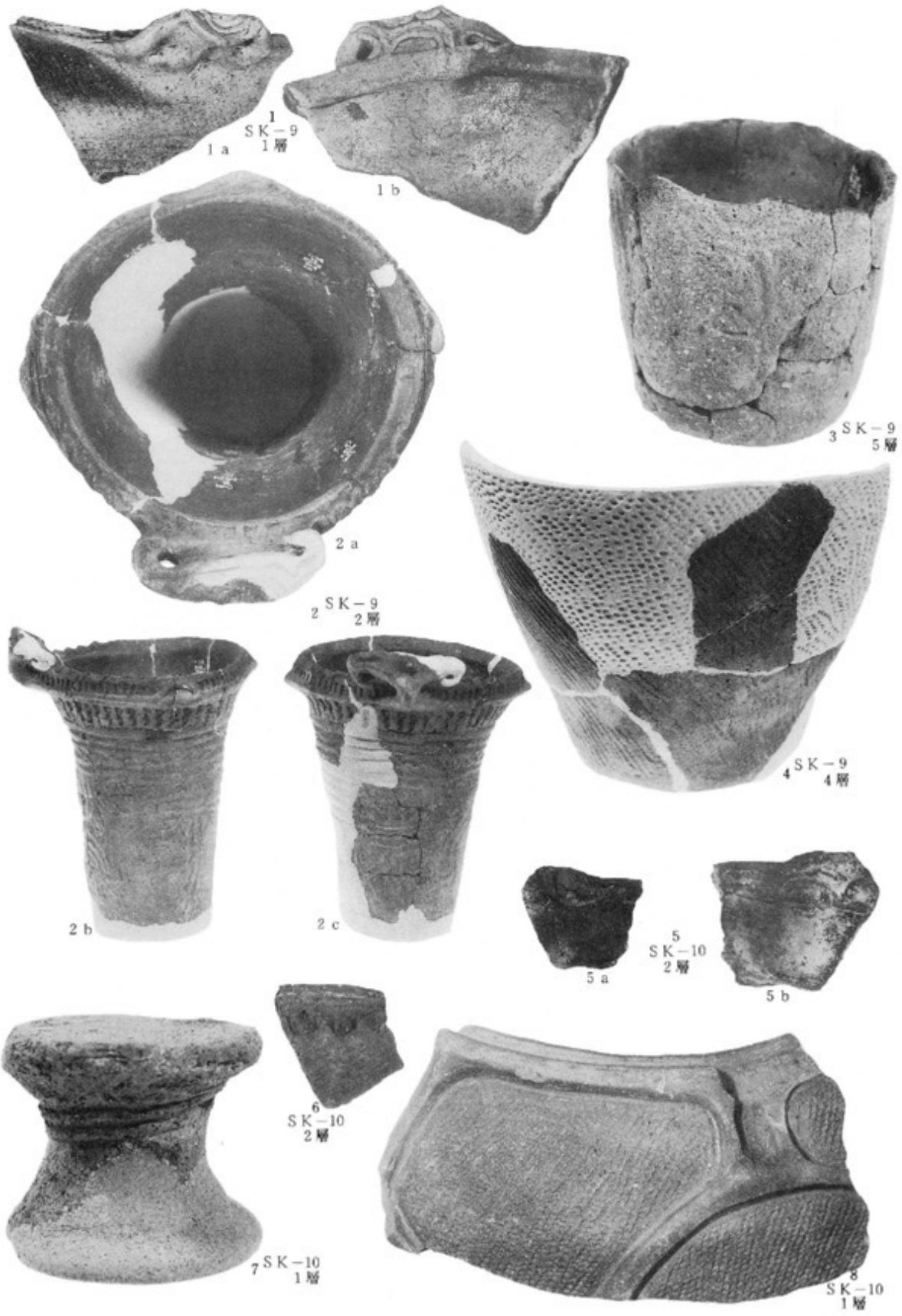


写真18　ＳＫ９・10出土土器

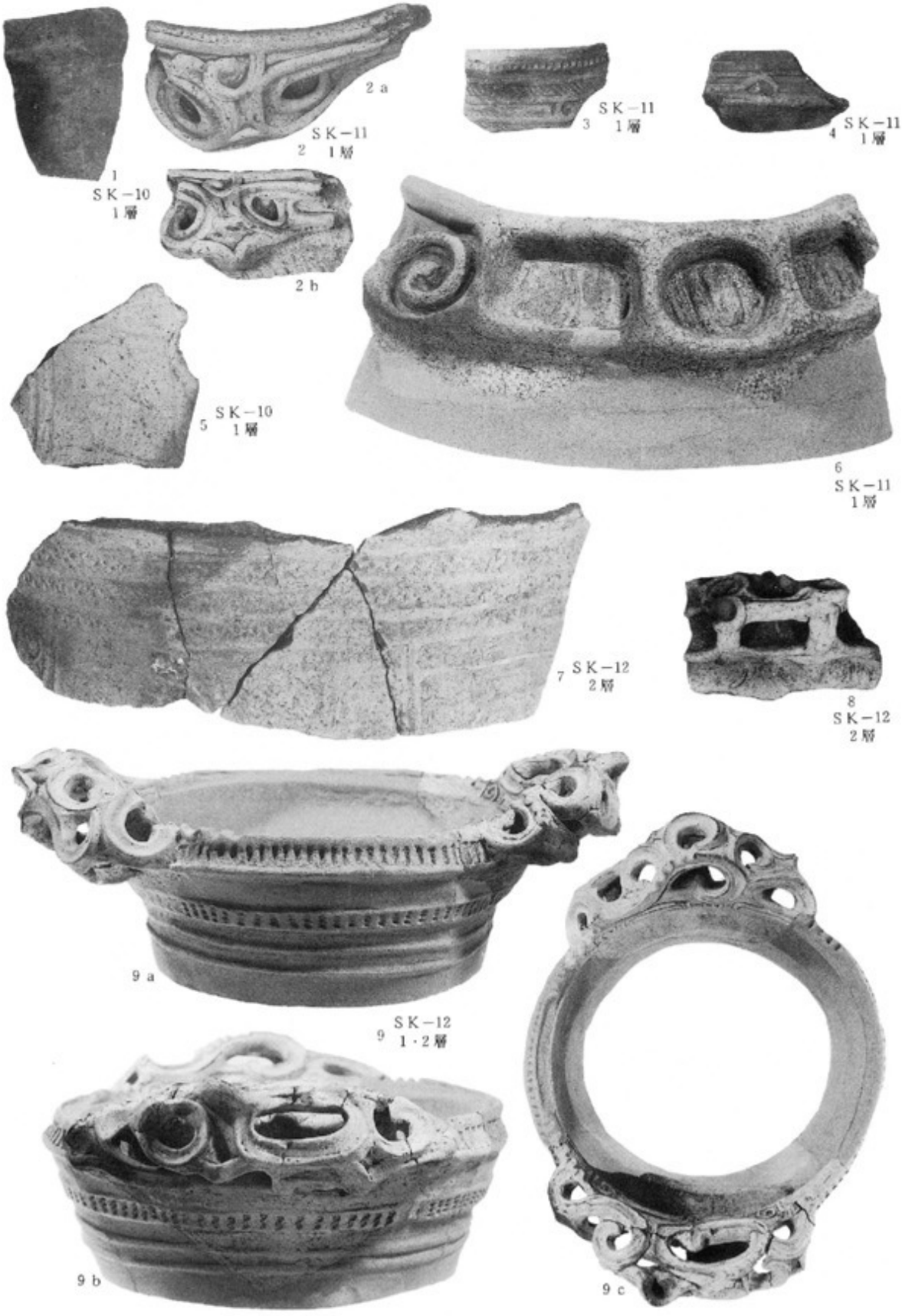
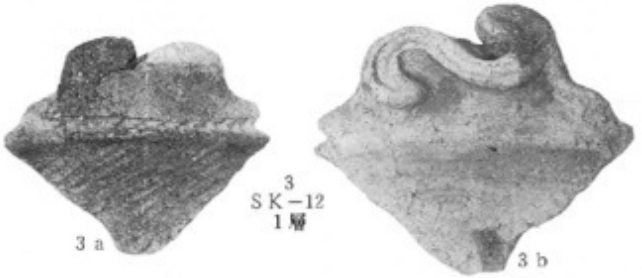


写真19　SK10・11・12出土土器

1 SK−12 2層

2 SK−12 1層

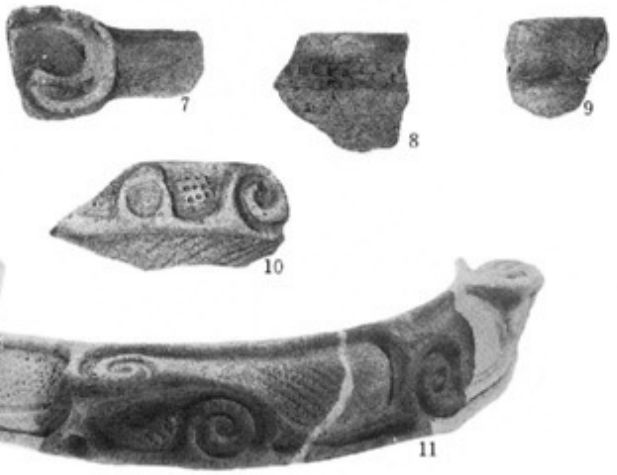


3a　3 SK−12 1層　3b

4 SK−12 2層

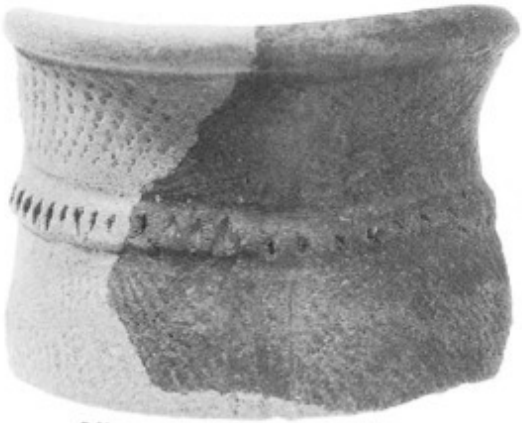
5 SK−12 2層

6 SK−12 2層



7　8　9　10　11

写真20　SK12・13出土土器　※SK-13の1層(7～11)



1 SK−14 2層

2 SK−14 2層

3a SK−14 2層 3 3b

7 SK−14 2層

4 SK−14 2層

5 SK−14 1層

6 SK−14 1層

8 SK−15 1層

9 SK−15 1層

12 SK−15 1層

10 SK−15 1層

11 SK−15 1層

13 SK−15 2層

16 SK−16 1層

14 SK−15 1層

15 SK−15 1層

17 SK−16 1層

18 SK−17 1層

写真21　SK14・15・16・17出土土器

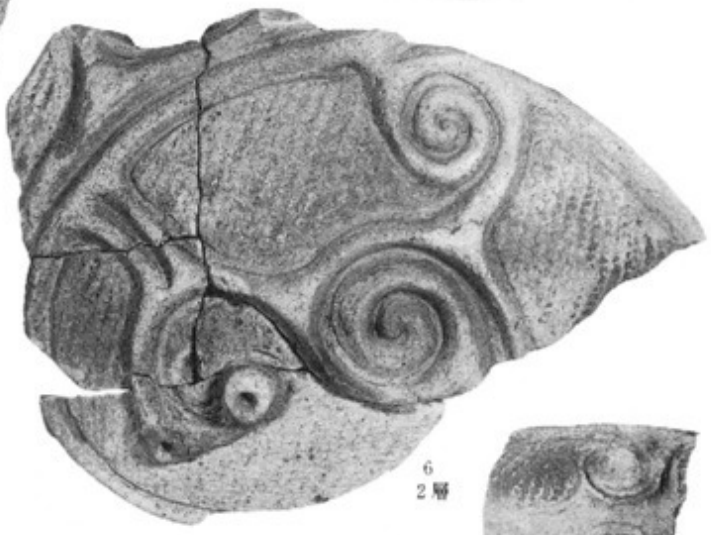
1
2層

2
1層

3
1層

4
1層

5
2層


6
2層

7
2層

8
2層

9
2層

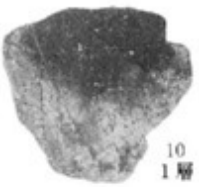

10
1層

写真22　ＳＫ15出土土器

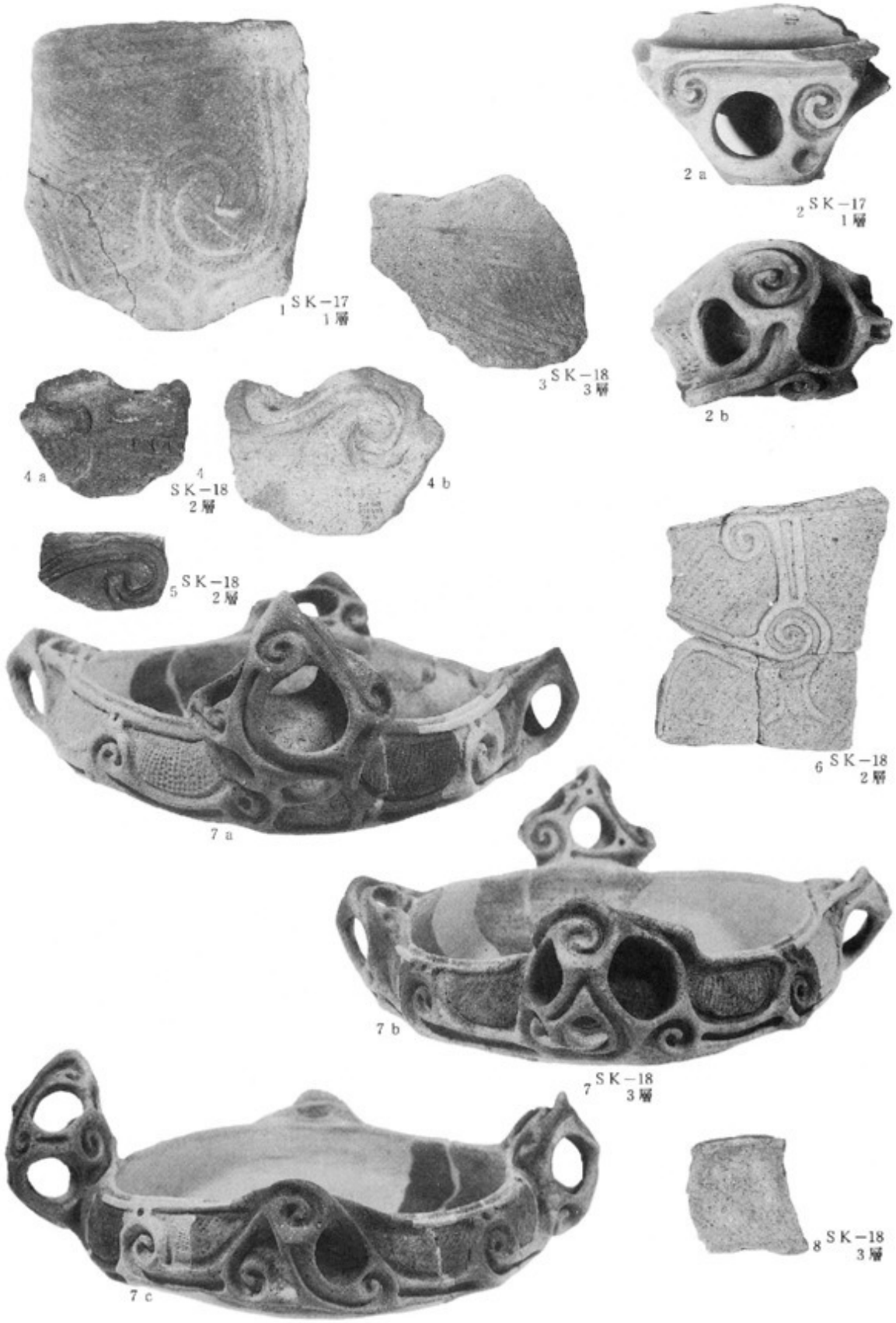


写真23　SK17・18出土土器

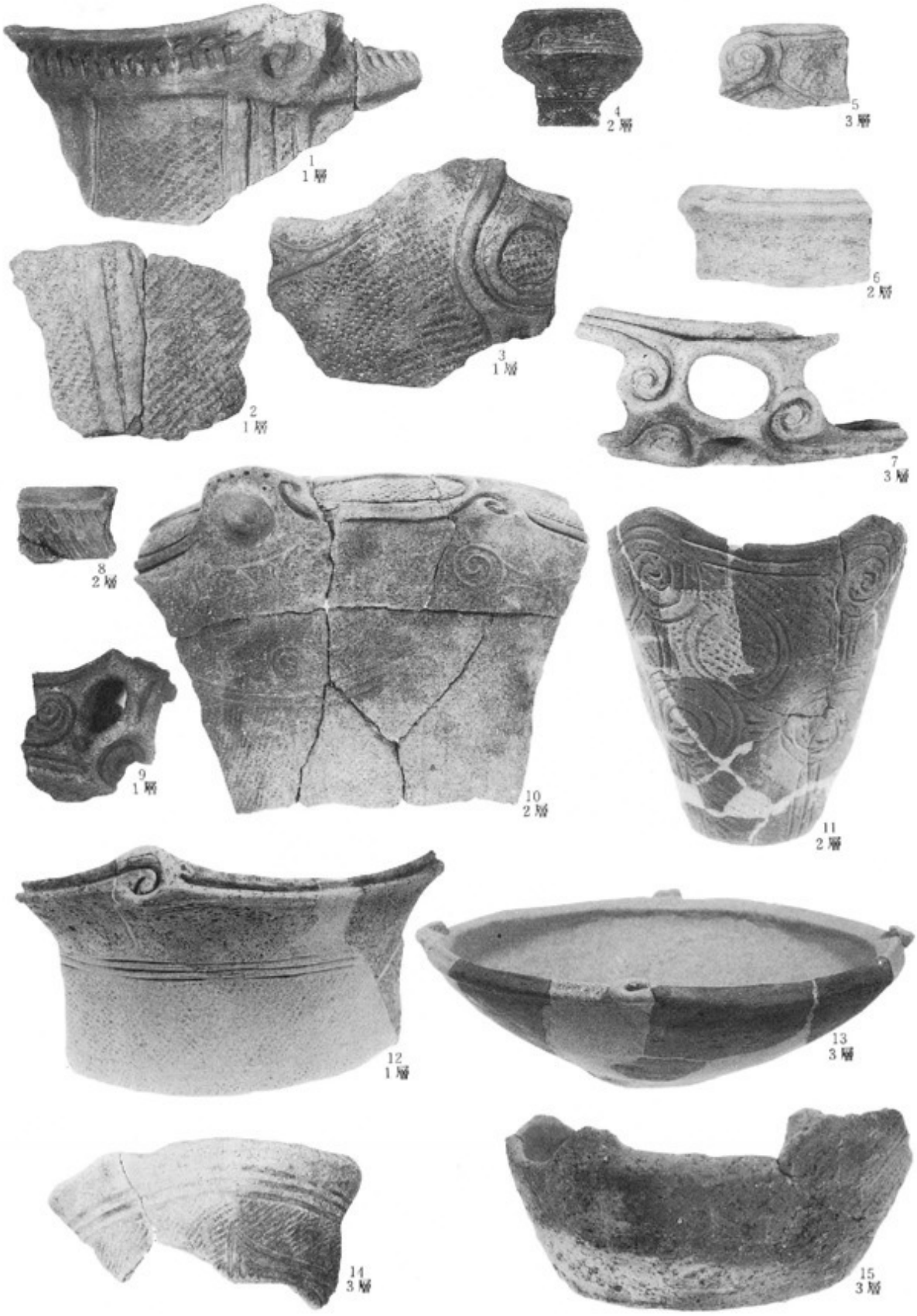


写真24　ＳＫ18出土土器

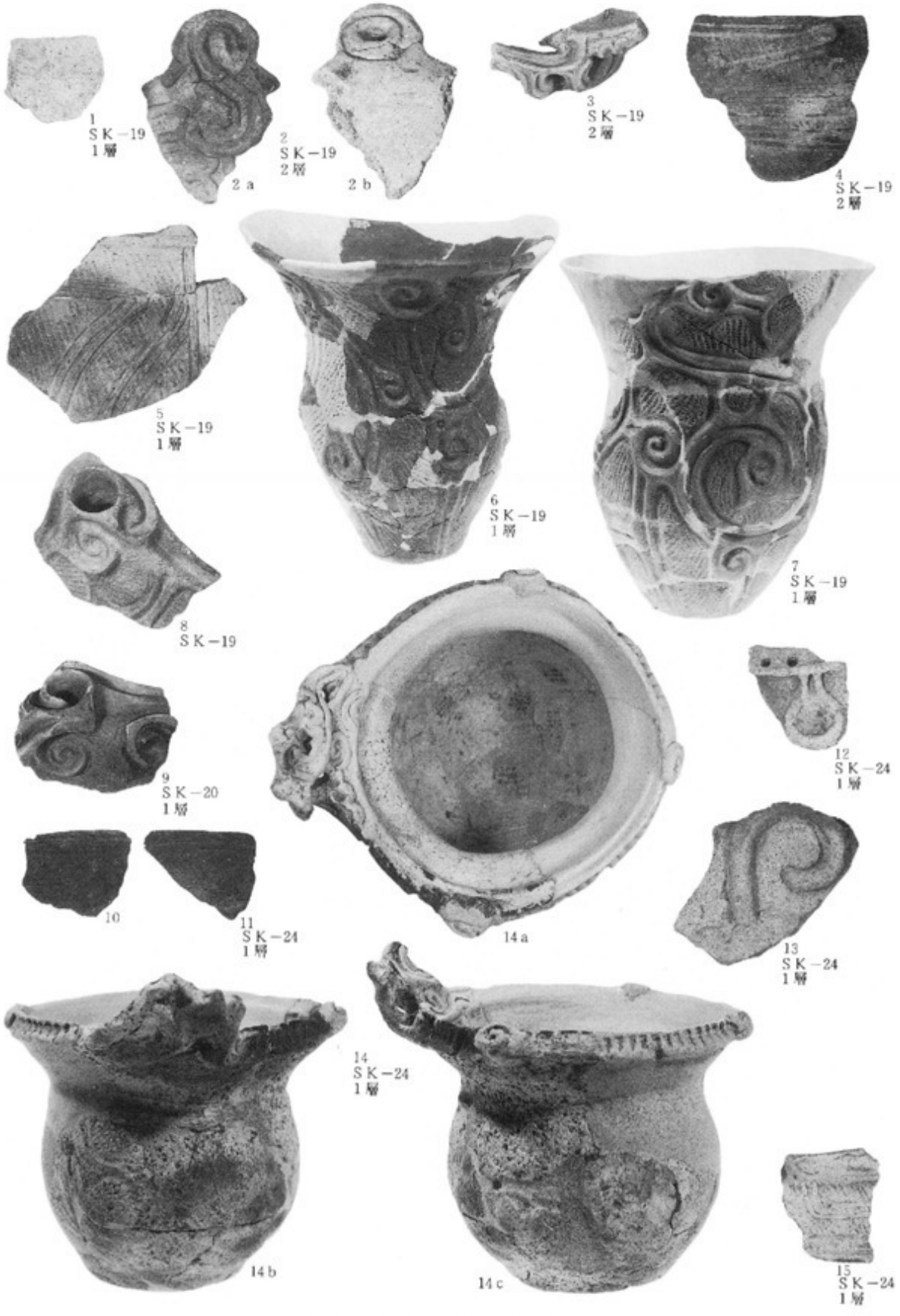
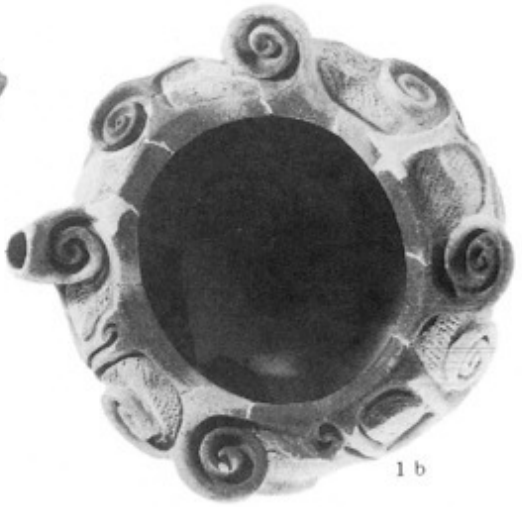


写真25　ＳＫ19･20･24出土土器

写真26　ＳＫ24出土土器

※１～９は１層

1a


1b

2a

1c

2b

3

4

5

6

7

8

写真27　ＳＫ24出土土器

※1～8は1層

※1～9は1層

写真28　ＳＫ24出土土器

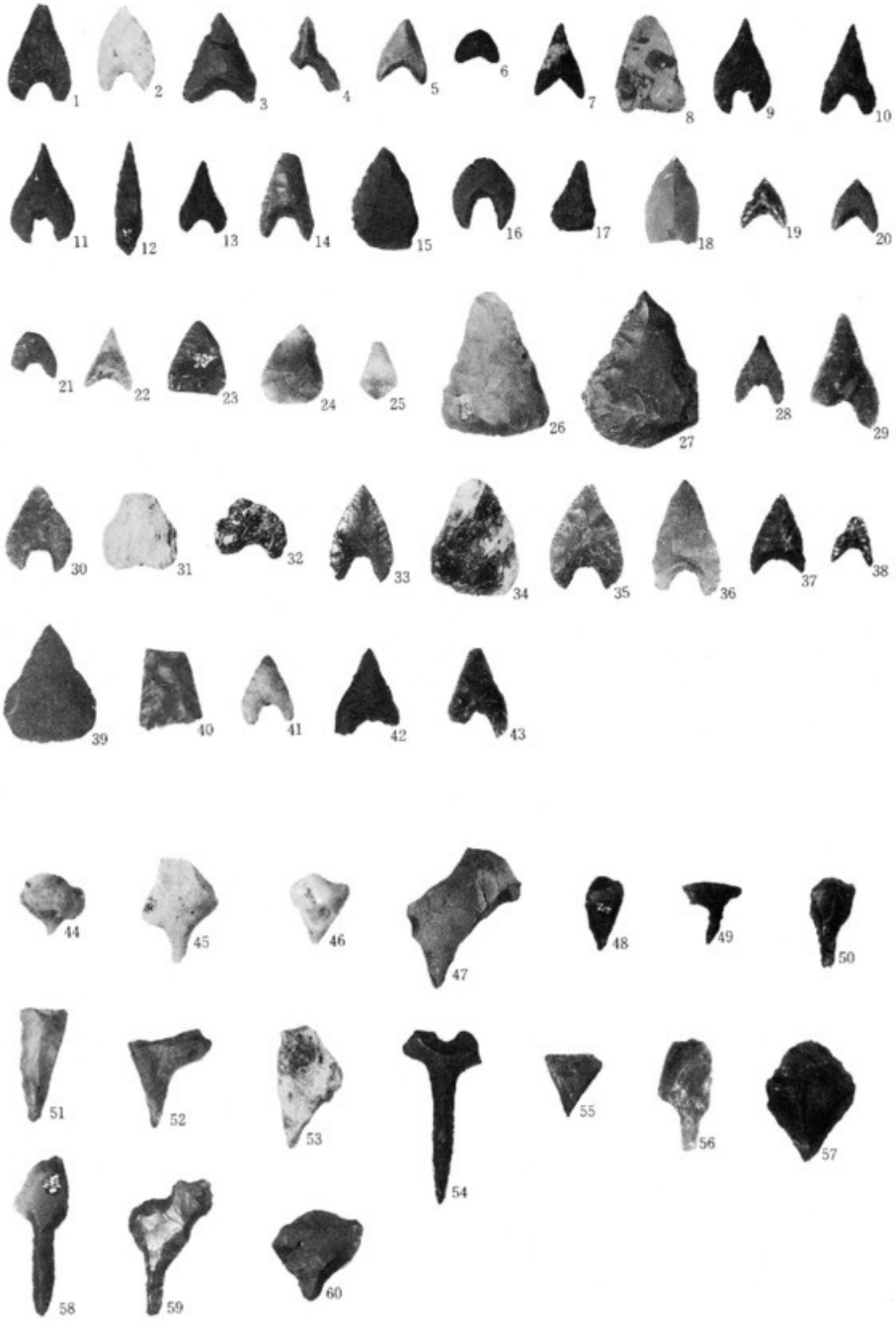


写真29　石　器　I

※石器配列は実測図に対応する。

写真30　石　器　Ⅱ

※石器配列は実測図に対応する。

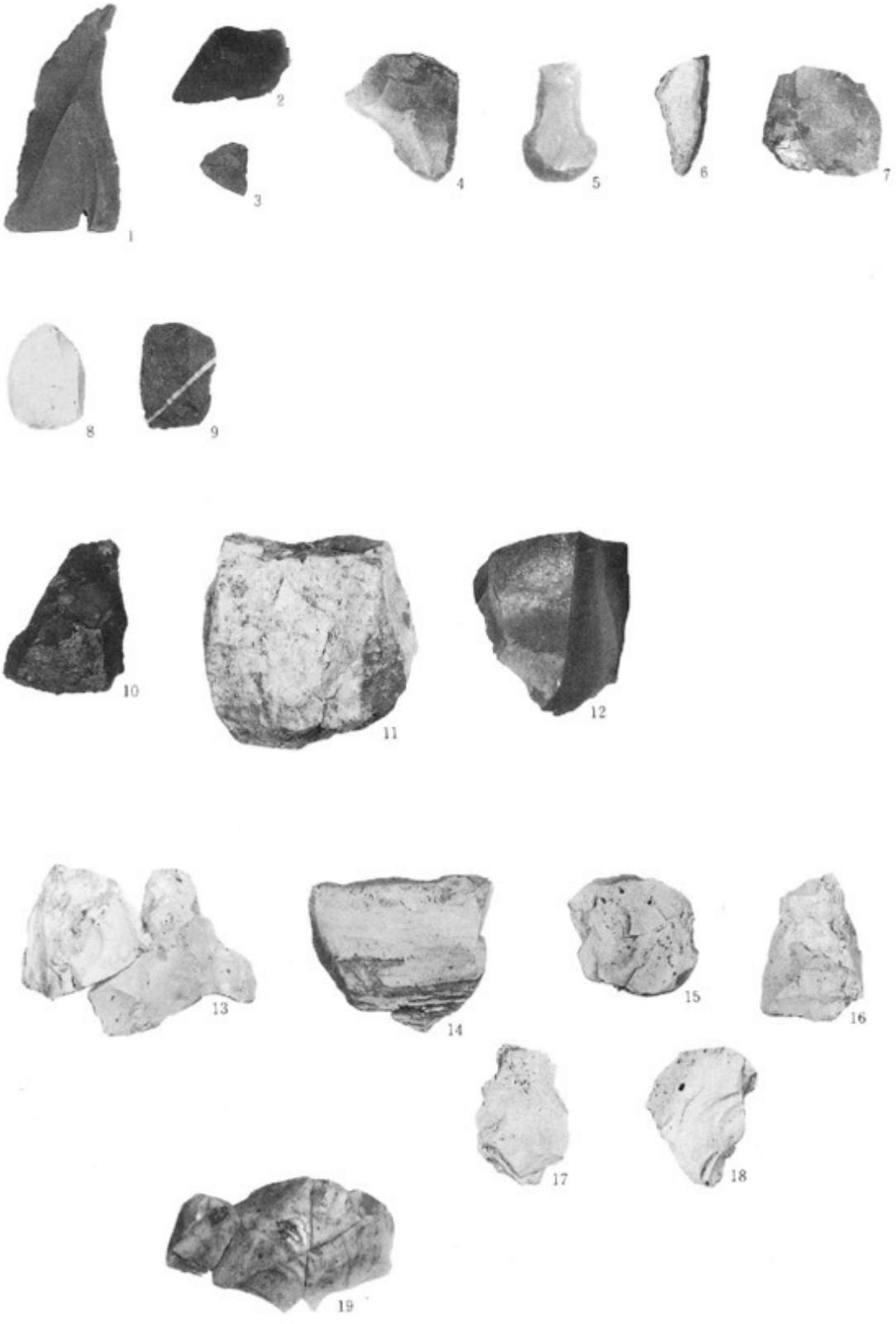


写真31　石　器　Ⅲ　　※石器配列は実測図に対応する。

写真32　石　器　Ⅳ

※石器配列は実測図に対応する。

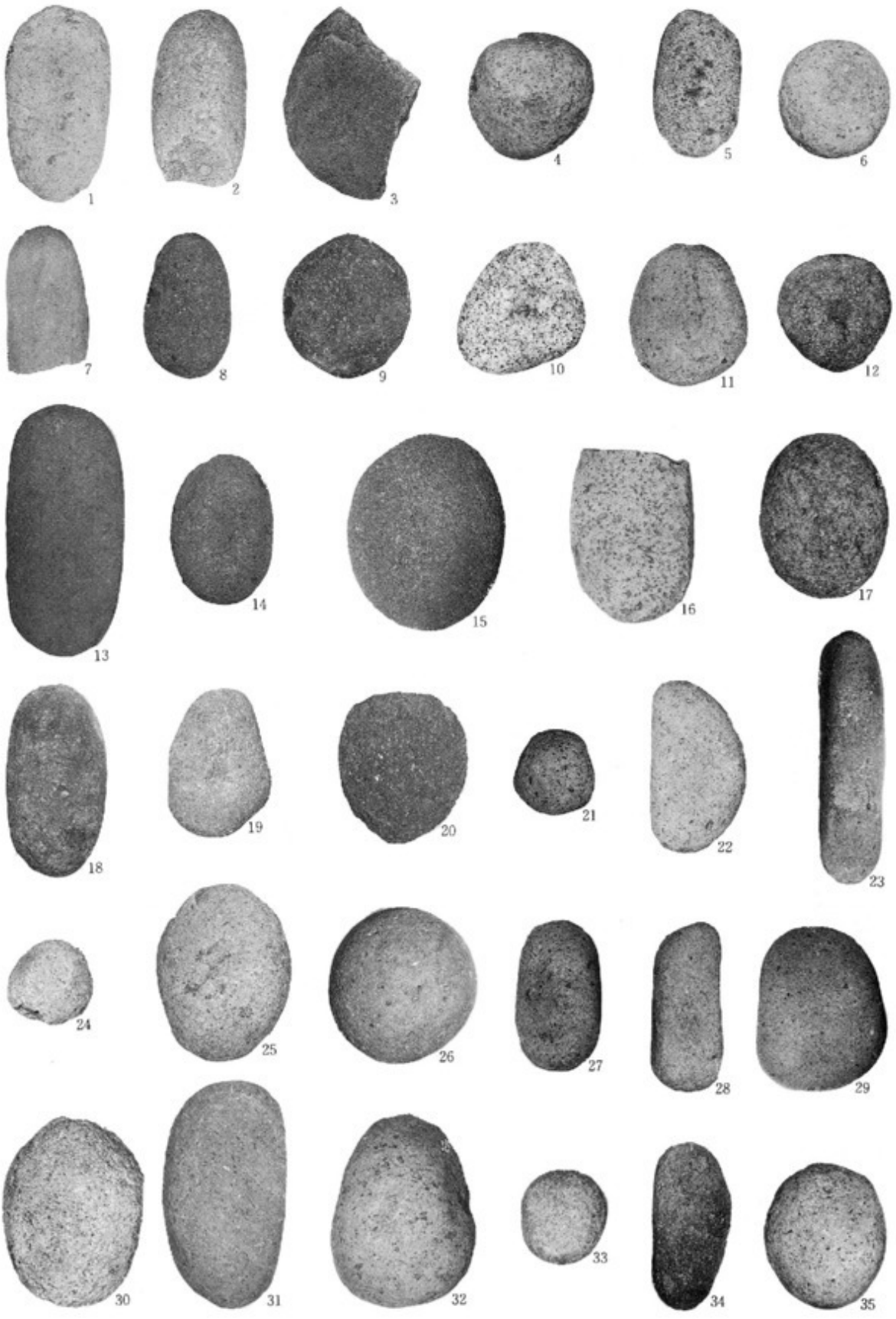


写真33　石　器　V

※石器配列は実測図に対応する。

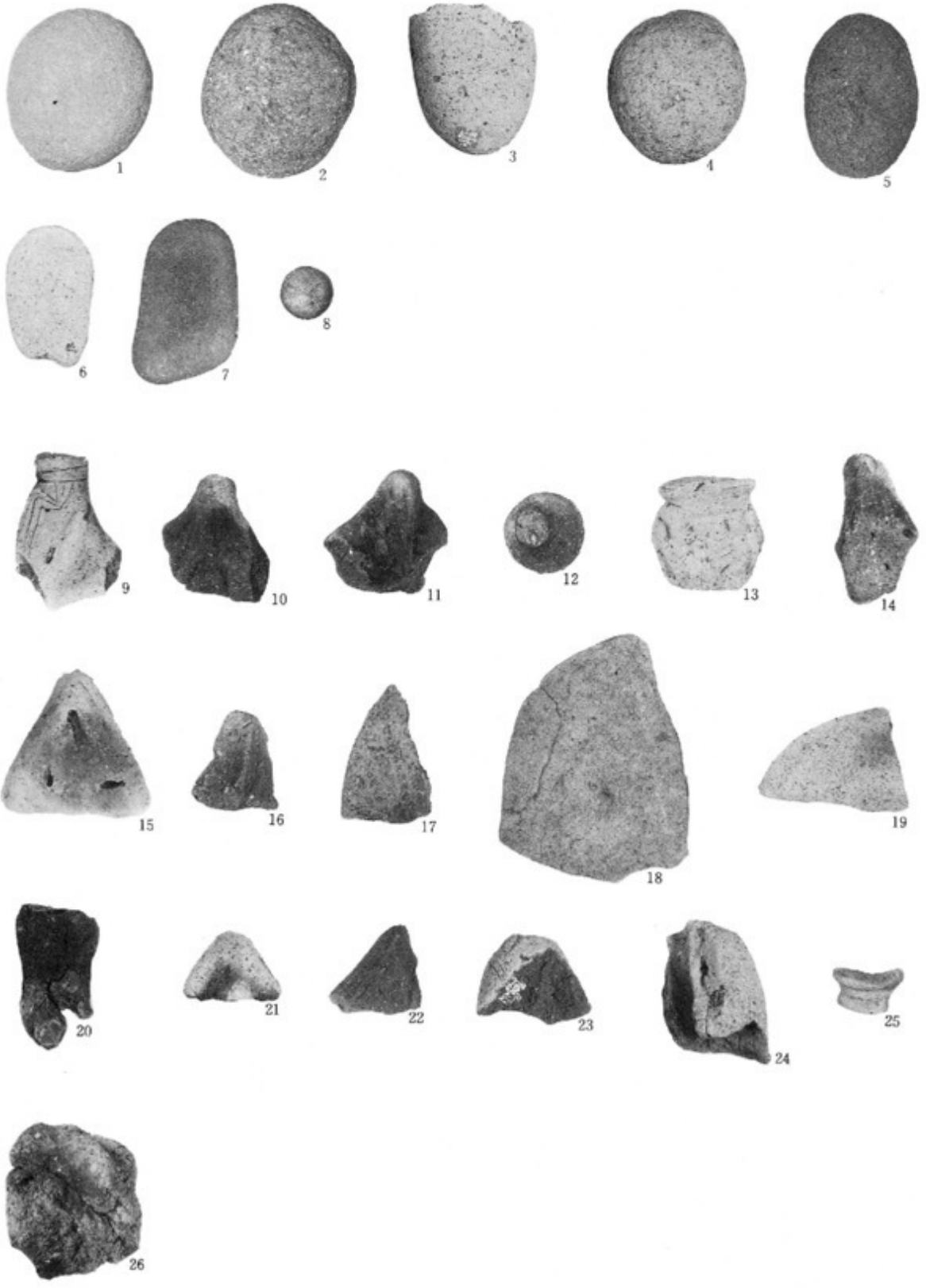


写真34　石器Ⅵ、土製品　　※石器、土製品配列は実測図に対応する。

文化財課職員録

課長　早坂春一

管理係

係長	成田時雄
主任	岩澤克輔
主事	白幡靖子
〃	山口宏

係長	佐藤隆
主任	結城慎一
教諭	佐藤好一
〃	太田昭夫
主事	篠原信彦
〃	木村浩二
〃	佐藤洋
〃	金森安孝
〃	佐藤甲二
教諭	小川淳一
主事	吉岡恭平
〃	渡部弘美
〃	工藤哲司
教諭	橋本光一

調査係

主事	主浜光朗
〃	斎野裕彦
〃	佐藤良文
〃	長島栄一
〃	工藤信一郎
〃	荒井格
〃	中富洋
〃	平間亮輔
教諭	渡辺雄二
〃	高倉祐一
主事	宮崎朗
〃	佐藤淳
〃	渡部紀
〃	大江美智代

仙台市文化財調査報告書第127集

上野遺跡

—電力鉄塔関係発掘調査報告書—

1989年3月

発行　仙台市教育委員会

仙台市国分町3－7－1

TEL　261－1111㈹

印刷　㈱東北プリント

仙台市立町24－24　TEL. 263－1166